



第2次

# 対馬市総合計画



## 後期計画 2021~2025

みなで目指す! 自立と循環の宝の島 対馬



今日のわたしが  
対馬の未来を創っている



# 対馬市





## はじめに



対馬市長 比田勝 尚喜

対馬市では、市民主体の地域づくり、市民協働のまちづくりを推し進めるため、2016年から10年間の「第2次対馬市総合計画」を策定しております。今回、本計画の前期5か年を経過することから、現状に見合う後期5か年の目標とする新たな計画となるよう改訂を行い、地域の自主性及び自立性を目指した「第2次対馬市総合計画（後期計画）」を策定いたしました。

今回の改訂においては、前期計画の実施状況及び評価を踏まえ、世界が取り組む課題でもあるSDGs及びデジタル革新により課題解決を図るSociety5.0や社会的・経済的要因などの情報及び新たな市民ニーズ等を取り込み、市民主体のまちづくりを実現する「道しるべ（手引書）」の役割を担うことを主眼といたしました。

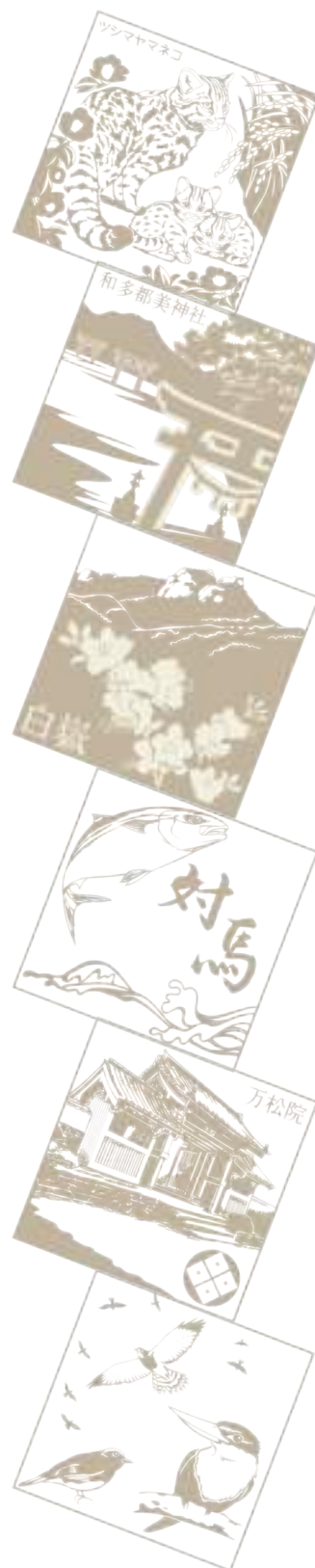
また、本計画では、「ひとづくり」、「なりわいづくり」、「つながりづくり」、「ふるさとづくり」の持続可能な4つの挑戦により「みんなが主役になる希望の島」、「地域経済が潤い続ける島」、「支え合いで自立した島」、「自然と暮らしが共存する島」を目指すべき将来像としており、前期5年間の評価や現状を踏まえて、みんなが主役になる「対馬人財の確保」、地域経済が潤うための「地産地消の推進」、支え合いで自立する「島内の移動手段の確保」、自然と暮らしが共存する「有害鳥獣対策」を横断的に取り組む最重要課題として掲げて計画を推進して参ります。

本計画の実現にあたり、人口減少や少子高齢化が進む中、本市が持続可能な地域社会を築くためには、市民と行政がこれまで以上に協働していくことが求められます。市民の皆様には、共に「自立と循環の宝の島 対馬」を創るため、今後とも一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

おわりに、本計画の策定に際しまして、ご意見やご尽力を賜りました、市民の皆様、各関係機関、市議会及び総合計画等審議会の皆様に深く感謝申し上げます。

# 第2次対馬市総合計画(後期計画) 目次

<b>第1章 序論</b>	<b>1</b>
－ 総合計画の構成とつくる意義	2
－ 計画の位置づけ、期間について	4
－ 計画の作成方法と計画推進に対する市民の関わり方	5
<b>第2章 対馬の今</b>	<b>7</b>
－ 日本の現状	8
－ 対馬市の概況	10
－ 対馬の魅力	11
<b>第3章 対馬のあるべき姿</b>	<b>13</b>
－ 後期計画策定にあたって収集した市民の声	14
－ 前期計画の振り返りと後期計画の方向性	16
－ 対馬市の人口推計と人口ビジョン	18
－ 対馬のあるべき姿 2025	19
－ 4つの挑戦と最優先課題の全体像	20
－ 対馬のSDGsについて	24
<b>第4章 4つの挑戦</b>	<b>27</b>
<b>挑戦① ひとつづくり</b>	
－ ①みんなが活躍する仕組みを創る	30
－ ②次世代の担い手の郷土愛を育む	32
－ ③大人たちが対馬の魅力を知り誇りを持つ	34
<b>挑戦② なりわいづくり</b>	
－ ①持続可能な農林水産業を展開する	38
－ ②地域経済の循環の仕組みを確立する	40
－ ③事業を承継・拡大して雇用を創出する	42
<b>挑戦③ つながりづくり</b>	
－ ①多様な主体によるしまづくりを推進する	46
－ ②持続可能な福祉と医療の体制を整える	48
－ ③持続可能なライフラインを確保する	50
<b>挑戦④ ふるさとづくり</b>	
－ ①豊かな自然環境を取り戻す	54
－ ②環境負荷の低い暮らしを営む	56
－ ③貴重な資産・資源を継承・活用する	58
<b>優先して取り組む分野横断的連携施策</b>	<b>61</b>
<b>第5章 計画を実行するにあたって</b>	<b>67</b>
<b>参考情報</b>	<b>70</b>





# 第1章 序論

## 総合計画の意義と位置づけ



この章では、総合計画の策定の意義と位置づけを明確にします。

イラスト: 対馬を代表する野生物種 ツシマヤマネコ

# 総合計画の構成～何が書かれているの？～

平成16年3月に対馬旧6町(上対馬町、上県町、峰町、豊玉町、美津島町、厳原町)が合併し、新たに対馬市が誕生して16年が経ちました。

時代とともに大きく変化する様々な環境への確に対応し、総合的かつ計画的に新しい対馬づくりを進めていくために、対馬市では総合計画を策定しています(第1章)。

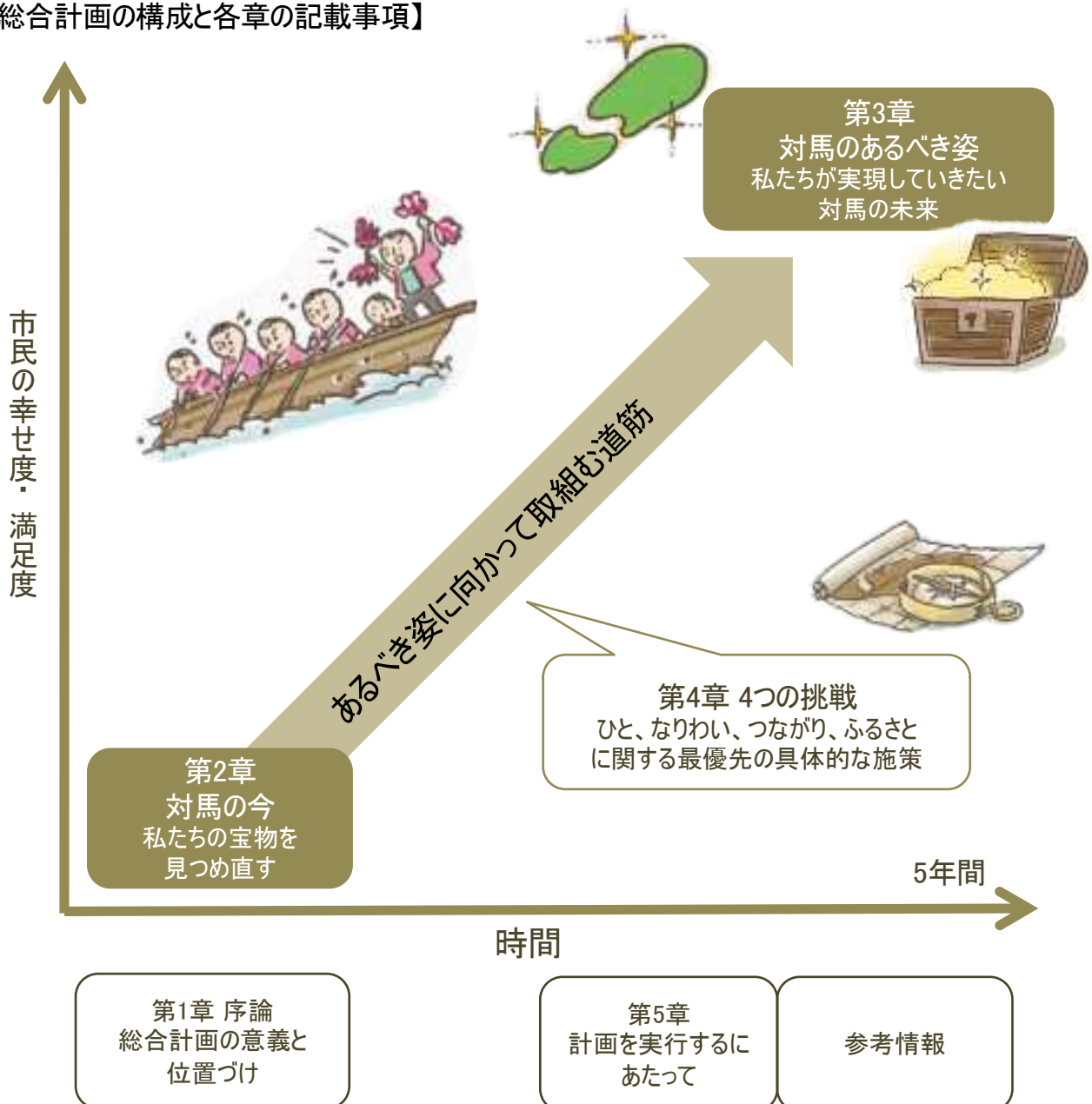
第1次対馬市総合計画は平成18年度に策定され、『アジアに発信する歴史海道都市 対馬』を目指して様々な施策を展開いたしました。これまでの成果や新たな課題を踏まえ、改めて対馬の現状や課題、あるべき姿、今後、優先して取り組む施策を見直し、平成28年度に第2次対馬市総合計画を策定しております。

第2次対馬市総合計画は、計画策定から5年が経過しましたので、取り組みの進捗や新たな社会の動き等を踏まえた計画の軌道修正を行い、令和3年度から5年間の後期計画を策定いたしました。

第2次対馬市総合計画(後期計画)では、対馬市の現状や社会情勢をふまえて、市民の声や想いを形にする「あるべき姿」を描き、そこに向かってこれからの5年間で優先的に取り組むテーマと施策を明確にしています。

本書の中で、※がついている言葉については、参考情報の「用語解説」を参照してください。

## 【総合計画の構成と各章の記載事項】



# 計画をつくる意義～なぜ総合計画を作るの？～

『計画をつくる意義』は、ものごとのあるべき姿(目標)やそのために優先して取り組む内容を定め、関係者の役割分担を明確にすることです。計画があることで、同じ目標に向かって各主体が力をあわせて行動をおこすことができます。

総合計画は、市民と行政が対馬のあるべき姿(目標)を設定・共有し、そこに向かって協力しあって取り組んでいくための道しるべ(手引書)です。この計画に沿って、対馬市職員や対馬の事業者、地域団体、地域住民等、市民一人ひとりが役割を担い、連携して取り組みを進めていきます。

第2次対馬市総合計画(後期計画)は、前期計画の進捗や社会動向の変化、現在、進めている対馬市の重要施策等をふまえた上で、市民の声や想いを反映させた計画となるように作りました。

計画を策定するにあたっては、以下のような市民の声や想いに答えられるように内容を検討し、総合計画の役割を明確にしました。



## (総合計画の役割)

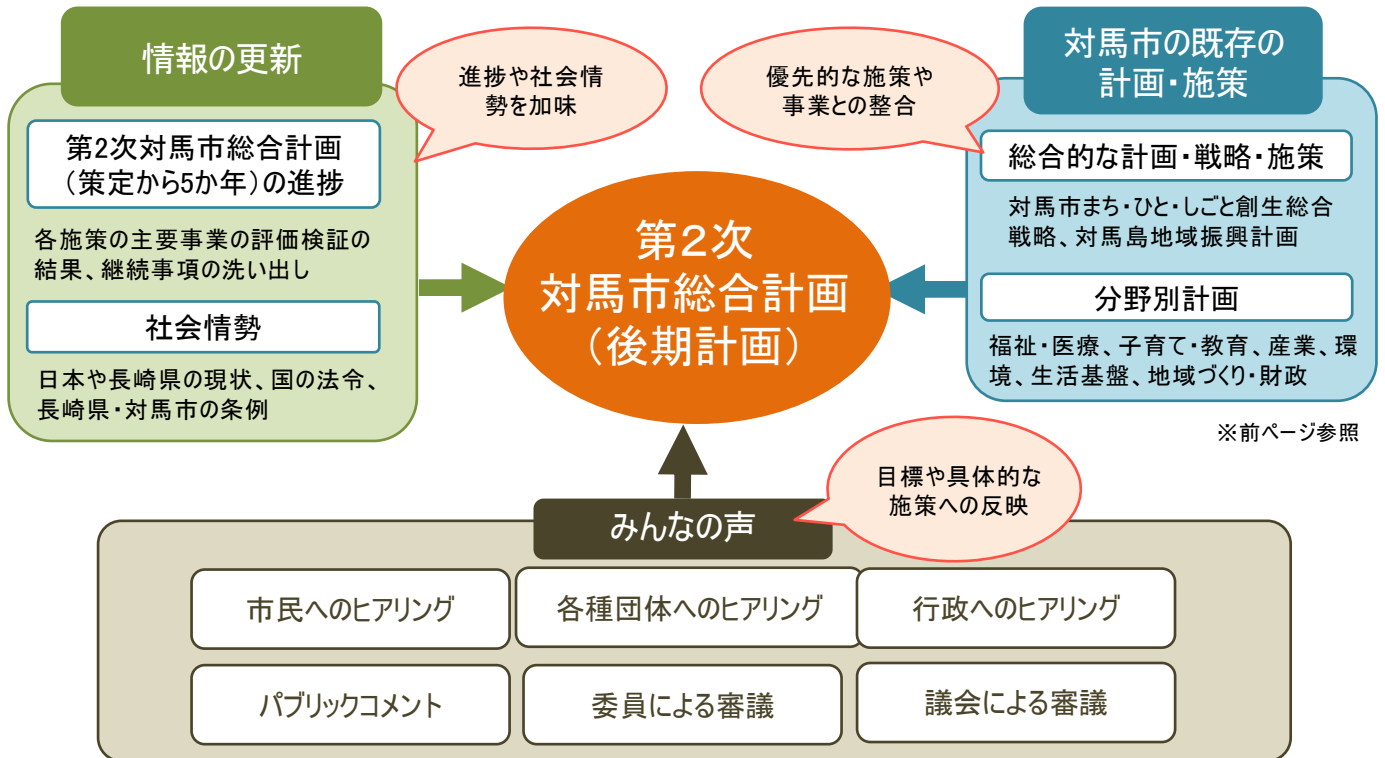






## 3) 計画(後期計画)の作成方法

第2次対馬市総合計画は、第1次対馬市総合計画の10年間の成果や課題、策定時に進めている対馬市の重要施策等をふまえた上で、市民の声や想いを聞き取り、その内容を反映させて作成しています。今回、策定する後期計画では、策定から5か年の進捗や世の中の動きを踏まえて、市役所の各担当課、市民・事業者、審議会委員、議会の意見を聞き取り、内容を修正しました。

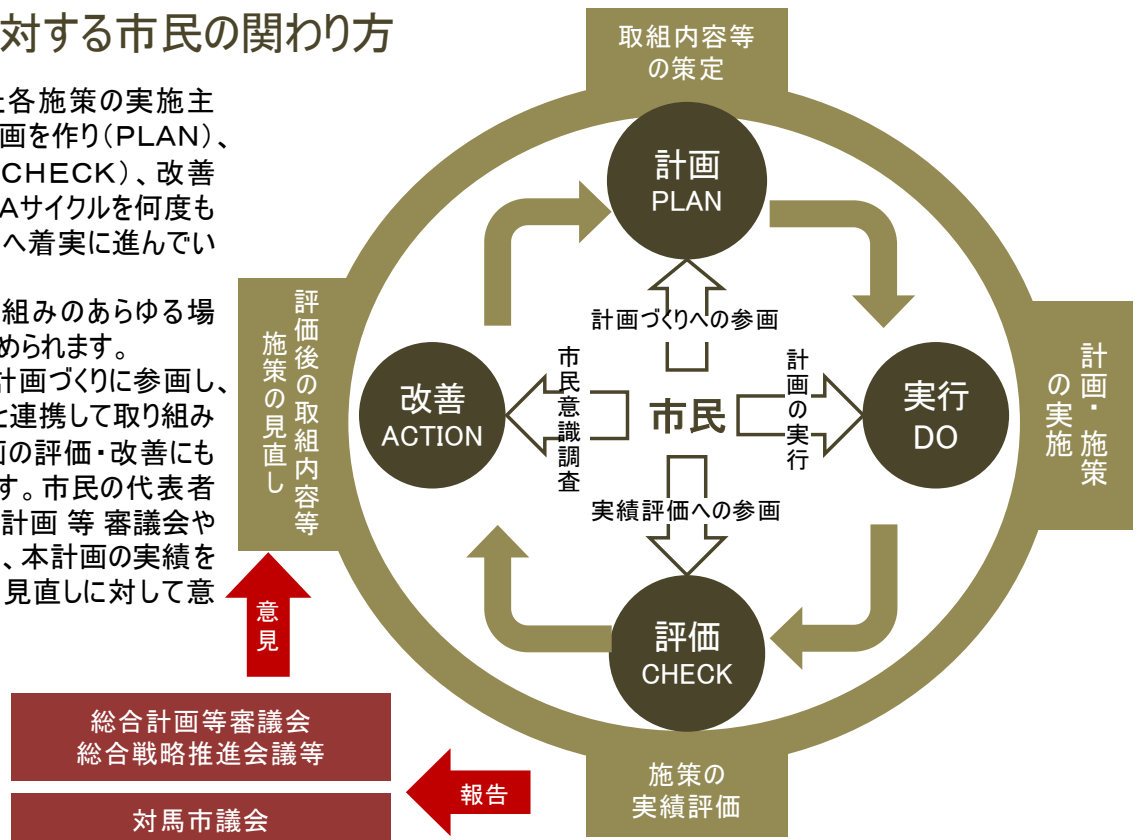


## 4) 計画推進に対する市民の関わり方

本計画に記載された各施策の実施主体は対馬市であり、計画を作り(PPLAN)、実行し(DO)、評価(CHECK)、改善(ACTION)するPDCAサイクルを何度も回すことで、あるべき姿へ着実に進んでいきます。

このような一連の取り組みのあらゆる場面で市民の関わりが求められます。

本計画策定の際は計画づくりに参画し、計画実施の際は行政と連携して取り組みを進めます。また、計画の評価・改善にも市民が関わっていきます。市民の代表者が集まり協議する総合計画等審議会や対馬市議会において、本計画の実績を評価したり、各施策の見直しに対して意見を出していきます。

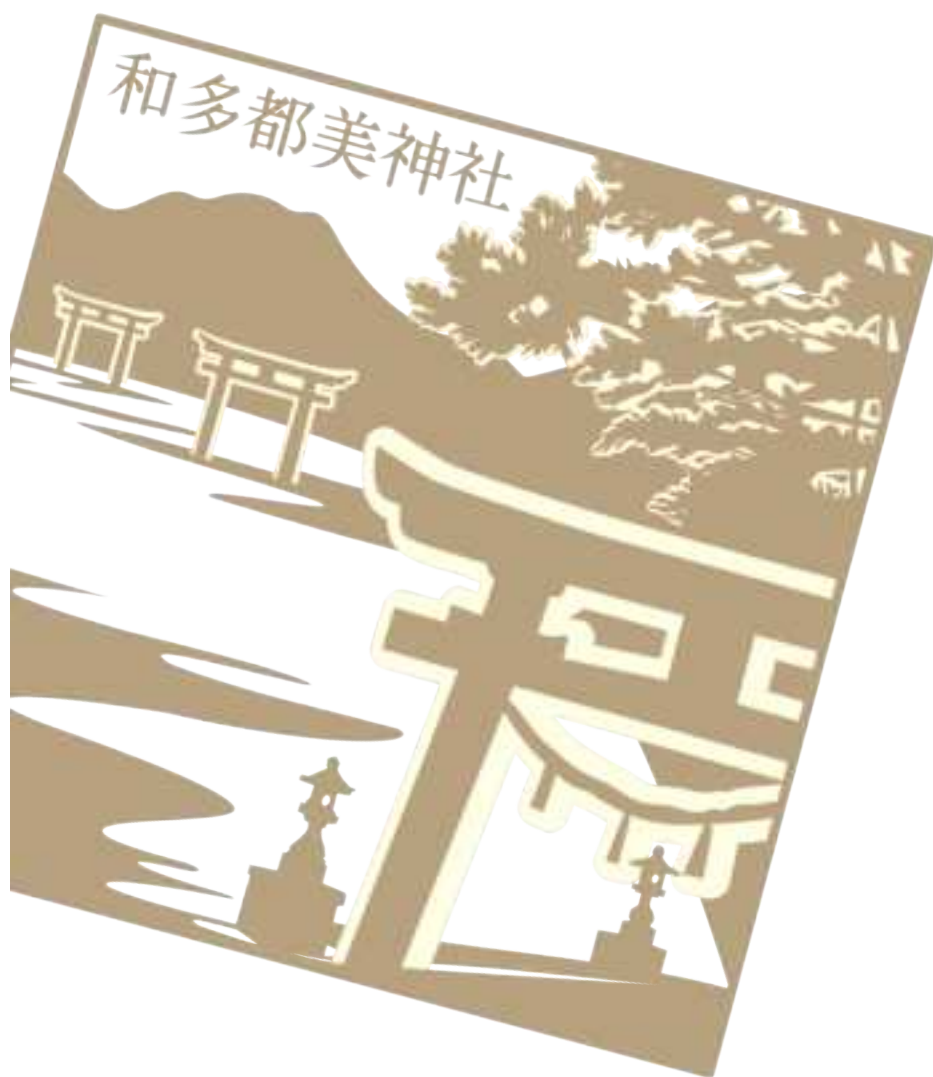




## 第2章

# 対馬の今

私たちの宝物を見つめ直す



この章では、私たちが目指す対馬のあるべき姿(目標)を設定するために、その前提となる日本や対馬の現状について、様々な情報や市民の声をもとに整理しています。

イラスト: 対馬を代表する和都美神社(豊玉町)

## 日本での人口減少と超高齢化社会

2020年1月1日時点の日本の人口は、前年に比べて50万人減少し、1億2713万8033人となっています。2040年代頃には年100万人程度の減少にまで加速し、日本の人口は約1億1000万人になると予想されています。また、3人の現役世代(生産年齢人口※)が2人の高齢世代を支える形になるとも言われています。

出生率の低下のみならず、地方から東京圏への人口集中が進んでいるため、「過密の東京圏」と「人口が極端に減った地方」に人口のバランスが偏ってしまっているのが現状です。地方に比べて低い出生率の東京圏に若い世代が集中することで、日本全体としての人口減少がさらに進んでいます。

このまま推移すると、2050年には現在の居住地域の6割以上で人口が半分に減少し、国内で2割の地域では無居住化する可能性があります。

## 地方創生の動き

人口減少への国民の危機感が高まっています。政府は、人口減少に歯止めをかけ、活力ある日本社会を維持するため、2014年9月に「まち・ひと・しごと創生本部」を設置しました。地域に住む人々が、自らの地域の未来に希望を持ち、個性豊かで潤いのある暮らしを送れる地域社会をつくることを目指しています。同年に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、様々な施策を地方自治体と連携して展開しています。2019年に第2期の総合戦略が閣議決定され、新たな横断的な目標として「多様な人材の活躍を推進する」、「新しい時代の流れを力にする」の2点が設定されました。様々な政策によって地方への若者の移住の流れが生まれていますが、東京一極集中の是正など「ひと」に関する施策は、成果が十分に得られていないのが現状です。

## 経済・社会の状況

日本は、世界トップレベルの科学技術や情報通信技術を強みとし、特に生産分野においてそれらの実用化や効果的な活用等によって世界有数の経済力を持つようになりました。2019年は、世界の国々の中で、GDP※はアメリカ、中国に次いで第3位です。しかし、多くの企業が、費用対効果の高い途上国に生産工場を移転しており、日本の産業の空洞化※が起こっています。また、一次産業の担い手が減少し、国内の食糧等の生産力の低下により、外国からの輸入に依存しており、国際的な情勢や国際的な市場の中で、資源を持続的に確保していくことが課題となっています。

今後の人口減少や超高齢化社会の中で、地方創生や働き方改革等、生き方や暮らし方が変化していく中で、経済・社会の仕組みを再構築していく必要があります。そのような中、2020年は新型コロナウイルスが世界全体に広がり、日本でも医療崩壊の危機や、観光業や飲食業、宿泊業などを中心に、経済や雇用に深刻な影響を受けています。

## 地球環境への負荷

近年、世界各国で水害や森林の大規模火災が多発しており、地球温暖化の影響による気候変動が顕在化しています。国連では国際的な条約を提携し、各国が目標を設定してCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。2020年10月、日本政府も温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロとする目標を宣言しました。

気候変動対策以外にも、私たちの暮らしは、地球環境に大きな負荷をかけています。次世代に豊かな日本を残していくためには、私たち自身の生活様式や価値観を見直していく必要があります。



## 大規模災害への懸念

日本は、災害大国です。近年、全国各地で水害、土砂災害、高潮災害、大規模地震が発生し、多くの被害者を出しています。また、原発事故による放射能汚染は、日本の未来に大きな損失を与えました。

いつどこで大規模な地震が発生するか不安をいだきながら、私たちは日々暮らしています。特に、M9.1の最大規模が想定される南海トラフ巨大地震※は、30年以内の発生確率が70~80%とされ、発生すれば、日本全体の国民生活・経済活動に極めて深刻な影響が生じます。



## 豊かさの再定義

日本では、あらゆるものが手に入り、便利なモノに囲まれて、物質的に豊かな暮らしができます。しかし、私たちは、「心が豊かである」と胸を張っていえるでしょうか？

かつて高度経済成長を支えた経済至上主義※は、金持ちが「幸せ・勝ち組・権力を持つ」という社会構造を日本にもたらしました。お金がなければ暮らしていけないため、仕事がどんなにつらくても続けなければならない社会です。また、社会や生活習慣の変化等から、家族や地域とのつながりが弱まりつつあり、精神的な安らぎや充実感、心の豊かさを感じて暮らしている人は多くないのが現状です。本当の豊かさとは何かを経済だけでなく、社会や環境の面からも改めて再定義する時が来ています。

## 持続可能な社会※やSociety 5.0 ※への転換

地球規模での環境破壊が進む中、2015年に国連がSDGs(Sustainable Development Goals) を採択しました。「貧困をなくそう」「気候変動に具体的な対策を」「産業と技術革新の基盤をつくろう」といった17項目と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。日本でも国をあげてSDGsの達成に向けて舵を切り、自治体ごとでも持続可能な社会の実現が求められています。また、Society 5.0という日本の新しい未来社会の姿が政府や経団連によって提唱されており、AI※、ロボット、ビッグデータ※などの革新技術を、あらゆる産業や社会に取り入れることにより、経済発展はもとより医療や温暖化対策、農業、人手不足等の経済や社会問題を解決することが期待されています。

## 多様な価値観と地方の時代

上述のように私たちを取り巻く社会経済状況が大きく変化する中、多様な考え方や価値観が社会に浸透し、住む場所や働き方をはじめとして、私たちの暮らしに様々な選択の幅が広がってきています。

また、健康で安全・安心な暮らしや環境に配慮した暮らしを求める口ハス※やスローライフ※の考え方への共感が富裕層や若者から広がってきています。豊かな自然や美しい景観、資源豊富な農山漁村、古くからの伝統文化とのふれあい等、心の豊かさを実感できるローカル(地域)へのあこがれや関心が高まっています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、リモートワーク※や働き方改革※が一層進むと考えられ、パソコン1台あれば、どこでも働ける人々が、新たな生き方や働き方を求めて、地方に移住してくるようになっていく可能性があります。

## 日本にとっての対馬

大陸と九州の間に位置する対馬は、古くから大陸から日本への玄関口としての役目を果たしてきました。対馬を介した大陸からの人とモノの移動により、石器文化、青銅器文化、水田稲作、仏教、漢字等、様々な文化が日本に伝来したといわれています。また対馬は、国防の最前線として、数々の国家間の争いの最前線の地でした。

江戸時代の日朝外交では、朝鮮通信使が対馬を中継して12回来日し、その道中では華やかな行列とともに文化交流も深まりました。現在でも、対馬は韓国との交流を盛んに行っており、日本にとって国防上非常に重要な役割を担っています。新たな時代を迎えるにあたって対馬が最先端の持続可能な島となり、日本全国から注目されるしまづくりを目指すことで、対馬の創生と日本社会への貢献を実現していきます。



図：大陸からの玄関口である対馬

日本地図を逆さにすると、対馬が大陸に最も近く、日本への玄関口になっていることがわかります。

(富山県が作成した地図(の一部)をもとに作成)

# 対馬市の概況

韓国に一番近い島(49.5km)。  
 日本で三番目に大きい島(709km<sup>2</sup>)。  
 固有の動植物を大切に守り、伝えてきた島。  
 対馬には、誇るものがたくさんあります。  
 今、時代は、決して凧のように穏やかではありません。  
 それでも力をあわせれば、もっと様々なことができる。  
 可能性が広がる。  
 自由な発想と創造力で、次の時代へ。  
 対馬市の航海ははじまったばかりです。

## 対馬市の市章(シンボルマーク)



対馬市の頭文字「つ」を6つ使い、合併した6町を表しています。また、対馬の歴史と未来への発展をつなぐ時間の流れを表しています。

## 対馬市のプロフィール

【人口】29,465人  
 (令和2年12月末現在)

【位置】九州の最北端に位置し、南北に82km、東西に18kmと細長く、海岸線は915km、標高500m前後の山々からなる島であり、福岡までは、海路138km、釜山まではわずか49.5kmである。

【気候】暖流である対馬海流が対馬を二分して北流しているため、年平均気温は約15℃と比較的温暖である。秋から初春にかけては大陸から吹く北西の季節風の影響を受け冷え込むことが多いが、四方を海に囲まれているため雪はほとんど降らない。夏は、海風により大地に熱がたまらないため、本土よりも涼しく、9月は台風シーズンで雨量も増すが、直撃することは少ない。

【アクセス】島外の交通は、航空路と海路がある。航空路は対馬やまねこ空港から福岡空港・長崎空港へそれぞれ就航し、海路は厳原港から博多港に高速船とフェリーが、比田勝港から博多港にフェリーが、厳原港・比田勝港から釜山に高速船が、それぞれ運航している。島内の交通手段は、自家用車または、バス・タクシーである。



対馬市の花 ゲンカイツツジ



対馬市の木 ヒトツバタゴ



対馬市の鳥 コウライキジ





## 美しい自然が残る島、対馬

対馬は89%が山林で占められており、雄大で美しい自然に覆われています。厳原町の龍良山や美津島町の白嶽には原始林※が残っており、国の天然記念物※に指定されています。中央部の浅茅湾は複雑に入り組んだリアス式海岸※であり、真珠・マグロ等の養殖業やマリンレジャーを支えています。

ツシマヤマネコをはじめ、ツシマテン、チョウセンイタチ、ツシマサンショウウオ等、対馬の生き物には、かつて大陸と陸続きであった「島」ならではの地理的・歴史的な条件が色濃く反映されています。最近では、琉球大学の調査チームによりカワウソが発見され、話題となりました。対馬の自然の豊かさを実証するとともに、大陸との近さを実感する出来事となりました。

対馬は、渡鳥にとってロシア・中国等の繁殖地と、東南アジア等の越冬地の中間に位置するため、春と秋の渡りの時期には、アカハラダカやヤマショウビン等の数多くの珍しい野鳥を観察することができます。

植物に目を向けると、島内には原始の照葉樹林が数多く残っています。また、ヒトツバタゴやゲンカイツツジ、オウゴンオニユリ等、四季折々の美しい植物が花を咲かせ、人々を魅了します。また、大陸に近いという地理的条件から、日本では対馬にしか生息しない植物が多いのも特徴です。ウスギワニグチソウやツシマギボウシ、ハクウンキスゲ等、春から秋にかけて咲く貴重な花々も見られます。



龍良山



ツシマヤマネコ

## 森里海の資源の豊かな島、対馬

対馬市の産業は周囲に広がる豊富な漁場と広大な山々によって支えられ、発展してきました。国内でも有数の水揚げ高を誇る水産業、豊富な森林資源を活用した製材やしいたけの生産を中心とする林業、そして地の利を生かした観光業が主要な産業です。

島を囲む漁場は対馬暖流と沿岸水の混合によって変化に富み、沿岸一帯は磯場が広がる好漁場として、アワビやサザエ、ウニ等の磯もの、ブリ、アジ、サバ、イカ、タイ、アナゴ等の水揚げがあり、アナゴは、日本屈指の水揚げ量を誇ります。また、浅茅湾を中心にマグロや真珠、ヒオウギガイ等が養殖されています。

対馬のひのき材(対州桧)は材質が硬く、心材は淡いピンク色をして、香り高いことが特徴です。また、しいたけは、長崎県内生産量の99%を対馬が占めています。乾しいたけは、肉厚の「どんこ」が特に良質で、全国しいたけ品評会においても高い評価を受けています。

対馬の農地は陸地の1.3%ですが、米づくりに加え“対州そば”の栽培も盛んです。近年では、ヤマネコと共生する農業を目指して減農薬や有機農法による米づくりが上県町佐護地区等で行われ、佐護ツシマヤマネコ米としてブランド化されています。



マアナゴ



対馬産のひのき



しいたけ(左)  
甘鯛(紅王)の刺身盛り合わせ(右)



ニホンミツバチのはちみつの収穫の様子



厳原町椎根の石屋根倉庫

【日本遺産に指定された13点】



日本遺産

金田城跡
対馬の亀ト習俗
豆穀の赤米行事
対馬藩主宗家墓所
万松院の三具足
銅像如来坐像
清水山城跡
金石城跡
旧金石城庭園
朝鮮国信使絵巻
対馬藩お船江跡
佐須奈港 (佐須奈日向改番所跡)
鰐浦 (朝鮮通信使寄港地、 ヒツパ` ㄱ` 自生地)

## 魅力的な人々が暮らす島、対馬

多くの市民が、対馬の人は「親切で、人情に厚く、優しい」と認識しています。また、移住者や対馬に学びにきた大学生も声をそろえて対馬の人の良さに感動したと言っています。特に、おすそわけ文化は都会の若者を魅了し、再来島する学生も多くいます。

対馬には、豊かな自然の中で培われ、継承された伝統や文化、暮らしの知恵・技術等が多く残っています。例えば、山の斜面を利用した伝統的焼畑農法である木庭作(こばさく) ※、原種に近いソバや在来種※の赤米の栽培、ニホンミツバチの養蜂、磯の資源採取を行う採介藻漁業等があげられます。

伝統的な祭りや地域行事等も多く残っており、今でも毎年開催している地域もあります。また、農村や漁村集落における住民の絆は強く、日々の暮らしの中で、助け合い、支え合っています。

## 大陸と日本をつなぐ日本遺産の島、対馬

日本本土と大陸の間に位置することから、対馬は、古代よりこれらを海上交通で結ぶ交易・交流の拠点でした。特に朝鮮との関わりは深く、中世以降、朝鮮との貿易と外交実務を担い、中継貿易の拠点や迎賓地として栄えました。その後、中継地の役割は希薄になりましたが、史跡や城跡、特産品、民俗行事等にも交流の痕跡が伺えます。

例えば、対馬の文化財13点が日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋」構成文化財に認定されています。また、日本ではこの地方だけで見られる独特の建物で県指定有形文化財※に指定されている厳原町椎根の石屋根倉庫は、多くの観光客が訪れています。

対馬は、現在も日本とアジアの国際交流の架け橋となっており、朝鮮通信使行列の再現をはじめ、国境マラソンや日韓合同海岸清掃活動等、様々な日韓交流イベントが行われています。また、対馬高校ではハンゲルや韓国文化を学ぶ国際文化交流コースが設置され、未来の日本を担う高校生が国際交流の基礎を習得しています。



金石城跡



対馬藩お船江跡



金田城



「朝鮮国信使絵巻(文化度)」(提供：長崎県対馬歴史研究センター)



## 第3章 対馬のあるべき姿

私たちが実現していきたい対馬の未来



この章では、市民から拾い集めた対馬への想い(将来こうなってほしい・こうしたい)を反映させた「対馬のあるべき姿」を描いています。また、前期計画の進捗や改善点をふまえた後期計画の改定の方角性を記載しています。

イラスト: 対馬を代表する霊峰 白嶽(美津島町)と対馬市の花 ゲンカイツツジ

# 後期計画策定にあたって収集した市民の声

後期計画策定にあたり、市民にヒアリングを行いました。その結果の一部を抜粋し、概要を紹介します。

## ひとつづくり

### 若者の移住・定住の推進

- ・対馬で暮らす若者を増やすために、大胆な移住政策を作れないか。例えば、若者が移住したくなるようなおしゃれな住環境を整備して、空き家バンクに登録したり、移住の窓口を行政だけでなく事業者や市民が担うなど
- ・女性が集まれるコミュニティスペースを増やしたり、婚活や出会いの場をさらに増やすことはできないか
- ・対馬出身者が多くいる福岡とのつながりをさらに強化し、移住や雇用に関する情報の提供などを進める

### 対馬らしい働き方の検討・生きがいの創出

- ・副業制度を導入し、自由な働き方を選べる社会にできないか。例えば、半農半福祉などの働き方を推進できないか
- ・季節ごとに担い手が不足する様々な業種が参画し、若者、女性、高齢者、障がい者等が仕事ができるような人材バンクの仕組みの整備などが考えられないか
- ・国際交流の拠点となる島であり、そのような外国人の受け入れの仕組みをもっと積極的に考えても良いのではないか

### 子育ての手厚い支援

- ・子育てがしやすい地域づくりやサービスの充実を図れないか。例えば、地域での子育てサポートや子ども達が遊べる施設の拡充、土日でも利用できる図書館等

### 郷土を愛する“対馬っ子”の育成

- ・廃校にさせないような取組みをもっと積極的に進められないか。例えば、里親制度を法人として受入ができるようにしたり、高校での専門学科（農林水産業や技術系等）の設立などを検討できないか
- ・総合学習での野外活動や移動手手段の確保、部活動のための予算をもっと確保できないか

### 生涯学習の推進と広報広聴の強化

- ・生涯学習や仕事の会議などをリモートでも円滑にできるように、通信環境を充実させてほしい
- ・対馬の情報を知るために、ケーブルテレビを情報発信ツールとしてもっと有効活用できないか
- ・「対馬市市民憲章」のような対馬市民として理想的な人物像を設定して、それをことあるごとに発信するのはどうか

## なりわいづくり

### 持続可能な水産業の推進

- ・近年は不漁も多く、設備投資に見合った水揚げができない場合があるので、漁船や設備投資への補助率を上げられないか
- ・水産資源の付加価値を高めて、一人当たりの水揚げ額や水揚げ量（売り上げ）を維持するための仕組みが作れないか
- ・資源が少なくなってきたので、資源の保全を目的に大規模な巻き網や底引き漁船などをどうにかできないか
- ・磯焼けの問題を解決できるように、食害生物の捕獲や利活用、藻場の再生活動などにもっと力を入れていくべき
- ・地元の食材として魚をもっと食べて島内需要が高まって欲しい。スーパーの鮮魚を移動販売で集落まで届ける方法を検討できないか

### 持続可能な農林業の推進

- ・耕作放棄地の解消のために、各町に公社機能を有する組織や集落営農組織が必要では
- ・バイオマスボイラーをつけたハウス栽培を導入して、高く売れる果物や野菜などを大規模に生産できないか
- ・農業の担い手として島外からの移住者を募るために、耕作放棄地や未利用な施設・設備等を貸し出せないか
- ・兼業もしくは副業的に集落で畑や田んぼを管理し、みんなが空いている時間に農業をできる仕組みを作れないか
- ・しいたけ原木以外にも広葉樹の森を利用する方法を別に考えないと利活用や管理が進まないのでは
- ・適正な森林管理のためには、ゾーニングと森づくりの長期的な目標や計画づくりが必要では

### 持続可能な観光業の推進

- ・観光のために整備したほうがいい場所に集中的・計画的にお金を使っていく必要があり、優先順位を明確にする必要があるのでは
- ・対馬の魅力を知ってもらうためには、長期滞在型の観光に力を入れていくべきでは
- ・対馬の観光はガイドが必要。ガイドを増やし、活かせるトータル的なコーディネート組織も必要では

### 新たな産業の創出と持続可能な企業経営

- ・どのような産業を育てていきたいかを整理して、それに対する担い手や起業家を確保していく視点が必要ではないか
- ・有人国境離島の事業拡大制度も、対馬島内の事業者だけではなく、島外企業の誘致にもっと積極的に活用すべきでは

## つながりづくり

### 多様な主体によるしまづくりの推進

- すべての集落を維持していくのは限界があるので、ある程度生活基盤が整った地域などを優先的に整備していくべき
- 現在の地域マネージャー制度※をより機能させるために、制度の見直しをすべき
- 横断的な課題が多いので、SDGs推進本部のようなものを作って、一体的に政策を進めてほしい

### 国内外の交流の推進

- 水産資源の管理や漂着物の問題等、法律だけでは守りきれない部分があるため、地先権を再構築して、地元市民が土地を守っていく必要がある
- 韓国人観光客が日本文化を学べる教室や場づくりにもっと積極的に取り組んでほしい
- 韓国だけではなく、台湾や中国などへアクセスできるようになれば良い

### 持続可能な福祉と医療の体制の充実

- 健康づくりのための運動習慣の必要性をもっと啓発していくべきでは
- 移動手段のない人が不自由ないように、商店や小さいお店が運営できるような環境や仕組みを再構築できないか

## ふるさとづくり

### 多様な生物と共生する里地里山づくり

- 効果的な鳥獣害対策を進めるためには、知識のある専門家の協力を得て科学的根拠に基づいて計画を立てる必要がある
- 森林の経済的価値を減らさないために、多様な視点から専門家を招聘して委員会などを作り、計画を策定し、実行に移せる仕組みづくりが必要
- 環境分野に関しても部署が縦割りになっていて、連携して取り組みをつくっていかないといけないので、どの部署にも鳥獣害対策として自由に動けるような仕組みと予算化が必要
- 林業従業者と有害鳥獣対策のところが連携できていない。伐採する場所や罠を仕掛ける場所を関係者で決めれば、連携できるようになるのでは
- 対馬市の伐採ガイドラインがあるが、尾根筋は残すとか、海の近くの林は残すとかが記載されているだけで、鹿の観点が入っていない
- 外部からでもいいからハンターを雇ってきて、例えば、3万頭を1万頭まで減らしたら、ワイヤーメッシュを張る必要がなくなる。そういう発想の転換をしないと対馬の鳥獣は減らない

### ごみの削減とリサイクルの推進

- 市民がごみを捨てていることについて、教育や普及啓発の面で、子ども達に拾ってもらうのが大事なのではないか
- 漂着ごみのうち、木材などが多く、山の荒廃が原因ではないか。イノシシ、鹿の鳥獣被害によって、山の保水能力の低下なども見られる。漂着ごみ対策の一環として鳥獣被害対策も進めなければならないし、土壌が流出しないような対策をとれないか
- 韓国の環境団体と具体的な情報を共有しながら、日本も韓国もごみを削減していけるような取組ができないか

### 貴重な資産・資源の継承・活用

- 消えゆく伝統料理の継承は課題。そば打ちなど、技術職を求める人材も来なくなっている。そば打ちの技術を伝承していきたい
- 廃校を実際に利活用を進めようとしたときに、学校を市民や事業者が使うハードルが非常に高い。産業を起し雇用を生むこと自体が集落の維持に重要だという点で言えば、公共的な施設を無償提供するなどの仕組みの緩和ができないか。

# 前期計画の振り返り

第2次対馬市総合計画策定から5か年の進捗や評価を検証するために、市役所の各担当課による自己評価を行った上で、総合計画等審議会による評価を行いました。審議会の評価が高い(A・B・C判定)課題・施策は、継続・拡充又は終了を基本に、評価項目が適切でなく評価できない施策など評価が低い(D・E判定)課題・施策テーマについては、目標数値の見直しを基本に審議会において検討しました。なお、評価は、実施事業評価及び目標項目毎の個別評価を参考に、全体評価(施策のテーマ)をA～Eの5段階で判定しています。

挑戦	最優先課題	施策のテーマ	審議会の評価	見直しの方向性
ひとづくり	子どもを大切に育てる	手厚い出産・子育て支援	B	継続
		地域を愛せる心豊かな子どもを育む教育の推進	A	継続
	若者が暮らせる環境づくり	対馬3高校への支援	C	継続
		対馬の若者の定住支援	C	継続
	外から若者を招き入れる	島外からの移住・定住支援	C	継続
		大学と地域との連携推進	B	継続
なりわいづくり	良質な対馬製品をつくる	資源の有効活用による水産業の活性化	C	継続
		農地の有効活用と農業所得の向上	B	継続
		森林資源の有効活用の推進	B	継続
	対馬産品に高付加価値をつける	島内での供給システムの構築	E	目標の見直し
		新規参入事業者の誘致と既存事業者への支援による商工業の活性化	A	継続
		島外での販売に向けた推進体制の強化	B	継続
	観光客の誘致による活性化	観光客への発信・PRの強化	A	継続
		観光客の受入体制の整備	B	継続
		外国人観光客へのきめ細やかな対応	A	継続
	ワクワクする新しい仕事の創造	創業等支援事業の推進	B	継続
つながりづくり	福祉と医療の体制を整える	救急医療体制の充実	B	継続
		対馬版地域包括ケアシステム※の構築	E	目標の見直し
		高齢者・障がい者の生きがいの創出	A	継続
	島内外の移動手段を確保する	島内の道路網の整備	D	目標の見直し
		島内の公共交通の利便性向上	A	継続
		島外への交通アクセスの利便性向上	B	継続
	人と人とのつながりを守る	市民協働によるまちづくりの推進	B	継続
地域で進める健康増進		E	目標の見直し	
ふるさとづくり	安心安全のインフラ整備	校区単位での暮らしの基盤整備	D	継続・強化
		産業振興のための整備	E	事業の見直し 目標の見直し
		安全安心のまちづくりの整備	C	継続
		地域資源を生かしたエネルギーの自立	E	事業の見直し 目標の見直し
	歴史・文化を未来に残す	対馬固有の遺跡や文化財の保存・活用	E	継続
		地域の特性を生かした生涯学習の推進	B	継続
	きれいな地域をつくる	漂流・漂着ごみの回収	D	強化
		ごみの削減とリサイクルの推進	C	継続
	自然の保全と持続可能な利用	里山～シカ・イノシシ対策の推進～	C	継続
		里地～ヤマネコ・野鳥との共生～	C	継続
	里海～海洋保護区設定の推進～	E	事業の見直し 目標の見直し	



# 後期計画の方向性

本計画策定から5か年の進捗評価(各担当課および審議会)、担当課へのヒアリング、市民へのヒアリング、全国の動向把握を踏まえた上で、後期計画の策定の方向性を以下の通りに決めました。

## ●各施策の継続・改善・強化について

挑 戦	継続する施策	改善・強化する施策
ひとづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産・子育て支援</li> <li>・魅力的な学校教育の推進</li> <li>・域学連携の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しまづくり人財の確保</li> <li>・移住・定住対策</li> <li>・3高校の魅力化</li> <li>・生涯学習と広報広聴</li> </ul>
なりわいづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な水産業の推進</li> <li>・持続可能な農林業の推進</li> <li>・持続可能な商工業の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光業の活性化</li> <li>・島内流通の構築</li> <li>・新規事業や事業承継による雇用確保</li> </ul>
つながりづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の交流</li> <li>・健康づくりと医療の充実</li> <li>・福祉の充実</li> <li>・生活インフラの維持と安心・安全のまちづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な交流による地域づくりの推進</li> <li>・地域包括ケアシステムの構築</li> <li>・島内の交通システムの利便性向上</li> </ul>
ふるさとづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生物と共生する里地里山づくり</li> <li>・再生可能エネルギーの推進</li> <li>・美しい景観の保全と未利用な資産の利活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋資源の保護と豊かな里海づくり</li> <li>・有害鳥獣対策</li> <li>・ごみの削減とリサイクル</li> </ul>

## ●分野横断的に取り組む課題について

対馬市が直面する多くの課題は、様々な分野にまたがるが多いため、分野横断的に特に優先して取り組むべく4つのテーマ(対馬人財の確保、地産地消の推進、島内の移動手段の確保、有害鳥獣対策)を設定して、市の分野ごとの部局を超えた連携施策に力を入れて取り組んでいきます。

## ●新たな課題・施策について

新たな課題を解決する取り組みとして、次の視点を計画に反映させました。

- ・ SDGs・・・世界が取り組む持続可能な開発目標
- ・ Society5.0・・・デジタル革新により経済発展と社会的課題の解決を図る未来社会のコンセプト
- ・ 市民総活躍・・・対馬市民全てが活躍する社会
- ・ リモートワーク・・・場所を制限されず会社以外の遠隔な場所で業務を行うこと
- ・ 働き方改革・・・すべての働く人が、それぞれが抱える個別の事情に応じて不自由を感じることなく働ける環境を整備するための改革 等

## ●施策の再整理について

総合計画の内容を関係者が理解し、「羅針盤」として活用できるように、前期計画では4つの挑戦を36の施策に分けていましたが、後期計画では4つの挑戦を24の施策に整理しました。(P82参照)

# 対馬市の人口推計と人口ビジョン

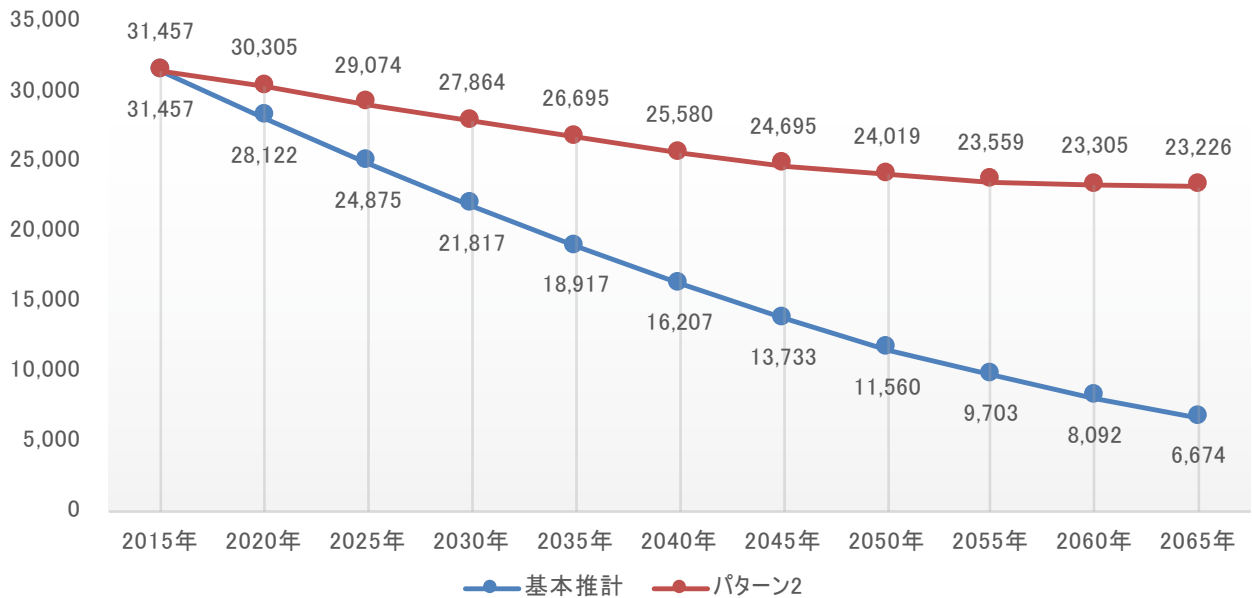
## ■対馬市の人口減少はさらに進んでいく見通し

将来的に合計特殊出生率※と社会移動が変化することを想定して、対馬市で起こりうる状況を想定した6パターンで将来人口を予測しました。対馬市長期人口ビジョンの中での推計によると2025年には、対馬の人口は、24,875人～29,587人になると推定されました。

### 【対馬市の将来人口の長期的見通し】

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
基本推計	31,457	28,122	24,875	21,817	18,917	16,207	13,733	11,560	9,703	8,092	6,674
パターン1	31,457	28,204	25,026	22,008	19,115	16,391	13,914	11,744	9,890	8,282	6,867
パターン2	31,457	30,305	29,074	27,864	26,695	25,580	24,695	24,019	23,559	23,305	23,226
パターン3-α	31,457	28,752	26,236	23,927	21,762	19,759	17,935	16,386	15,131	14,095	13,213
パターン3-β	31,457	30,333	29,587	28,594	27,206	25,922	24,717	23,628	22,646	21,799	21,026
パターン4	31,457	28,900	26,721	24,926	23,471	22,281	21,215	20,342	19,710	19,255	18,896
パターン5	31,457	28,804	26,506	24,574	22,925	21,446	20,095	18,981	18,146	17,521	17,029

基本推計：社人研推計準拠 パターン1：出生率2.4固定 パターン2：パターン1+移動均衡 パターン3-α～パターン5：独自推計



## ■2025年の目標人口

合計特殊出生率を2.4人として、社会移動を2040年までに均衡にさせること(パターン2)により、対馬市の2025年の人口は、29,074人になると推定されます(上図参照)。

このことから、対馬市は「対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、人口減少対策(出産子育て・雇用対策・移住対策等)を最優先施策として取組むことで、特に、出産可能年齢の女性の割合を高め、人口を30,000人にすることを目標とします。



## 若者を中心に対馬がにぎわっている

対馬の魅力に惹かれた多くの若者が対馬で暮らし、対馬に賑わいを与えている。また、女性や高齢者、障がい者を問わず、対馬で暮らす市民が対馬らしい働き方や生き方を追求し、幸せや豊かさを実感しながら、しま暮らしを楽しんでいる。

## 未来を創る子どもたちに対馬愛が育まれている

出産・子育てに対する支援が充実しており、地域で子育て世代を支援している。学校や地域が連携して子どもたちを育てることで、子どもたちの郷土愛が生まれ、しまづくりの担い手として成長している。

## 対馬の大人たちが対馬に誇りを持っている

大学と地域との連携や生涯学習の場づくりが進み、市民一人ひとりが対馬の魅力や素晴らしさ、豊かさ、課題を深く知る機会が増えている。そのことで、市民が対馬に誇りを持って暮らしている。

## 一次産業が持続可能な形で続けられる

市民が自然の恵みを持続可能な形で活用し、農林水産業が成り立っている。半農半漁のような多様な働き方をする市民が増え、一次産業の担い手が確保されている。

## 観光産業等で地域経済が活性化している

自然・歴史・文化・人などの地域資源を生かしたおもてなしのサービスを市民が観光客に提供することで、リピーターや対馬ファンが増えている。島内での流通体制が整い、対馬製品の消費も進み、地域が活気づいている。

## 新産業が作られ、雇用も多く確保できている

対馬産品がブランド化され、高付加価値をつけて販売している。また、対馬の地の利を生かした新産業や市民ニーズを満たす雇用が多く生まれている。さらに、企業経営や事業承継が円滑に進み、次世代の担い手が確保できている。

みんなが主役になる  
希望の島

ひと

地域経済が  
潤い続ける島

なりわい

# 「自立と循環の宝の島 対馬」

つながり

支え合いで  
自立した島

ふるさと

自然と暮らしが  
共存する島

## 地域主導の活動が進められている

地域内・外のつながりが再構築され、世代間交流や文化伝承、地域福祉の活動等に市民が地域主導で取り組んでいる。また、国境の島として、国内外の交流も盛んに行われている。

## 福祉・医療体制が維持され、安心して暮らせる

市民の健康づくりへの意識が高く、健康寿命も長くなり、地域の支え合いにより福祉が成り立つとともに、病院と診療所が連携した医療体制が維持されている。また、地域単位での暮らしが持続されて、市民が安心して暮らすことができる。

## 暮らしのライフラインが維持されている

道路や水道、災害対策、島外への交通など、暮らしのライフラインが維持されており、安全に暮らすことができる。また、地域の状況に応じた最適な地域交通の仕組みがあり、地域内や地域間の移動がより手軽になっている。

## 豊かな自然環境が回復している

森里海のつながりが再構築され、対馬の豊かな自然環境が回復しており、陸地とその周辺海域において生物が多く生息している。持続可能な一次産業による自然共生が成り立っている。

## 環境に負荷をかけない暮らしをしている

市民一人ひとりが自然に負荷をかけない暮らしを意識し、ごみの削減とリサイクル、省エネ、再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組んでおり、ごみのないきれいな地域で市民が暮らしている。

## 地域の資源をうまく活用している

対馬の固有の遺産や文化財、美しい景観が保存されるとともに、市民の生涯学習の教材や観光資源として有効活用されている。また、空き家や廃校、公共施設等の未利用な資産はニーズに応じて賢く利用されている。

【自立と循環の宝の島対馬】



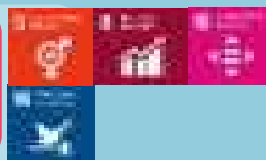


## 具体的な施策

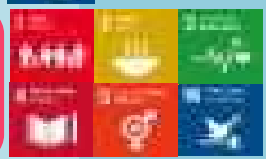
## SDGs

## 分野横断的な 連携施策

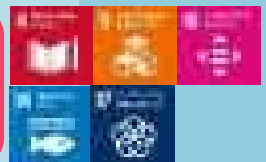
- 1)若者の移住・定住の推進
- 2)対馬らしい働き方・生きがいの創出



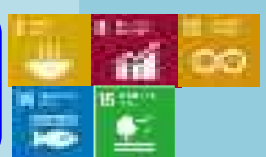
- 1)出産・子育ての手厚い支援
- 2)郷土を愛する“対馬っ子”の育成



- 1)大学と地域との連携推進
- 2)生涯学習の推進と広報・広聴の強化



- 1)持続可能な水産業の推進
- 2)持続可能な農林業の推進



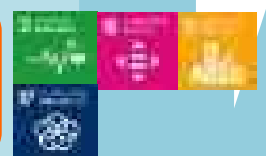
- 1)持続可能な観光業の推進
- 2)持続可能な流通体制の構築



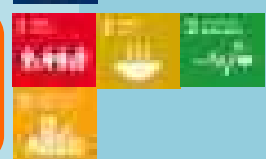
- 1)対馬製品の魅力化と持続可能な商工業の推進
- 2)新たな産業の創出と持続可能な企業経営



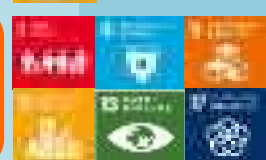
- 1)多様な主体による地域づくりの推進
- 2)国内外の交流の推進



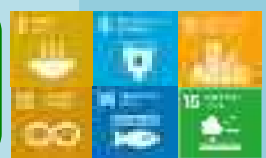
- 1)健康づくりと医療体制の充実
- 2)福祉の充実と地域包括ケアシステムの構築



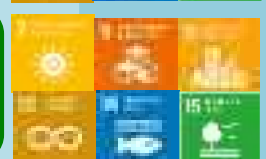
- 1)生活インフラの維持と安心・安全なまちづくり
- 2)島内外の交通システムの利便性向上



- 1)多様な生物と共生する里地里山づくり
- 2)海洋資源の保護と豊かな里海づくり



- 1)ごみの削減とリサイクルの推進
- 2)再生可能エネルギーの推進



- 1)固有の遺跡や文化財の保存と活用
- 2)美しい景観の保全と未利用な資産の利活用



みんなが  
主役になる  
「対馬人財の確保」

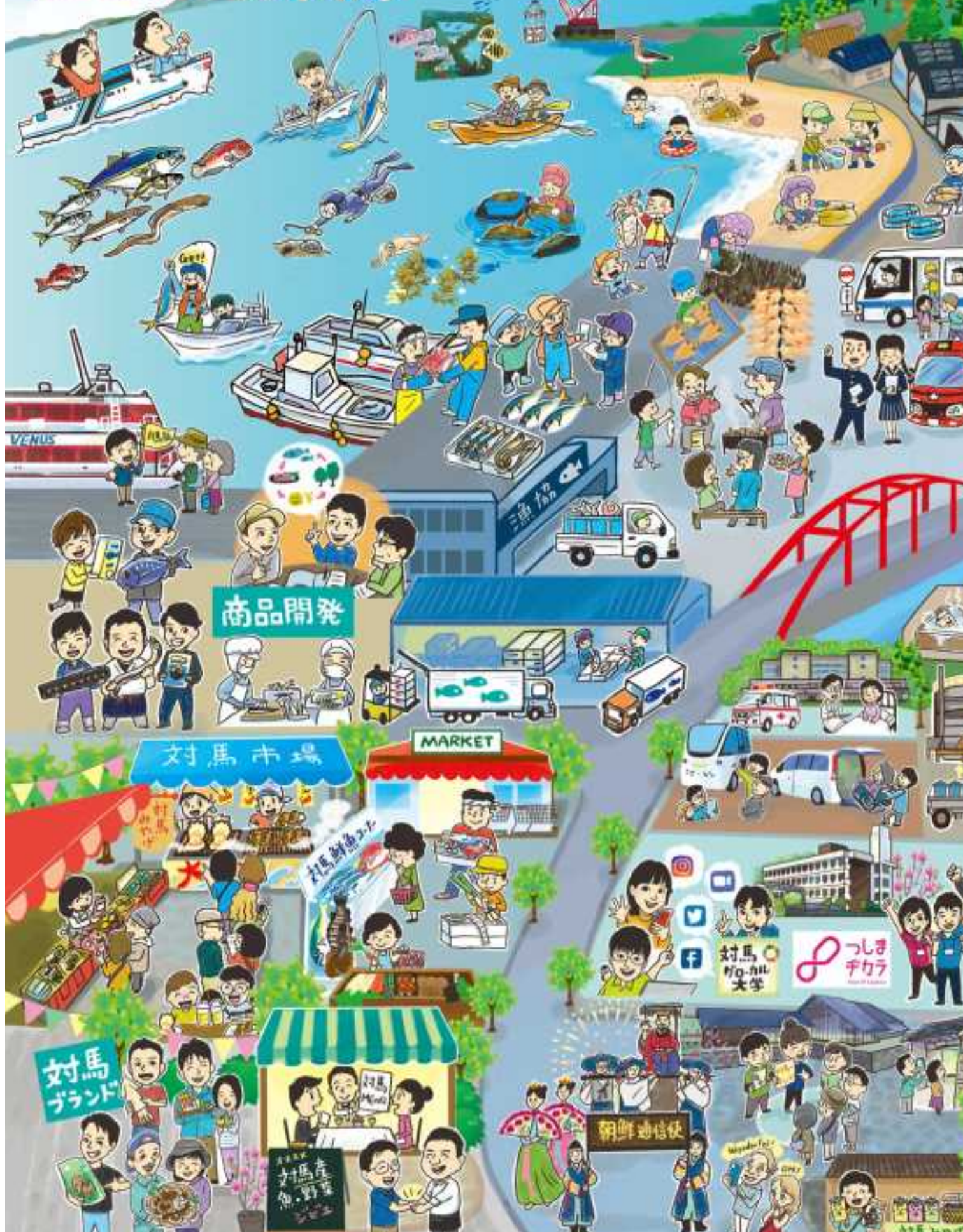
地域経済が  
潤うための  
「地産地消の推進」

支え合いで  
自立する  
「島内の移動手段  
の確保」

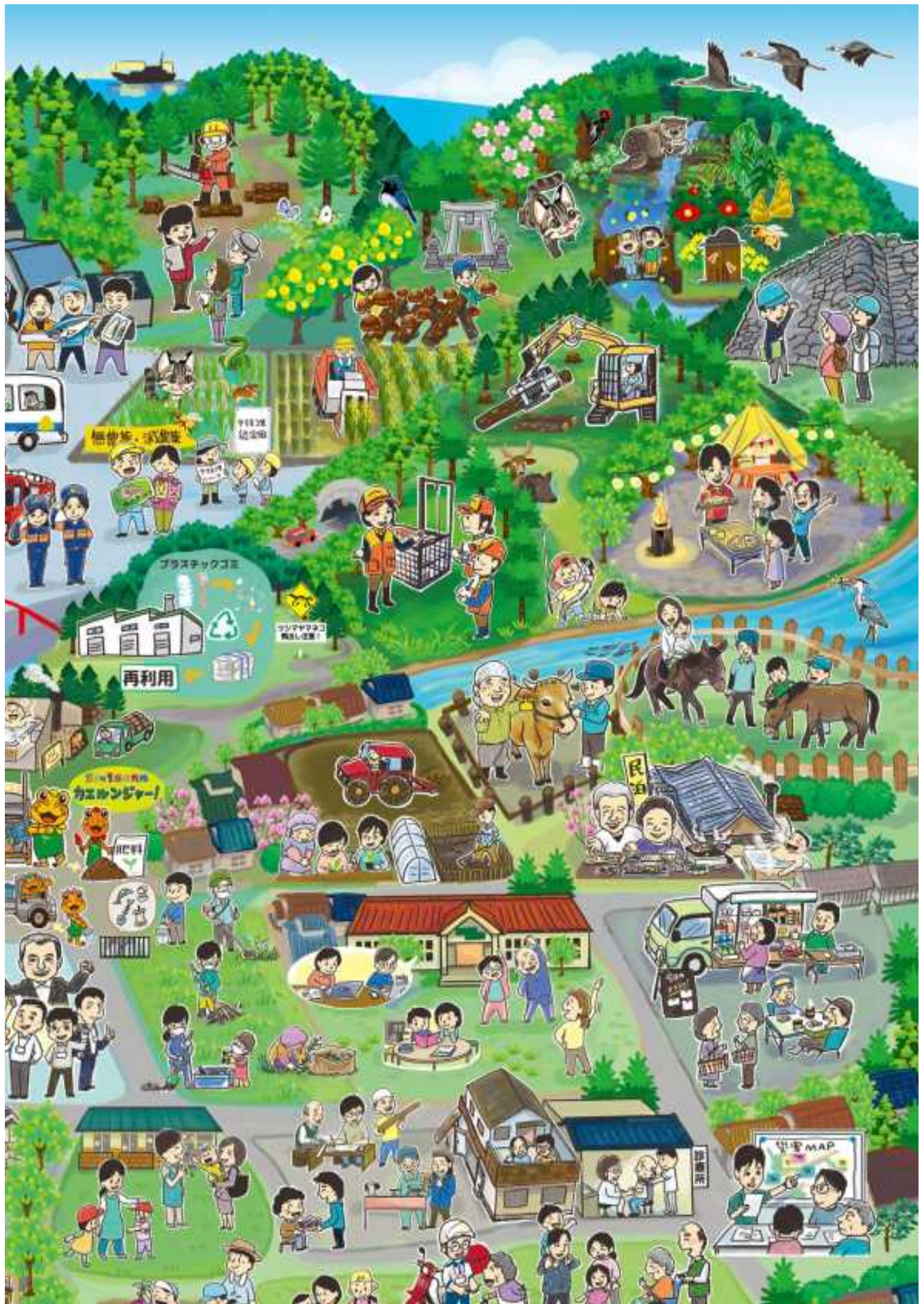
自然と暮らしが  
共存する  
「有害鳥獣対策」



みんなで目指そう！  
自立と循環の宝の島 対馬









# SDGs(持続可能な開発目標)について

- 「SDGs(持続可能な開発目標)Sustainable Development Goals」は、2015年(平成27年)9月の国連サミットで採択され、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指し、17のゴールと169のターゲットで構成され、経済、社会、環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むための国際社会全体の目標です。
- 地方自治体にとっても、SDGs達成へ向けた取組は、人口減少、地域経済の縮小等の地域が抱える課題の解決に資するものであり、多様なステークホルダーと連携のうえ、SDGsを原動力とした地方創生を推進することが期待されています。
- SDGsの理念は、本計画の施策の方向性とも重なっており、本計画の施策を着実に進めていくことが、SDGsの推進につながるものと考えております。
- 対馬市民と共にSDGsの推進に取組み、市としての役割や使命を果たすことで、SDGsの目標達成に貢献していきます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### ゴール1【貧困】

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる



### ゴール10【不平等】

各国内及び各国間の不平等を是正する



### ゴール2【飢饉】

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する



### ゴール11【持続可能な都市】

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する



### ゴール3【保健】

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



### ゴール12【持続可能な消費と生産】

持続可能な生産消費形態を確保する



### ゴール4【教育】

すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



### ゴール13【気候変動】

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



### ゴール5【ジェンダー】

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う



### ゴール14【海洋資源】

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



### ゴール6【水・衛生】

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



### ゴール15【陸上資源】

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



### ゴール7【エネルギー】

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する



### ゴール16【平和】

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



### ゴール8【経済成長と雇用】

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



### ゴール17【実施手段】

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



### ゴール9【インフラ、産業化、イノベーション】

強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る





# 対馬市総合計画に掲げる施策とSDGsの関係

総合計画の施策		SDGsの17のゴール																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
<b>ひとづくり</b>																		
みんなが活躍する仕組みを創る	若者の移住・定住の推進								●		●							
	対馬らしい働き方・生きがいの創出					●			●		●							●
次世代の担い手の郷土愛を育む	出産・子育ての手厚い支援	●	●	●	●	●												●
	郷土を愛する“対馬っ子”の育成	●			●													
大人たちが対馬の魅力を知り誇りを持つ	大学と地域との連携推進				●					●				●				●
	生涯学習の推進と広報・広聴の強化				●						●							●
<b>なりわいづくり</b>																		
持続可能な農林水産業を展開する	持続可能な水産業の推進		●						●				●		●			
	持続可能な農林業の推進		●						●				●			●		
地域経済の循環の仕組みを確立する	持続可能な観光業の推進								●				●					
	持続可能な流通体制の構築		●										●					
事業を承継・拡大して雇用を創出する	対馬製品の魅力化と持続可能な商工業の推進								●	●								
	新たな産業の創出と持続可能な企業経営								●	●								
<b>つながりづくり</b>																		
多様な主体によるしまづくりを推進する	多様な主体による地域づくりの推進			●									●					
	国内外の交流の推進											●						●
持続可能な福祉と医療の体制を整える	健康づくりと医療体制の充実	●		●									●					
	福祉の充実と地域包括ケアシステムの構築	●	●	●									●					
持続可能なライフラインを確保する	生活インフラの維持と安心・安全なまちづくり	●					●			●			●		●			
	島内外の交通システムの利便性向上	●								●			●					●
<b>ふるさとづくり</b>																		
豊かな自然環境を取り戻す	多様な生物と共生する里山里山づくり		●				●						●	●		●	●	
	海洋資源の保護と豊かな里海づくり		●										●	●		●		
環境負荷の低い暮らしを営む	ごみの削減とリサイクルの推進								●		●		●	●		●		
	再生可能エネルギーの推進								●		●		●				●	
貴重な資産・資源を継承・活用する	固有の遺跡や文化財の保存と活用												●					
	美しい景観の保全と未利用な資産の利活用												●					

※ この表は、総合計画に掲げた施策が、SDGsの169のターゲットと合致するゴールに●印を付けたもので、●印がないゴールとの関係を否定するものではありません。



## 第4章 4つの挑戦

ひと、なりわい、つながり、ふるさと  
に関する最優先の具体的な施策



この章では、私たちが実現していきたい対馬のあるべき姿(目標)に向けて最優先に取り組むべき課題と、その解決に向けた4つの挑戦について示します。  
さらに、4つの挑戦ごとに計24のテーマについて、それぞれの目的・目標、対馬市の主要な取組みと関連する事業、役割分担、目標値等を示します。

イラスト: 対馬を代表する海産物 ブリ

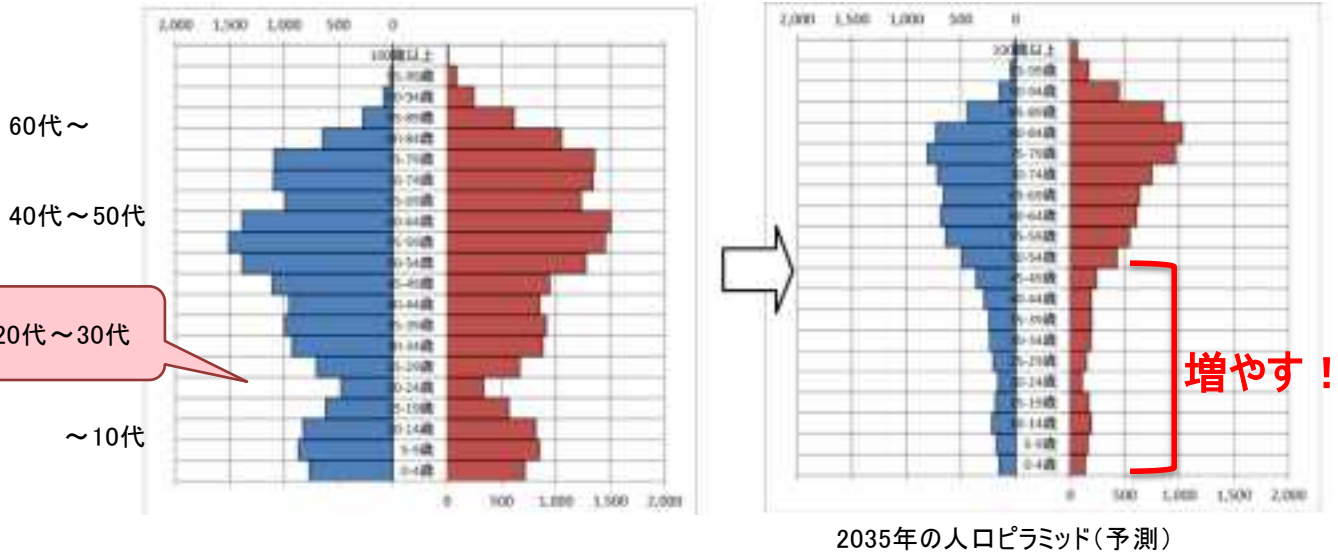
# 「ひと」に関する現状と課題

現状のまま進めば、対馬市では2035年までに若い世代の人数が極端に減少し、高齢者が増加するため(下図)、人口構成のバランスが悪く、生産性の低い不健全な社会になるおそれがあります。対馬に暮らす市民一人ひとりが、対馬の魅力や課題を知り、しまづくりの担い手として育っていくことができるかが、対馬の「ひと」に関する最大の課題です。

【対馬市の人口ピラミッド】

2010年

2035年



## ● 20代～30代の若者が極端に少ない

多くの若者が、大学進学や就職のために島を離れます。そのため、各産業や医療、福祉、教育、文化等、あらゆる分野で人財不足となっています。島外の対馬出身者が対馬に戻ってくることを強く望む市民が多いです。若者が暮らしやすい社会を作るとともに、これからの時代にあった対馬らしい生き方や働き方を模索していき、対馬で暮らす意義や価値を生み出していくことが求められます。また、担い手が少ない中で、あらゆる立場にある市民がみんな活躍して社会を維持することが課題です。

## ● 安心して出産・子育てできる環境が足りない

豊かな自然に囲まれた対馬は、子育て環境には良いという認識を市民が持っている一方で、外科や産婦人科、小児科のある病院が少なく、子育て世代からは不安の声が聞かれます。また、地域のつながりが希薄化する中で、子育てを地域で支えていく体制の再構築が求められます。

## ● 小中学校、高校の教育環境の質の維持、向上が必要

児童・生徒数が少なくなった小中学校では、統廃合が進んでおり、子どもたちの教育環境が変化しています。学校教育の質の向上を求める声が保護者からあがっています。また、大学進学や就職、スポーツでの活躍等を目的に、対馬の高校ではなく、福岡県や長崎県(本土)の高校に進学する学生もいます。対馬の学校教育の魅力をさらに高め、島内の高校に進学する学生を増やすことが課題です。

## ● みんなが対馬の魅力を知り、誇りを持つことが大切

市民一人ひとりが対馬に誇りを持つことが、よりよいしまづくりの取り組みを進めるために非常に大切です。市民が対馬の魅力を発信することで、島外からの観光客が増え、市民と交流することで、対馬の暮らしの魅力を知り、移住につながるかもしれません。大人が子どもたちに対馬の魅力を語り継ぐことで、将来対馬に戻り、しまづくりを行う若者が増えるかもしれません。何よりも、対馬に暮らす我々市民が、対馬の魅力をj知ることj、対馬ぐらしを楽しむことができます。そのために、市民が対馬を知ることができる機会をさらに増やしていくことが大切です。



# 挑戦① ひとつづくり

みんなが主役になる希望の島を目指して、3つの視点から6つの施策を優先して展開していきます。

## みんなが活躍する仕組みを創る

### 1)若者の移住・定住の推進

若者が移住・定住したくなるしまづくりを目指し、多様な主体が連携して、魅力的な仕事の創出と労働環境の整備、暮らしの充実、移住・定住支援に取り組む。

### 2)対馬らしい働き方・生きがいの創出

経済・社会・環境の分野におけるしまづくりの担い手不足の解消や対馬で暮らす市民が豊かさを実感できるように、働き盛りの世代の働き方改革及び女性・高齢者・障がい者等の社会参画・雇用創出等を推進し、みんなが活躍する仕組みを創る。



## 次世代の担い手の郷土愛を育む

### 1)出産・子育ての手厚い支援

保護者が安心して子どもを育て、対馬を愛せる心豊かな子どもを育ていくために、地域の多様な主体が連携して出産・子育てを支援するとともに、家族が豊かな経験ができる子育て環境を作る。

### 2)郷土を愛する“対馬っ子”の育成

対馬を愛する心豊かな子どもを育ていくために、多様な主体が協働し、対馬の地の利を生かした魅力的な教育を進め、子どもが「通いたい」、保護者が「通わせたい」、地域が「存続させたい」と感じられる学校づくりや教育への経済的負担の軽減等に取り組む。



## 大人たちが対馬の魅力を知り誇りを持つ

### 1)大学と地域との連携推進

SDGsの推進を担うしまづくり人材を育成するため、これまでに構築した域学連携※の成果をベースに、新たな事業を展開する。また、対馬が直面する課題解決に向けた知や経験の好循環を生み出すとともに、交流人口の拡大や関係人口、移住者の増加を目指す。

### 2)生涯学習の推進と広報・広聴の強化

対馬の歴史や伝統文化を保全するとともに大人たちが対馬の魅力を知り、誇りを持つことを目指して、様々な行事や交流等の生涯学習の機会を増やすとともに、効率的、効果的に市政や地域の活動・情報を市民に提供できるように情報共有の体制強化を図る。



## 将来像①

# みんなが主役になる希望の島

- 若者を中心に対馬がにぎわっている
- 未来を創る子どもたちに対馬愛が育まれている
- 対馬の大人たちが対馬に誇りを持っている

## 1)若者の移住・定住の推進

### 目的・目標

若者が移住・定住したくなるしまづくりを目指し、多様な主体が連携して、魅力的な仕事の創出と労働環境の整備、暮らしの充実、移住・定住支援に取り組む。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 魅力的な仕事の創出と労働環境の整備

- ・ 雇用創出に取組む事業者への支援
- ・ 企業誘致の推進、地元企業の魅力化向上と情報発信
- ・ 一次産業への参入のための支援（副業制度含む）
- ・ リモートワークの推進のための環境（住環境やオフィス）づくりへの支援



#### 2. 若者の暮らしの充実

- ・ 商店街・飲食店の充実と活性化
- ・ 交流イベントや地域の祭り継続
- ・ 島外への交通アクセスの利便性向上
- ・ スポーツ施設やアウトドア・マリレジャー施設の魅力化
- ・ 婚活の推進（婚活イベントの運営・実施）、結婚移住奨励補助、子育て応援新制度の推進

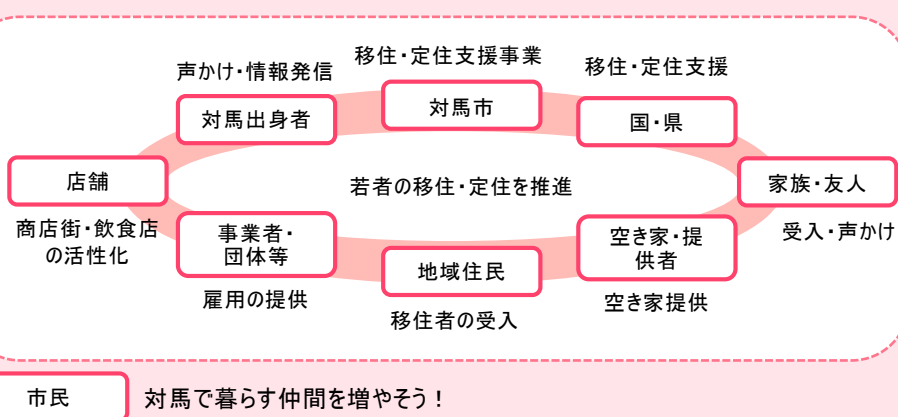
#### 3. 移住・定住支援

- ・ 移住相談窓口の一元化と移住関連の情報発信の強化
- ・ 移住支援メニューや補助制度の拡充
- ・ ターゲットを絞った移住施策の検討
- ・ 島おこし協働隊制度の拡充と展開
- ・ 空き家バンク※の登録制度の継続と登録住宅の紹介、普及啓発の強化
- ・ 空き家対策を進めるためのコンソーシアム※の設立を検討、対馬出身者が対馬に戻るための仕組みづくり（奨学金返還支援補助制度の拡充等）
- ・ 対馬出身者が多く本市の経済圏である福岡を中心とするイベント開催、移住相談コーナーの設置、移住コーディネーター（福岡担当）の配置の検討
- ・ 高校生を中心とした島内の若者の島内就職に向けた合同企業説明会の開催



### 推進の体制・役割分担

移住・定住のきっかけづくりと、仕事と住まいを確保する協力体制づくり



### 関連する計画

対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略

### 行政担当課

政策企画課  
しまの力創生課  
地域づくり課  
観光商工課  
中対馬振興部地域振興課  
上対馬振興部地域振興課

### 【データ】

項目	数値
高卒の島内就職者数 (R1)	31% (就職者24/78名中)
移住者数(R1)	累計134名
空き家バンク登録数 (R1)	16件

### 【目標数値】

指標	R2	R7
高卒の島内就職者数	35%	50%
移住者数	累計400名	累計900名
空き家バンク登録数	常時10件	

## 2)対馬らしい働き方・生きがいの創出

### 目的・目標

経済・社会・環境の各分野におけるしまづくりの担い手不足解消や、対馬で暮らす市民が豊かさを実感できるように、働き盛り世代の働き方改革及び女性・高齢者・障がい者等の社会参画・雇用創出等を推進し、多様性に富みみんなが活躍する仕組みを創る。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 働き方改革の推進

- ・ 特定地域づくり事業協同組合制度の導入
- ・ 一次産業を主体とした副業制度の導入の検討
- ・ 一次産業の担い手確保のための仕組みづくりの検討(集落営農、自伐型林業、有害鳥獣対策等)

#### 2 女性が活躍する場づくり

- ・ 男女共同参画の推進
  - \* 性別により差別されることなく安心して働ける職場づくり
  - \* ワーク・ライフ・バランスの実現
- ・ あらゆる分野の政策・方針決定の場における女性の参画拡大により、個性と能力を十分に発揮できる社会づくり
- ・ コミュニケーションツールを使って女性が情報発信する機会づくり

#### 3 高齢者の雇用や生きがいの創出

- ・ 集落での取組みや地域づくりでの活躍の場の創出(助け合い・見守り活動や老老介護等)
- ・ シルバー人材センターの機能拡充と法人化に向けた取組の推進
- ・ 有償ボランティアの取組の啓発及び推進
- ・ 集落営農や有害鳥獣対策の捕獲隊等の一次産業や加工業等の従事者への支援検討
- ・ コミュニティ交通の運転手や観光ガイド、民泊の担い手になるための支援
- ・ 老人クラブ活動及びスポーツ大会運営等への支援
- ・ 地域活動等の情報提供の強化(地域包括支援センターの設置、運営協議会の実施)



#### シルバー人材の仕事(例)

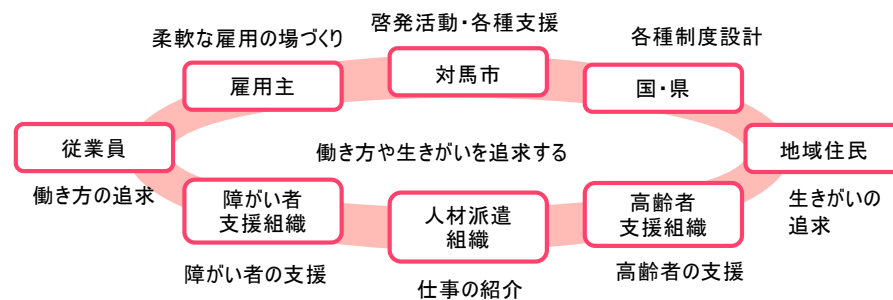
- ・ 各種事務(宛名書き)
- ・ 家事支援
- ・ 空き家・廃校の管理(掃除)
- ・ 障子張替等のリフォーム
- ・ 公園清掃・花壇植栽・除草

#### 4 障がい者の社会参画および雇用創出の推進

- ・ 対馬障害者就業・生活支援センターの活動支援
- ・ 障がい者の社会参画のための普及啓発活動の推進
- ・ 障がい者の活動及びスポーツ大会運営等
- ・ 障がい者の雇用に関する各種助成金の支給
- ・ 心と暮らしの相談室の設置

### 推進の体制・役割分担

若者や女性・高齢者・障がい者、みんなが活躍できる環境を整える体制づくり



### 関連する計画

男女共同参画計画  
 高齢者福祉計画及び介護保険事業計画  
 障害福祉計画 障害者計画  
 地域福祉計画 地域福祉活動計画  
 自殺対策計画

### 行政担当課

総務課  
 政策企画課  
 しまの力創生課  
 地域づくり課  
 福祉課  
 地域包括ケア推進課  
 農林しいたけ課  
 自然共生課  
 いきいき健康課  
 地域包括ケア推進課

### 【データ】

### 【目標数値】

項目	数値
市委嘱委員の女性委員の割合(R1)	22.1%
シルバー人材センター登録会員数(R1)	137名
シルバー人材の就業人数(R1)	3,409人/年
就業支援による障がい者の就業者数(R1)	3人

指標	R2	R7
市委嘱委員の女性委員の割合	23.1%	30%
シルバー人材センター登録会員数	150名	200名
シルバー人材の就業人数	3,600人/年	5,000人/年
就業支援による障がい者の就業者数	5人	5人





## 1) 出産・子育ての手厚い支援

### 目的・目標

保護者(家族)が安心して子どもを育て、対馬を愛せる心豊かな子どもを育てていくために、地域の多様な主体が連携して出産・子育てを支援するとともに、家族が豊かな経験ができる子育て環境を作る。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 安心出産環境の整備

- ・ 安心出産、妊婦健診、不妊治療、保育医療等への助成
- ・ 育児教室の開催、乳児家庭の訪問・相談対応

#### 2 子育て、保育サービスの充実

- ・ 子育て支援センター(ファミリーサポートセンター)の設置や地域子ども教室の推進
- ・ 保護者の就労などによる子どもの居場所確保・充実
- ・ 認定こども園の拡充
- ・ 待機児童常時ゼロに向けた取組の強化
- ・ 子育て環境を整える3世代の同居・近居の推進
- ・ 乳幼児健診や予防接種の補助、食育の推進
- ・ ひとり親家庭へのケアや障がい児保育への支援
- ・ 児童虐待や経済問題等の困難を抱える家庭への対応
- ・ 保護者を含む当事者の意見を聴くための子ども・子育て会議の開催

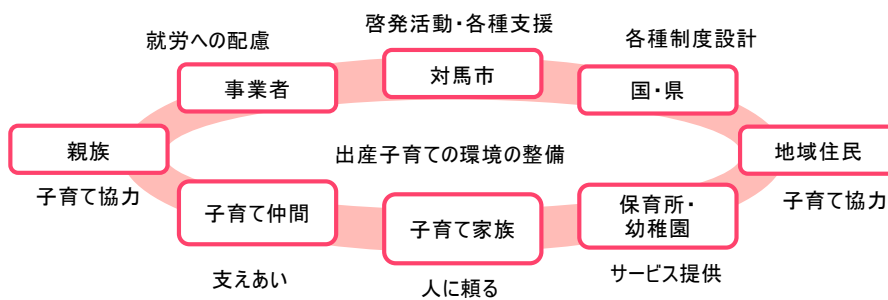


#### 3 出産子育て等への経済的負担の軽減

- ・ 保育所及び幼稚園・認定こども園の料金軽減の継続
- ・ 助産施設入所措置、児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当、乳幼児福祉医療費の助成

### 推進の体制・役割分担

子育て家族を多様な主体が様々な形で支援する体制づくり



市民 「子はしまの宝」を合言葉に、子育て家族を暖かく見守り、助けよう！

### 関連する計画

子ども・子育て支援事業計画  
次世代育成支援対策行動計画

### 行政担当課

子ども未来課  
いきいき健康課  
保護課  
学校教育課

### 【データ】

項目	数値
出生数 (R1)	193人／年
保育所の待機児童数 (R1)	8人
子育て支援センター(5か所)の利用者数 (R1)	1,300人／年

### 【目標数値】

指標	R2	R7
出生数	200人／年	
保育所の待機児童数	0人	0人
子育て支援センター(5か所)の利用者数	2,000人／年	

## 2)郷土を愛する“対馬っ子”の育成

### 目的・目標

対馬を愛する心豊かな子どもを育てるために、多様な主体が協働し、対馬の地の利を生かした魅力的な教育を進め、子どもが「通いたい」、保護者が「通わせたい」、地域が「存続させたい」と感じられる学校づくりや教育への経済的負担の軽減等に取り組む。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 小中学校・高校の魅力化

- ・ 中高校と高校の連携による教育の質の維持・向上(中高大の情報交流、中高連携協議会の設置)
- ・ 大学生との交流の推進、高校生参加枠を設けた「SDGs実践塾」の開催
- ・ 島っこ留学(小中学校)・離島留学生(高校)の受入体制の強化
- ・ コミュニティスクール(学校運営協議会制度)の検討
- ・ 3高校の特性に合ったスポーツ等指導者の招聘
- ・ 奨学資金制度の継続
- ・ 広報つしま、対馬市CATVなど多様な媒体での情報発信



#### 2 保護者・行政・地域が一体となった教育による郷土愛の育成

- ・ 全小中学校における地域の特徴を生かしたふるさと学習の展開(ESDの視点に立った工夫)
- ・ 地域の伝統行事への参加(舟グロ-大会等)
- ・ 放課後や土曜日に子どもたちが地域住民との交流活動をする場づくり(地域子ども教室)
- ・ 家庭教育の支援や世代間交流・伝承文化の継承の場としての公民館づくり
- ・ 学校施設環境の改善、PTAや学校支援会議等による協働体制の整備
- ・ 学校給食への地元産の食材提供の拡大
- ・ 島内企業へのインターンシップによる職場体験の拡充
- ・ 教育コーディネーター ※の確保



#### 夢づくり基金のメニュー

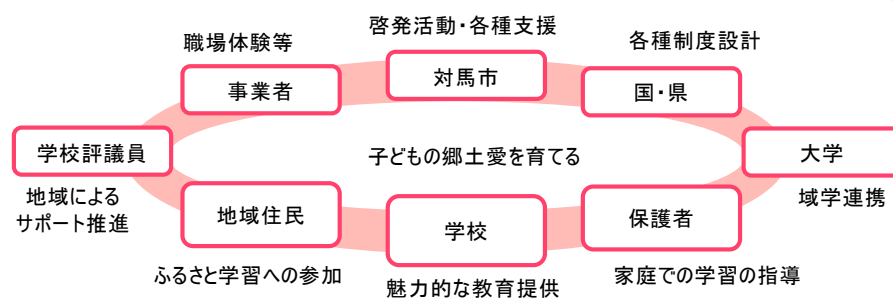
- ・ 児童生徒の文化、体験、国際交流、地域間交流、スポーツ、部活等の活動
- ・ 進学や就職活動の支援
- ・ 島内就職への祝い金
- ・ 島外の韓国語検定受験経費
- ・ 離島留学のホームステイ費 他

#### 3 経済的負担の軽減、及び特別支援教育の推進

- ・ 子ども夢づくり基金事業による支援継続
- ・ 地域のニーズに応じたバスの運行形態の検討及び低廉運賃(定額フリーパスポート等)の継続
- ・ 心理的要因等により長期間登校できない子どもに対する社会復帰や学校復帰の支援
- ・ 教育支援センターの運営、教育相談員・介助員の継続的配置
- ・ 特別支援学校(小中学部)の設置へ向けた取組の強化

### 推進の体制・役割分担

多様な主体が学校を支援し、一体となって子どもたちを育てる体制づくり



市民 「子は地域の宝」を合言葉に、地域の子どもを我が子のように見守ろう！

### 関連する計画

子ども・子育て支援事業計画  
教育要覧  
教育振興基本計画

### 行政担当課

総務課 政策企画課 SDGs推進室  
地域づくり課 観光商工課  
こども未来課 農林しいたけ課  
水産課  
中対馬振興部地域振興課  
上対馬振興部地域振興課  
教育総務課 学校教育課 生涯学習課

### 【データ】

項目	数値
離島留学の子ども数 (R1)	累計16名
島内高校進学率 (R1) 高校入学者数(対馬高校154名、豊玉高22名、 上対馬高校29名) (R1)	68.2% (205名)
高校生徒数減少率 (H28とR1の比較)	16.8%

### 【目標数値】

指標	R2	R7
離島留学の子ども数 (H28～R7)	累計16名	累計30名
島内高校進学率	70%	80%
高校生徒数減少率 (R1からR6の比較)	8.5%	

## 1) 大学と地域との連携推進

### 目的・目標

SDGsの推進を担うしまづくり人財を育成するため、これまでに構築した域学連携の取組成果をベースに、新たな施策を展開する。また、対馬が直面する課題解決に向けた取組を推進するとともに、交流人口の拡大や関係人口、移住者の増加を目指す。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 SDGsの推進を担うしまづくり人財育成

- ・ 対馬グローバル大学の開催
- ・ 対馬市SDGs実践塾の設置及び拡充(島おこし実践塾のSDGs発展版)
- ・ 自主的な地域・研究活動を継続するための制度(市民研究員制度)の導入

#### 2 市民・地域への成果還元

- ・ 対馬学フォーラムの開催
- ・ 対馬SDGsクラブの設置

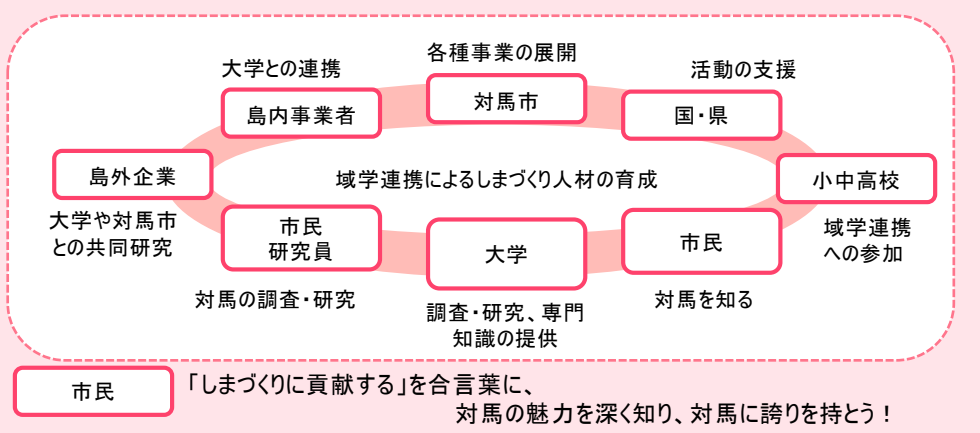
#### 3 大学・企業等との共同研究及び実践活動の推進

- ・ 「対馬学」研究奨励補助制度の継続(学術奨励補助制度の発展版)
- ・ 国内外の大学及び企業との共同研究の推進
- ・ 学生等の活動・滞在拠点の維持



### 推進の体制・役割分担

多様な主体が域学連携を推進し、しまづくり人材を育成する体制づくり



### 関連する計画

域学連携地域づくり推進計画  
SDGs未来都市計画  
対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略

### 行政担当課

政策企画課  
SDGs推進室  
しまの力創生課  
地域づくり課

### 【データ】

項目	数値
島外のSDGsを推進する企業等との事業数(R1)	1件
島内のSDGs推進認定事業所の数	0件
グローバル大学の島内参加人数(R2)	123名
対馬SDGsクラブの若者・女性会員数	0人

### 【目標数値】

指標	R7
島外のSDGsを推進する企業等との事業数	2件
島内のSDGs推進認定事業者の数	50件
グローバル大学の島内参加人数(R2～R7)	累計500名
対馬SDGsクラブの若者・女性会員数	60名

## 2)生涯学習の推進と広報・広聴の強化

### 目的・目標

対馬の歴史や伝統文化を保全するとともに大人たちが対馬の魅力に誇りを持ち、様々な行事や交流等の生涯学習の機会を増やすとともに、効率的、効果的に市政や地域の活動・情報を市民に提供できるように情報共有の体制強化を図る。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1. 対馬の魅力を伝え、郷土愛を育む生涯学習の推進

- ・ 地域特性を活かした公民館講座の充実
- ・ 地域主体の勉強会や伝統的な祭りの開催支援
- ・ 博物館等での展示会や歴史・文化財の見学会の開催
- ・ 対馬グローバル大学及び対馬市SDGs実践塾の開催
- ・ 学校教育における総合的な学習の時間を活用した対馬の歴史・文化・伝統の伝承に関する取組の推進とコーディネーター※の登用
- ・ 市役所各課や事業者による各種講座やセミナー、イベント等の情報の集約と情報発信、連携体制づくり



#### 2 地域資源を活用した生涯学習の展開

- ・ 観光ガイドや地域案内人・コーディネーターの養成
- ・ 対州馬など対馬の文化や自然を活用した観光・体験の提供
- ・ 対馬グローバル大学の市民研究員の活動推進



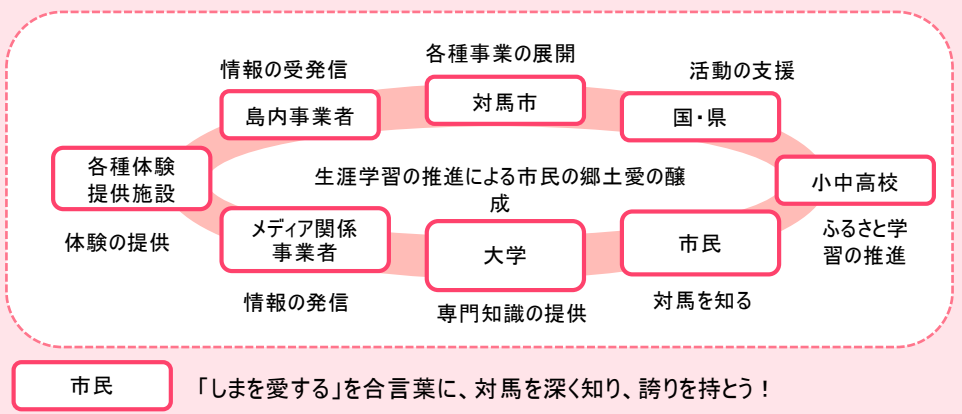
#### 3 市民と行政の情報共有(広報広聴)の強化

- ・ 広報つしまや対馬市CATV、防災無線等での周知
- ・ 対馬市公式ホームページやメール、Facebook、LINE等のSNS※を活用した情報発信、ガイドラインの作成
- ・ 区長や地域マネージャー等を通じた情報提供の連携強化
- ・ 行政総合情報提供システム(CATVでの文字放送による行政情報発信)のさらなる充実
- ・ デジタル化に対応する行政担当部局の強化
- ・ 島外の出身者等のSNSのグループ設立の推進



### 推進の体制・役割分担

多様な主体が生涯学習に関わり、対馬を知り、情報を共有する体制づくり



### 関連する計画

教育振興基本計画  
対州馬保存計画・活用推進計画  
対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
SDGs未来都市計画

### 行政担当課

総務課 ICT推進室  
政策企画課 SDGs推進室  
地域づくり課  
観光商工課 文化交流課  
博物館学芸課 自然共生課  
上対馬振興部地域振興課  
生涯学習課 文化財課

### 【データ】

項目	数値
市ウェブサイトアクセス数(R1)	約26.8万件
公民館講座の受講者数(R1)	1,916名/年
公民館講座の数(R1)	217回/年

### 【目標数値】

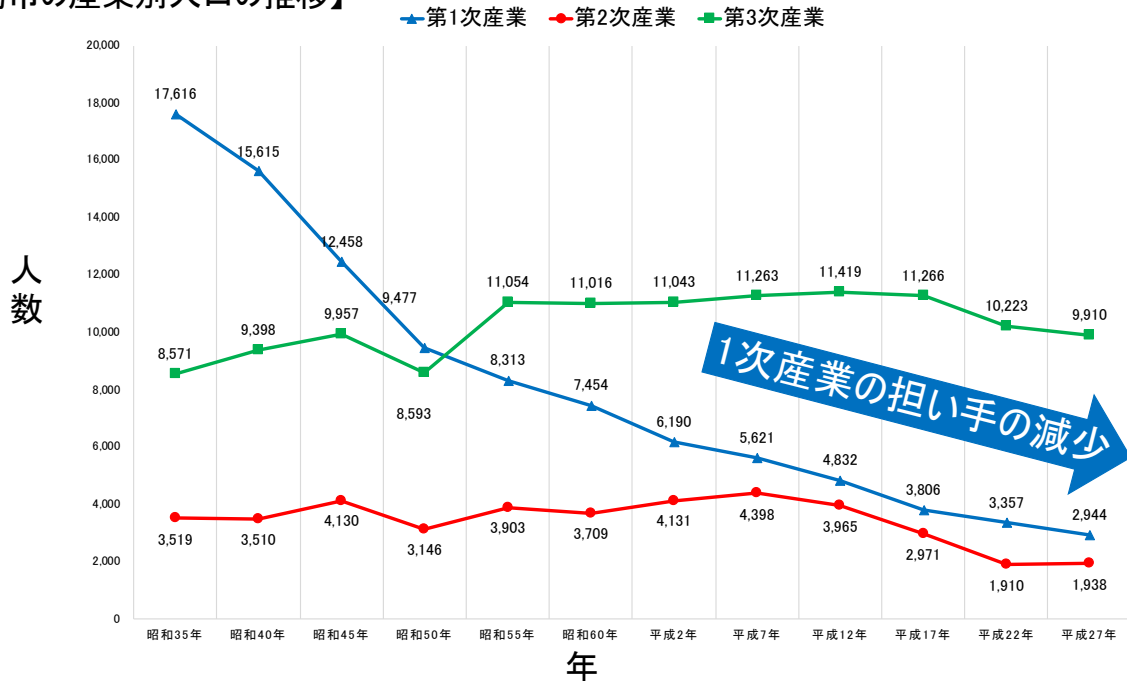
指標	R2	R7
市ウェブサイトアクセス数	40万件	45万件
公民館講座の受講者数	1,700名/年	1,800名/年
公民館講座の数	170回/年	170回/年



# 「なりわい」についての現状と課題

このまま少子高齢化や人口減少が進めば、各分野で担い手が確保できず、一次産業の衰退に歯止めがかかりません(下図)。しかし、対馬の豊かな自然資源を持続可能な形で利用することができれば、豊かな暮らしを維持し、多様な働き方を生み出す可能性があります。新しい時代にあった働き方や暮らし方を模索しながら、自然の恵みを活用した地域循環の仕組みづくりや、新たな産業・仕事の創出や事業承継が求められています。

【対馬市の産業別人口の推移】



1次産業の担い手の減少

## ●衰退の一途をたどる対馬の漁業

資源の減少や魚価の低迷、燃料の高騰、生産者の高齢化等により、漁業は年々衰退しています。ほとんどの魚種・漁法で、生産量は年々少なくなっています。また、対馬の美味しい水産物は、ほとんどが島外の市場に出されており、島内に市場や流通体制がないことから、対馬産の新鮮な水産物を提供している飲食店が少なく、観光面でも漁業資源を生かしていません。また、近年は磯焼けによる海藻類や魚介類の減少が深刻であり、全島に広がっています。

## ●伐期を迎えた森林が多い対馬

今後10年間、伐採林齢を迎える森林が約7割を占めるため、積極的かつ計画的な利用の促進が望まれます。しかし、作業道が未整備な場所や地形的に作業効率の悪い場所が多くあることや、輸送コストや伐採後の植樹の手間等で採算が合わないこと等から、伐採が十分に進まない状況にあります。そのため、作業道の整備や担い手確保に加えて、国外や島内への販売や未利用残材の有効利用等により、林業で生計が立てられるよう施策を展開していく必要があります。

## ●転換期を迎えた対馬の農業

対馬は耕作面積が全土の約1%と平地が少ない上に、小規模な農地の権利者が多く存在し、効率的で大規模な生産ができる土地が限られています。また、農業者はシカ・イノシシの被害にも悩まされています。更に、高齢化・担い手不足により耕作放棄地が多くなっています。現状を打破するためには、新たな担い手の確保や農業のやり方自体の見直しが必要です。

## ●対馬の産業の切り札となりうる観光業と島内流通

観光客の増加を目指して、滞在施設や案内板の整備、ガイド人材の養成等、様々な受入体制の整備(おもてなし力の向上)が課題となっています。観光客が対馬を楽しむために、対馬産品が市内で食べられるように地産地消を推進することが大事です。そのためには、島内流通の仕組みを再構築したり、対馬産品の島内消費を推進するような施策が必要です。

## ●事業の承継と新たな産業の創出

対馬での働き口を増やしていくためには、これからの時代に適応しながら、仕事や雇用を維持するための事業承継の仕組みや新しい産業づくりが求められています。対馬産品をブランド化し、島外に販売し、外貨を稼ぐことも重要ですが、地域経済を回すという視点に立ち、持続可能なエネルギーの普及や対馬の地の利を生かした新しい事業への起業支援、企業の誘致等、新たな産業をいかに作っていくかが大きな課題です。





## 1) 持続可能な水産業の推進

### 目的・目標

海の豊かさを守りながら、水産業者のなりわいや漁村が維持できるように、漁業者・各漁協・加工業者・行政等が連携して、水産資源の持続可能な利用と保全に資する取り組みを実施する。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 水産業者や漁村への支援

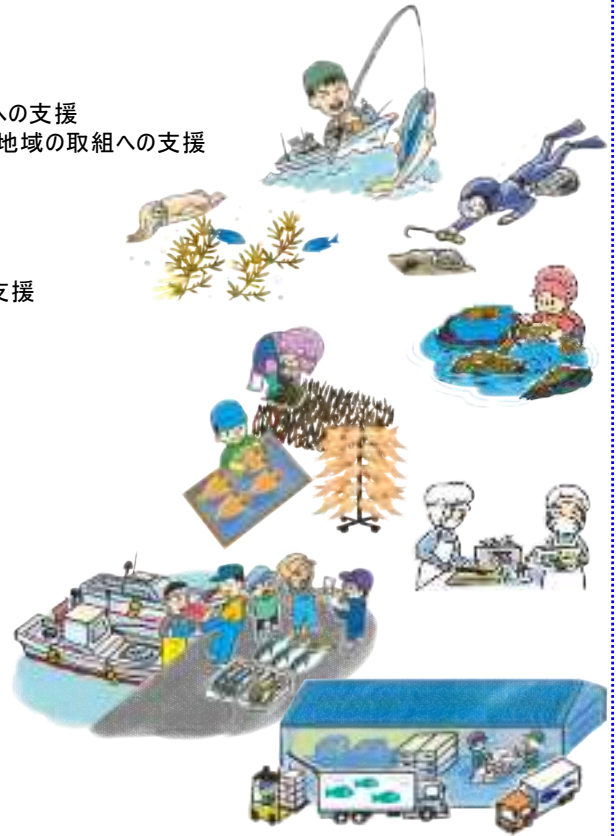
- ・ 漁場の生産力向上や漁業の再生に関する実践的な取組みに対する漁業集落への支援
- ・ 漁業者等が行う水産業・漁村の多面的機能の効果的・効率的な発揮に資する地域の取組への支援
- ・ 水産物の島外への輸送費の低廉化
- ・ 漁業者の経営改善
- ・ 新規就業者等の確保と支援
- ・ 漁業後継者育成支援の継続と支援制度の再検討
- ・ 漁業協同利用施設の広域的な機能再編のための施設整備に対する漁協への支援
- ・ 第1次産業プラス副業による所得向上支援事業の検討

#### 2 水産資源の高付加価値化

- ・ 海洋保護区しまうみ管理計画に基づく持続可能な漁業の推進
- ・ 鮮魚の出荷規格・基準の統一による品質の向上
- ・ 対馬産水産物のブランド化、PR
- ・ 水産物の6次産業化と加工品開発の推進
- ・ 未利用資源の活用に対する支援
- ・ 地域商社との連携による島内外への流通体制の確立と販路拡大への支援

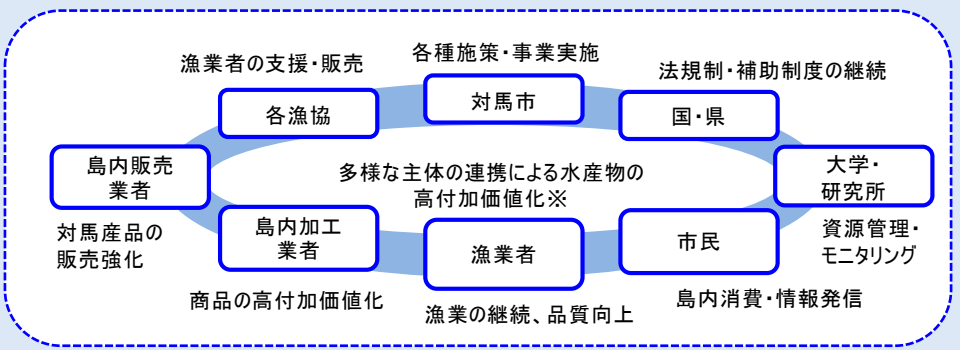
#### 3 水産業の基盤や体制の整備

- ・ 漁港漁場整備長期計画に基づく棧橋や段差等の機能保全と漁港・漁場整備
- ・ 漁協間の連携、経営支援策の検討
- ・ 藻場再生の施策の推進



### 推進の体制・役割分担

漁業者や漁協を中心に多様な主体が連携して水産業の活性化を図る体制づくり



市民 対馬の基幹産業である水産業の現状と課題を知り、水産業者を応援しよう！

### 関連する計画

離島漁業集落活動促進計画  
漁港漁場整備長期計画  
海洋保護区しまうみ管理計画

### 行政担当課

政策企画課  
しまの力創生課  
水産課  
基盤整備課  
上対馬振興部北部建設事務所

### 【データ】

項目	数値
漁業者の平均所得 (R1)	3,325千円
生産量 (R1)	11,432t
水産業者の数(個人)	1,043人
漁港の機能保全の整備箇所	累計9か所

### 【目標数値】

指標	R2	R7
漁業者の平均所得	3,325千円	3,657千円
生産量	11,432t	12,575t
水産業者の数(個人)	1,043人	1,043人
漁港の機能保全の整備箇所	年2か所	





## 2)持続可能な農林業の推進

### 目的・目標

後継者不足により高齢化する農業継続のために、生産基盤の整備と農業従事者の確保・育成を図り、対馬らしい持続可能な農業を再構築する。また、持続可能な林業を目指して、市や県、国、事業者、森林所有者等が連携を密にして、長期展望に立った森林の保全と活用から販路拡大等までの計画的な施策を実施する。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 農業生産基盤の整備および農業従事者の確保・育成

- ・ 耕作放棄地や所有者不在農地の有効活用の推進、経営規模拡大への支援
- ・ 農業生産活動への支援
- ・ 戦略農作物(対馬そば等)の生産拡大とアスパラガスやミニトマト用ハウス栽培に対する生産基盤の整備
- ・ 安定した肉用牛繁殖経営に向けた牛舎や堆肥舎の整備、繁殖雌牛の導入補助の推進
- ・ 地産養鶏事業の推進(対馬地鶏)
- ・ 有害鳥獣対策(防護、捕獲、利活用)による農地の管理と保全
- ・ 第1次産業プラス副業による所得向上支援事業の検討
- ・ 農業の担い手育成と確保(新規就農、兼業・副業での農業参入、集落営農等への支援)



#### 2 森林資源の適切な管理及び林業従事者の確保・育成

- ・ 適切な保育と施業の実施及び主伐後の樹木の再造林の推進
- ・ 林道網整備における林業専用道開設・林道の改良・整備の推進
- ・ 森林環境譲与税の有効活用
- ・ 市有林の適切な管理と活用、保全
- ・ 有害鳥獣対策(防護、捕獲、利活用)による森林の保全
- ・ 就労条件の整備や安全管理体制の強化による森林技術者の雇用の安定化
- ・ 事業者への雇用者社会保障制度の支援、及び各種講習受講経費への支援
- ・ 企業面談会並びに新規参入者説明会の実施
- ・ 森林づくり活動への支援
- ・ 第1次産業プラス副業による所得向上支援事業の検討



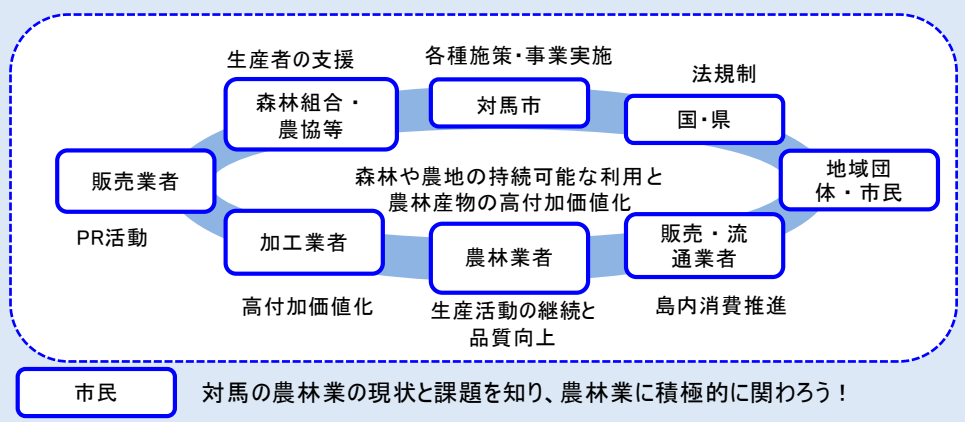
#### 3 原木しいたけの生産維持と販路開拓

- ・ しいたけ生産者の種駒、しいたけ原木調達への支援
- ・ 長期的な原木の育成・確保のための鳥獣対策の実施
- ・ 新規参入者確保のための技術研修、原木生産団体の掘り起こし
- ・ 島内外への販売促進に向けた広報、営業活動の充実



### 推進の体制・役割分担

生産者や組合等多様な主体が連携して農林業の活性化を図る体制づくり



### 関連する計画

- 肉用牛生産近代化計画
- 森林整備計画
- 森林経営計画
- 木材利用促進基本方針及び木材利用行動計画
- 森林づくり基本計画
- 対馬しいたけ振興計画
- 壱岐・対馬鳥獣被害防止計画

### 行政担当課

- 政策企画課
- 農林しいたけ課
- 自然共生課
- 基盤整備課
- 農業委員会

#### 【データ】

#### 【目標数値】

項目	数値
中間管理機構で取扱う農地面積(R1)	194.1ha
年間伐採量(R1)	77,690m <sup>3</sup>

指標	R2	R7
中間管理機構で取扱う農地面積	200ha	250ha
年間伐採量	90,000m <sup>3</sup>	120,000m <sup>3</sup>



## 1) 持続可能な観光業の推進

### 目的・目標

対馬の観光業や地場産業による対馬の活性化を目指して、対馬の魅力を戦略的に発信するとともにオール対馬でおもてなしする受入体制を整備することで、国内外の観光客の来島者数・滞在日数を増加させる。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 対馬の魅力の発信・PR

- ・ 対馬でのイベントの実施(対馬厳原港まつり、国境マラソン大会、国境サイクリング大会等の開催)
- ・ 福岡を中心とした九州管内、首都圏での各種イベント・モニターツアーの実施
- ・ 「国境観光」ツアー商品の造成、旅行関連事業者へのPR・営業活動、連携の推進
- ・ 大自然を満喫できるトレッキング等の体験メニューの拡充
- ・ よりあい処つしま(福岡)を核とした観光・物産情報の受発信
- ・ 日本遺産等の文化財や芸術、アナゴなどの産品などと連動したPR
- ・ アニメやゲーム・映画・ドラマ等の媒体、メディアを活かしたPR、情報発信、映像制作等
- ・ 海外(韓国・中国・台湾・香港・マレーシア・シンガポール・北米等)への情報発信
- ・ 海外観光客向けのモニターツアーの実施、海外からのチャーター便によるツアーの企画・検討

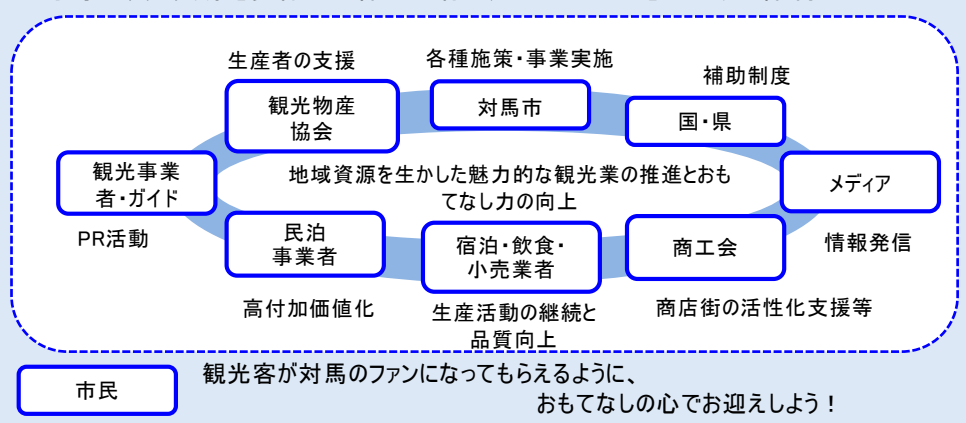


#### 2 受入体制の整備

- ・ おもてなし協議会等の開催
- ・ 市民や事業者、地域のおもてなし力の向上(質の高い宿泊の推進)
- ・ 地域資源(自然・文化・歴史・人・施設等)を活用した体験メニュー、旅行商品の開発支援
- ・ 新たなニーズに対応した島内案内体制の検討及び旅行商品の検討(長期滞在やワーケーション、体験メニューの拡充等)
- ・ 島内外の修学旅行や企業研修、スポーツ合宿の誘致
- ・ 民泊(農林漁家民宿)の推進(登録軒数増加や受入体制整備等)
- ・ ガイド育成(講座の開催やハンドブック作成)と紹介窓口機能の強化
- ・ キャンプ場(三宇田浜・神話の里)の改修や魅力あるトレッキングコースの維持・管理・拡充
- ・ 観光情報館ふれあい処つしまを核としたイベントの開催・物産の販売情報の一元化
- ・ ホテルや飲食店での対馬産品を用いた料理の提供
- ・ Wi-Fi※環境の整備・向上、観光アプリの開発及び事業者の情報発信力の強化
- ・ 韓国語を話せるガイドや外部人材の確保、韓国語講座の開催、ガイドシステムを利用した多言語ガイドの実施
- ・ 案内板の充実及び観光パンフレットの作成(多言語化、英語表記含む)

### 推進の体制・役割分担

対馬の観光資源を多様な主体が共有し、おもてなし力を向上する体制づくり



### 関連する計画

対馬市観光振興推進計画  
「北の玄関口」地区まちづくり協働プラン  
中対馬未来づくりアクションプラン  
厳原南部地域アクションプラン

### 行政担当課

政策企画課 観光商工課  
文化交流課  
対馬市福岡事務所  
環境政策課  
農林しいたけ課 自然共生課  
中対馬振興部地域振興課  
上対馬振興部地域振興課

### 【データ】

項目	数値
年間の延宿泊者数 (R1)	33.4万人
ガイド登録者数(実働数)	7人
民泊登録件数 (R1)	39件
修学旅行の受入件数 (H30)	1校

### 【目標数値】

指標	R2	R7
年間の延宿泊者数	42.3万人	48.3万人
ガイド登録者数(実働数)	8人	17人
民泊登録件数	40件	65件
修学旅行の受入件数	累計2校	累計10校

## 2) 持続可能な流通体制の構築

### 目的・目標

対馬産品の島内での消費拡大と地域経済の循環を図るために、対馬の産品の地産地消を推進するとともに、多様な主体が連携した島内流通システムを構築する。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 対馬産品の地産地消の推進

- ・ 島内消費拡大に向けた市民への普及啓発・PRイベントの実施
- ・ 対馬産品を取扱う島内の小売店や宿泊・飲食店への支援
- ・ 学校給食での対馬産品の活用拡大
- ・ 薪やチップ材の熱エネルギーとしての活用推進
- ・ 買い物支援の推進（移動販売や小規模商店の継続のための地域活動の支援）
- ・ 島外から移入している品目を島内生産するための設備投資に対する支援の検討（卵、鶏肉 等）



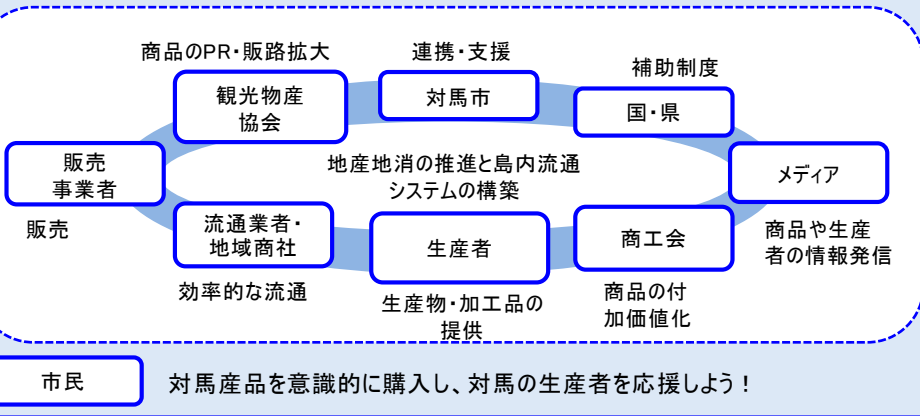
#### 2 連携体制の強化による島内流通システム構築

- ・ 異業種間の連携強化や漁協間の連携による農林水産物の集荷システムの構築
- ・ 生産者、加工事業者、物流業者等と連携した流通の構築
- ・ 地域商社を中心とした農林水産物の調達・加工・販売体制の構築
- ・ 配送センターや集荷・保管施設の設置の検討



### 推進の体制・役割分担

対馬産品の地産地消を推進する各主体連携の流通体制づくり



### 関連する計画

食育・地産地消推進計画

### 行政担当課

しまの力創生課  
観光商工課  
対馬市福岡事務所  
地域包括ケア推進課  
農林しいたけ課  
水産課

### 【データ】

項目	数値
学校給食における地元農産品利用率	29.55%
対馬産ブランド魚の島内取扱店舗数	21店舗

### 【目標数値】

指標	R2	R7
学校給食における地元農産品利用率	30%	40%
対馬産ブランド魚の島内取扱店舗数	22店舗	28店舗

## 1)対馬産品の魅力化と持続可能な商工業の推進

### 目的・目標

対馬の基盤産業を活性化させるために、豊かな自然で育まれた対馬の産品やサービスの魅力化を図るとともに、生産・加工・流通・販売に関わる多様な主体の連携により、戦略的な販路拡大を進めていく。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 対馬産品の魅力化と情報発信の強化

- ・ 特産品の開発や品質向上への支援
- ・ 生産・流通・加工・販売に関わる農商工連携の強化
- ・ 加工事業者の生産拡大や大ロット受注時の輸送体制構築等の取組支援
- ・ 対馬産品のブランディングに向けた生産者の情報発信の強化
- ・ 環境に配慮して生産した産品の増加と情報発信、協力事業者の発掘
- ・ 商品パッケージやパンフレット、ウェブサイトなど情報発信ツールの充実



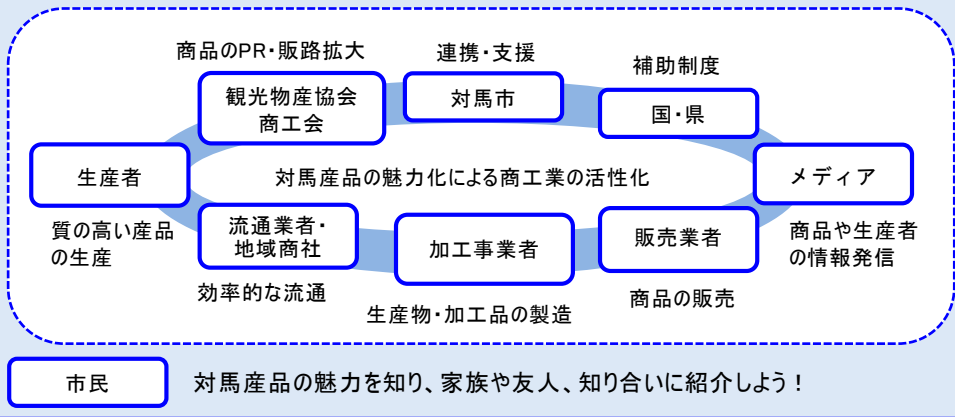
#### 2 対馬産品の販路拡大

- ・ ふるさと納税返礼品の取扱品目拡大
- ・ 企業版ふるさと納税の導入
- ・ 地域商社等による対馬産品の加工品開発、販売促進
- ・ 対馬産品を取扱う島外の飲食店・販売店・小売店への営業、広報活動の促進
- ・ 首都圏でのPRイベント(物産展等)への参加に対する支援
- ・ 観光等の各種イベントと連動した対馬産品のPR
- ・ 福岡を中心とした北部九州圏における物産の販売強化と流通拠点の確保(よりあい処つま等)
- ・ 農林物・木材加工品および鮮魚・活魚の島外への輸送費の低廉化
- ・ 海外への輸出の検討



### 推進の体制・役割分担

対馬産品の魅力化を図るための多主体の連携体制づくり



### 関連する計画

### 行政担当課

しまの力創生課  
地域づくり課  
観光商工課  
対馬市福岡事務所  
農林しいたけ課  
水産課

### 【データ】

項目	数値
ふるさと納税の返礼品数 (R1)	246品目
企業版ふるさと納税寄付企業数 (R1)	0
地域商社で商品を取扱う事業所数 (R1)	6
島外のサポートショップ※の店舗数 (R1)	28か所

### 【目標数値】

指標	R2	R7
ふるさと納税の返礼品目	260品目	310品目
企業版ふるさと納税寄付企業数	累計3社	
地域商社で商品を取扱う事業所数	7	15
島外のサポートショップの店舗数	30か所	50か所



## 2)新たな産業の創出と持続可能な企業経営

### 目的・目標

経営者の高齢化や若者の島外流出が進んでいる対馬において、新たな産業の創出や事業の継続、次世代への事業承継を図るために、創業又は事業拡大や経営改善、事業承継の支援に取り組む。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 新規創業と事業拡大による雇用機会拡充

- ・ 雇用機会拡充支援事業補助金(創業・事業拡大支援)による支援継続
- ・ ワンストップ相談窓口の強化(創業や商品開発等に関する相談受付、創業支援会議)
- ・ 地域資源の活用、商品開発の動機付けのためのセミナー開催
- ・ 創業や雇用を創出する支援事業の推進
- ・ 創業者に対する金融制度活用の検討
- ・ テレワーク等の検討(対馬の企業誘致に関する情報発信、リモートワークの拠点整備、コワーキングスペースの確保、Wi-Fi環境の整備)
- ・ 廃校を含む市の遊休施設や空き店舗、空き地等の活用推進に向けた取組の推進



#### 2 事業承継と起業家の育成

- ・ 事業承継のための支援(事業承継補助金、地域産業雇用創出チャレンジ支援等)
- ・ 事業承継が必要な事業者のリスト化と情報発信、移住者等とのマッチング
- ・ 創業等支援事業の活用推進(創業支援会議、地域資源活用セミナー、創業準備セミナー、創業支援アドバイザー派遣、創業支援事業補助金、銀行融資による創業)
- ・ 島おこし協働隊制度の継続と起業支援
- ・ 担い手の確保に向けた仕組みづくりの検討
- ・ 商工業者に対する支援(小規模設備の導入等)
- ・ 既存事業者の経営維持のためのフォローアップ

#### 3 経営の安定に向けての支援

- ・ アドバイザー等の派遣によるハンズオン※支援
- ・ 雇用、経済(商店街にぎわい創出支援事業補助金等)、融資支援(特別貸付、マル経融資)

#### 対馬での創業が期待できる事業【ひとづくり】

移住推進窓口、コワーキングスペースの提供、教育産業、人材育成、ガイド養成、健康増進・スポーツ、地域コンサルティング、イベントプロデュース

#### 【つながりづくり】

地域交通、見守り・買い物支援、配食サービス、各種コーディネート、老健施設運営、その他の生活支援サービス

#### 【ふるさとづくり】

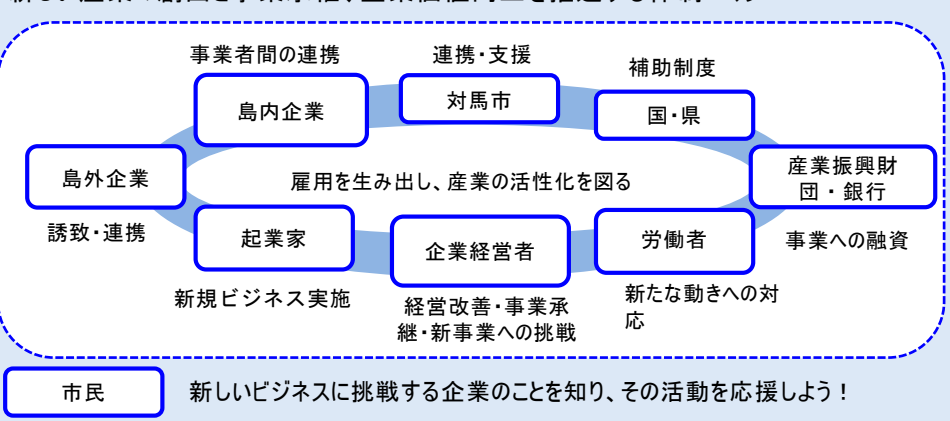
施設や廃校の施設管理、空き家管理、環境教育、生態系調査、景観保全

#### 【なりわいづくり】

食品・木材加工、集落営農、自伐林業※、商社、観光、宿泊施設・民泊経営、物産店・商店、IT産業、地域エネルギー、広告代理、経営コンサル、デザイン

### 推進の体制・役割分担

新しい産業の創出と事業承継、企業価値向上を推進する体制づくり



### 関連する計画

対馬市観光推進計画  
総合支援等事業計画

### 行政担当課

しまの力創生課  
地域づくり課  
観光商工課

#### 【データ】

項目	数値
創業支援事業による創業者数(R1)	年6件
企業誘致数(R1)	5件(累計)
新規雇用者数(雇用拡充)(R1)	28人(累計)

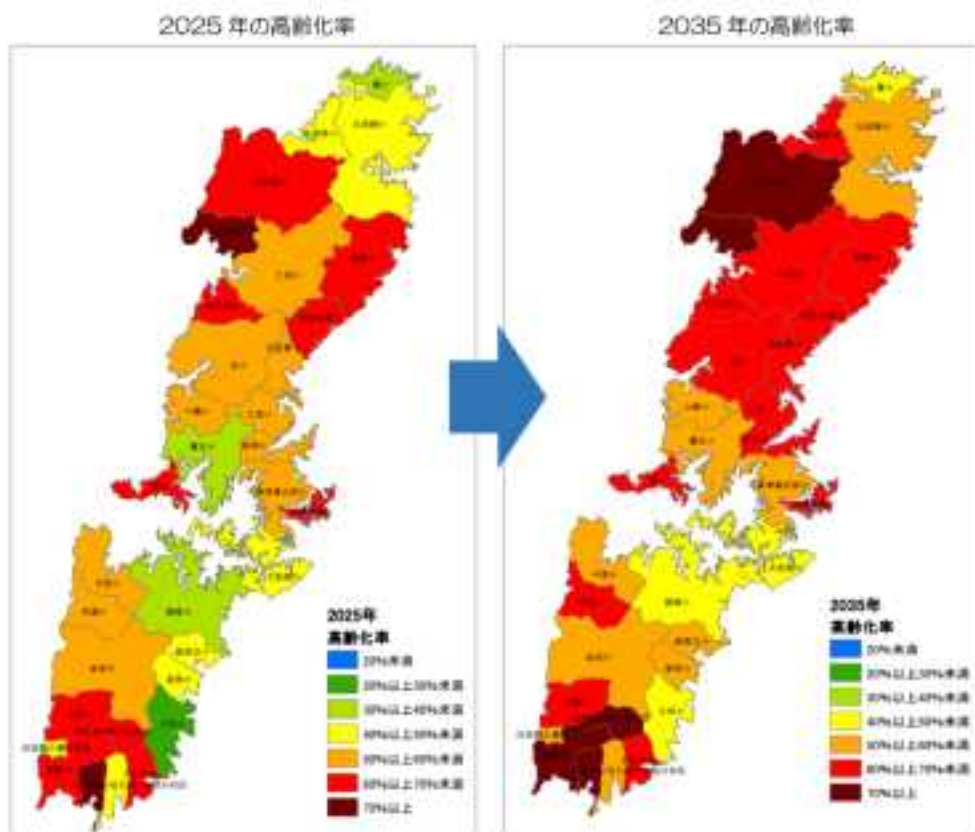
#### 【目標数値】

指標	R2	R7
創業支援事業による創業者数	年7件	
企業誘致数	6件(累計)	8件(累計)
新規雇用者数(雇用拡充)	29人(累計)	75人(累計)



# 「つながり」についての現状と課題

今後ますます、対馬市の高齢化率が高くなっていきます。一方で、自主財源は行財政運営に必要な経費全体の20.1%であり、地方交付税や国県支出金、市債等の財源に依存しています。今後は地方交付税の減額等により、ますます財政状況が厳しくなります。自助・互助・共助・公助をそれぞれ推進し、地域主導の取り組みを進めていくことが求められます。



## ●人と人とのつながりが薄くなり、地域主導の活動が少なくなっている

地域内・外の人と人とのつながりがなくなっていると感じる市民が多くいます。若者がいないために継続できていない伝統的な祭りや行事が増えています。地域づくりのキーパーソン(先導役)が中心となって、地域主導の地域づくり活動を進めていくことが求められています。また、国境の島という地の利を生かして、国内外の様々な交流の機会を作り、人のつながりを再構築していくことも重要です。

## ●安心できる福祉・医療体制の維持

島内の基幹病院は、病院の再編・統合により「長崎県対馬病院」と「長崎県上対馬病院」が島内の医療体制を牽引する主要公的医療機関となっています。今後も対馬の人口減少が予測される中で、現状の医療体制を維持していくことが課題です。また、高齢者が今後ますます増えていく中で、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるように、自宅から30分圏内で暮らしに必要なサービスが受けられる地域包括ケアシステムの仕組みを作る事が求められます。

## ●生活インフラの維持と災害への備え

生活インフラ(道路、橋梁、トンネル、水道)の老朽化を見据えて、定期的な点検や長寿命化を図ることが重要です。また、多発する自然災害に対して備えるために、地域主体の防災・災害対策を検討することが求められます。

## ●島内交通が不便な状況

対馬市における自家用車以外の主な移動手段は、路線バスとタクシーです。そのため、自家用車を持たない高齢者や子どもたちの移動手段が限られており、不便という市民の声が多く聞かれます。一方で、少子化や人口減少、車社会の進展等により、バスの利用者も減少しているため、交通事業者の経営状況も悪く、公共交通の維持と利便性の向上をいかに図っていくかが課題です。その中で、コミュニティ交通、スクールバスの混乗等地域の状況に応じた地域交通の仕組みを組み立てていくことも重要です。また、AIによる自動運転の可能性も探る必要があります。

# 挑戦③ つながりづくり

支え合いで自立した島を目指して、3つの視点から6つの施策を優先して展開していきます。

## 多様な主体によるしまづくりを推進する

### 1)多様な主体による地域づくりの推進

全ての住民が暮らしやすい地域が存続できるように、地域の自主性を推進する体制(自治組織の再構築等)や地域マネージャー制度の見直しを行い、住民主導の多様な地域活動がより円滑に展開できる仕組みを再構築する。



### 2)国内外の交流の推進

国境の島である対馬において、人のつながりによって得られる文化・歴史・自然・地域の豊かさを追求した対馬らしい持続可能なしまづくりを目指して、国内外との多様な主体が交流・連携する仕組みや機会を作る。



## 持続可能な福祉と医療の体制を整える

### 1)健康づくりと医療体制の充実

高齢化が進む中で、一人でも多くの市民がいいきと健康に暮らしていけるように、健康増進に資する取り組みの推進や医療体制の充実を図るとともに、やりがいや生きがいとなる地域活動や働く場を充実させる。



### 2)福祉の充実と地域包括ケアシステムの構築

高齢者をはじめ、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指して、自宅から30分圏内で暮らしに必要なサービスが受けられる地域包括ケアの仕組みを作る。



## 持続可能なライフラインを確保する

### 1)生活インフラの維持と安心・安全のまちづくり

生活インフラが維持された安心安全なまちづくりを目指して、道路、橋梁、トンネル及び水道の点検・改良・維持補修を進めていくとともに、洪水や豪雨、高潮等の災害に対する地域主体の防災・災害対策を進める。



### 2)島内外の交通システムの利便性向上

島内交通システムの利便性を向上させ市民の足を確保することを目指し、需要に応じた適切なサービスを効率的に供給できる公共交通体系を地域とともにつくる。また、航空路・航路を維持するための補助制度の継続や玄関口である港の整備を実施する。



## 将来像③

# 支え合いで自立した島

- 地域主導の活動が進められている
- 福祉・医療体制が維持され、安心して暮らせる
- 暮らしのライフラインが維持されている

## 1)多様な主体による地域づくりの推進

### 目的・目標

全ての住民が暮らしやすい地域が存続できるように、地域の自主性を推進する体制(自治組織の再構築等)や地域マネージャー制度の見直しを行い、住民主導の多様な地域活動がより円滑に展開できる仕組みを再構築する。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 地域づくり活動を円滑に進めるための仕組みづくり

- ・ 各地区・各校区での計画作成と進捗管理
- ・ 地域づくりを進める自治組織の再構築の検討
- ・ 地域マネージャー制度の見直しと、市職員による地域活動の支援のあり方の再検討
- ・ わがまち元気創出支援事業やまちづくりアドバイザー派遣支援事業の継続と強化
- ・ 各分野の課題解決に即した外部人材や各種支援員の増員検討(島おこし協働隊制度)
- ・ 地域活動等の情報提供の強化(地域包括支援センターの設置、運営協議会の実施)
- ・ ボランティア活動を推進するための仕組みづくりとボランティア団体との連携



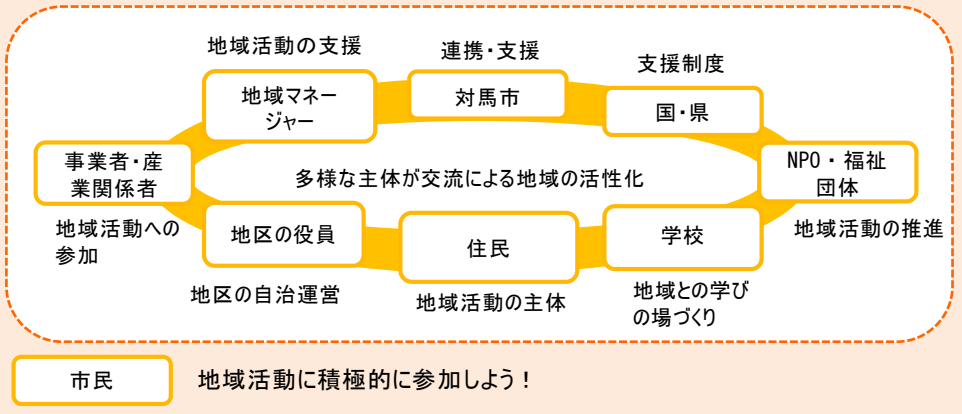
#### 2 住民主体の地域づくり活動の実施

- ・ 健康増進や高齢者生活支援の推進
- ・ 買い物支援・移動販売・見守り活動への支援
- ・ コミュニティ交通の運行体制の検討
- ・ 集落営農や有害鳥獣対策の捕獲隊等の一次産業や加工業等の従事者への支援検討
- ・ シルバー人材登録制度や有償ボランティア制度の推進
- ・ 老人クラブ活動及びスポーツ大会運営等支援
- ・ 防災対策や避難訓練の実施
- ・ 生ごみ処理器設置の推進
- ・ 生ごみ・廃食油資源再利用の推進
- ・ 合併処理浄化槽の設置の推進
- ・ 漂着ごみの回収 等



### 推進の体制・役割分担

多様な主体が連携して地域づくりの推進するための体制づくり



### 関連する計画

一般廃棄物処理基本計画

### 行政担当課

総務課 地域安全防災室  
 政策企画課 地域づくり課  
 環境政策課  
 福祉課  
 いきいき健康課  
 地域包括ケア推進課  
 農林しいたけ課 自然共生課  
 学校教育課  
 消防本部総務課

### 【データ】

項目	数値
地域づくり計画作成地区数(H30)	89地区
わがまち元気創出支援事業採択数(R1)	年13件
生ごみ回収協力世帯数(R1)	2,010世帯

### 【目標数値】

指標	R2	R7
地域づくり計画作成地区数	100地区	181地区
わがまち元気創出支援事業採択数	10件/年	
生ごみ回収協力世帯数	2,100世帯	3,000世帯



## 2)国内外の交流の推進

### 目的・目標

国境の島である対馬において、人のつながりによって得られる文化・歴史・自然・地域の豊かさを追求した対馬らしい持続可能なしまづくりを目指して、国内外との多様な主体が交流・連携する仕組みや機会を作る。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 多様な立場にある人・組織間の交流・連携の強化

- ・ 経済・社会・環境分野の交流・連携を推進するためのSDGsの考え方の市民への啓発
- ・ しまづくりを一体的に進めるための多様な主体の異業種間連携の推進
- ・ 対馬市の重要施策に横断的に取組むための組織体制の検討
- ・ 生産・加工・流通・販売等に関連する事業者間の連携強化

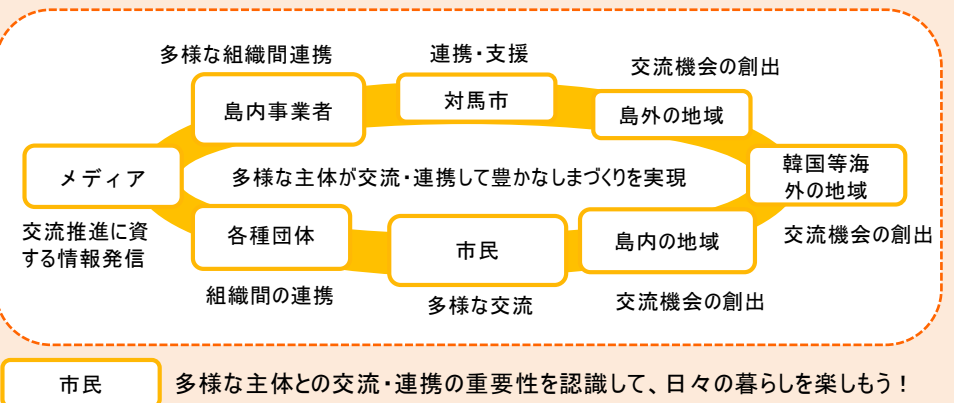
#### 2 島内外の地域間の交流・連携の強化

- ・ 対馬での交流イベントの実施(対馬厳原港まつり、国境マラソン大会、国境サイクリング大会、対馬アートファンタジア、日韓市民ビーチクリーンアップ等の開催)
- ・ 朝鮮通信使ユネスコ世界記憶遺産に関連する活動・PRの展開
- ・ 博物館と連携した朝鮮通信使資料館の建設と維持管理
- ・ 韓国との交流の継続(ホームステイや国際人育成事業等)
- ・ 韓国の歴史や文化、風習、韓国語等について講座等の開催
- ・ 対馬高校の国際文化交流コースの取組み支援
- ・ 協定を結んでいる自治体との人・物産・文化交流・連携活動の推進
- ・ 国内外の友好都市・姉妹都市との相互交流の推進
- ・ 国際交流を推進するための海外への情報発信の強化(台湾での紹介番組の放送、YouTubeへの映像アップ及び英・韓・中国語の紹介パンフレット作成)



### 推進の体制・役割分担

多様な主体や地域が交流・連携するための体制づくり



### 関連する計画

### 行政担当課

- 総務課
- 政策企画課
- SDGs推進室
- しまの力創生課
- 地域づくり課
- 観光商工課
- 文化交流課
- 博物館学芸課
- 環境政策課

### 【データ】

項目	数値
島内航空路利用者数(島民以外) (R1)	154,898人
島内航路利用者数(島民以外) (R1)	132,794人
国際航路利用者数 (R1)	525,968人

### 【目標数値】

指標	R2	R7
島内航空路利用者数(島民以外)	—	16万人
島内航路利用者数(島民以外)	—	14万人
国際航路利用者数	—	30万人



## 1)健康づくりと医療体制の充実

### 目的・目標

高齢化が進む中で、全ての市民がいいきと健康に暮らしていけるように、健康増進に資する取り組みの推進や医療体制の充実を図るとともに、やりがいや生きがいとなる地域活動や働く場を充実させる。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 健康増進に関する啓発・情報発信の強化

- 健康維持のための各種健診の実施(特定保健指導、肥満予防のための健康教育)
- 特定健診、各種がん検診の勧奨
- メディアを活用した健康づくりの推進(CATVでのヤマネコ体操等)

#### 2 健康増進につながる地域活動・働く場の充実

- 地域づくりの取組みへの参加(見回り活動、地区清掃、農作業、健康体操、地区会合や行事等)
- シルバー人材センターの機能強化による働く場の提供(一次産業、観光ガイド、ふるさと学習支援、手仕事・加工作業等)
- 民間の地域組織・団体(サロン実施団体)による健康づくり活動や講習会の各種支援の強化
- 生涯スポーツの振興
- 地区組織(健康つま21推進員・食生活改善推進員等)の活動の推進
- 子どもの食育の推進

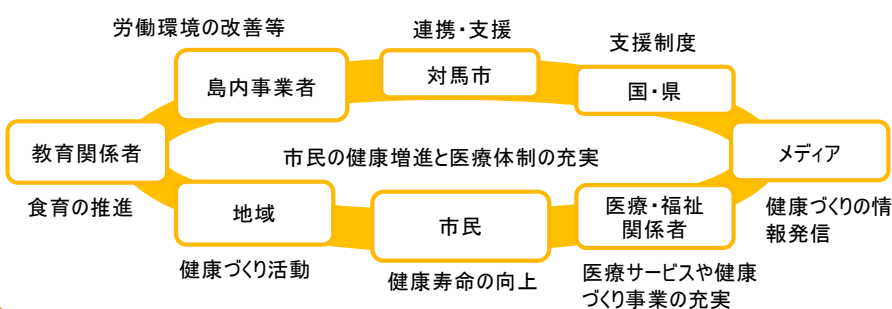
#### 3 医療体制の維持

- 病院・診療所機能の継続
- 救急搬送から治療開始までの時間短縮に向けた対応(救急車から病院への心電図等情報の伝送)
- AED使用方法の講習会の継続
- 消防・救命に関わる人員の確保とスキルアップのための研修の推進
- 医療関係の担い手の確保、インターンの受入の継続



### 推進の体制・役割分担

健康増進の場を作り、市民の健康寿命を伸ばす体制づくり



市民 いつまでも健康でいられるように運動や食生活の改善を行おう！

### 関連する計画

健康つま21計画  
食育・地産地消推進計画  
歯なまるスマイル21プラン  
地域福祉計画

### 行政担当課

福祉課  
いきいき健康課  
地域包括ケア推進課  
各保健センター  
学校教育課  
生涯学習課  
消防本部警防課

### 【データ】

項目	数値
健診受診率 (R1)	46.3%
保健指導の実施率 (R1)	56.9%
AEDの講習会数 (R1)	64回

### 【目標数値】

指標	R2	R7
健診受診率	44.5%	47%
保健指導の実施率	58%	60%
AEDの講習会数	60回／年	



## 2)福祉の充実と地域包括ケアシステムの構築

### 目的・目標

高齢者をはじめ、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指して、自宅から30分圏内で暮らしに必要なサービスが受けられる地域包括ケアの仕組みを創る。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 生活支援・介護予防サービス等の推進

- ・ 介護サービス、医療サービスの充実
- ・ 医療機関と介護との連携や在宅医療推進体制の検討
- ・ 在宅医療・在宅ケアの啓発活動の推進
- ・ 介護従事者の確保のための取組の支援
- ・ 自立を支援する人材の確保・育成
- ・ 民間の地域組織・団体(生活支援実施団体)との連携・各種支援の強化
- ・ 助け合い推進に関する啓発活動(研修会や講演会等の開催)
- ・ 認知症に関する知識や介護方法の周知・啓発、介護予防体操の推進
- ・ 相談体制の充実
- ・ 高齢者にやさしい市営住宅の整備



#### 2 高齢者の見守りに関する施策の実施

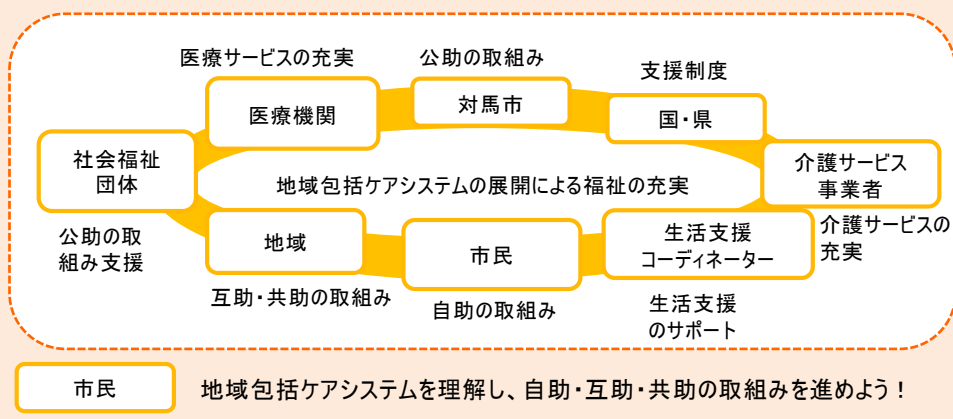
- ・ 民生委員などを中心に地域での見守り体制の整備
- ・ 高齢者等の自立した生活のための施策の推進
- ・ 見守りネットワークの取組の推進、仕組みの確立  
(登録者の把握、情報共有の仕組みづくり、一人暮らし高齢者の把握と連絡体制の確立 等)

#### 3 へき地からの移動手段の確保と買い物支援

- ・ 過疎化・高齢化が顕著な地域における移動手段の確保
- ・ 多様な地域交通政策による公共交通の利便性向上の推進
- ・ 生活支援(買い物支援他)事業の実施

### 推進の体制・役割分担

30分圏内で高齢者が安心して暮らせる体制づくり



### 関連する計画

地域福祉計画  
高齢者福祉計画及び介護保険事業計画  
対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略

### 行政担当課

地域づくり課  
福祉課  
保険課  
いきいき健康課  
地域包括ケア推進課  
各保健センター  
管理課  
建設課

### 【データ】

項目	数値
買い物支援を行っている地域(中学校区)の数(R1)	3
生活支援や通いの場を実施する団体数(R1)	78

### 【目標数値】

指標	R2	R7
買い物支援を行っている地域(中学校区)の数	4	6
生活支援や通いの場を実施する団体数	80	90





## 1)生活インフラの維持と安心・安全なまちづくり

### 目的・目標

生活インフラが維持された安心安全なまちづくりを目指して、道路、橋梁、トンネル及び水道の点検・改良・維持補修を進めていくとともに、洪水や豪雨、高潮等の災害に対する地域主体の防災・災害対策を進める。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 道路・トンネル・橋梁の整備・維持補修

- 道路・トンネル・橋梁の定期的な点検による健全度の把握
- 計画に基づく道路・トンネル・橋梁の修繕による長寿命化
- 災害による道路の補修（災害復旧工事）
- 都市計画区域内の市道美化・拡幅

#### 2 水道の維持補修

- 水道事業経営戦略プランに基づく水の安全の確保と安定供給の維持
- 水源林の保全と水質調査の実施、新たな水源の確保
- 不法投棄の監視と対策
- 水不足解決のための新たな水源の開発検討
- 敷設水道管の更新

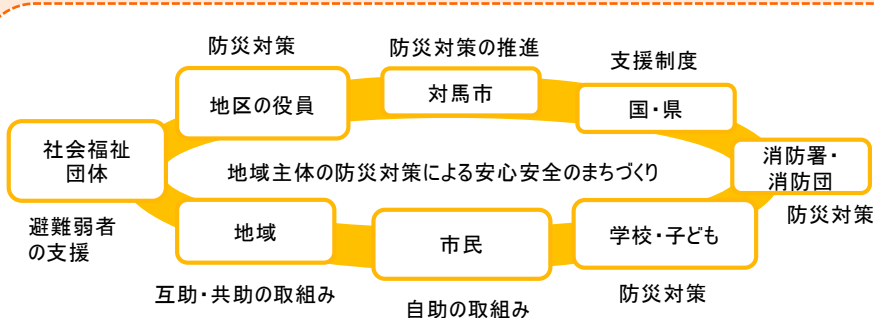
#### 3 災害対策の推進

- 対馬市防災会議の実施
- 市民への防災知識の普及啓発（土砂災害ハザードマップ※作成）
- 地域主体の防犯・自然災害への対策の実施（地域避難訓練の実施）
- 避難弱者の把握と支援
- 防災ボランティアの受入体制の整備
- 救急救命士と消防団組織の育成・強化、民間防災組織の結成（自主防災組織の結成）
- 消防署からの出動要請に応じる協力事業所数の増加（消防団協力事業所表示制度）
- 高規格救急車・災害用備蓄品・消防団の安全確保用の装備品等の配備
- 給水タンク用車両の配備
- 消防団拠点施設や消防水利の整備
- 防災関係などの情報集約とデジタル化、災害時のリアルタイムな情報発信の体制構築



### 推進の体制・役割分担

地域主体の防災対策に取り組める体制づくり



市民 日頃から災害への備えを行い、地域の中での防災活動に参加しよう！

### 関連する計画

対馬市橋梁長寿命化修繕計画  
トンネル長寿命化修繕計画  
地域防災計画  
国土強靱化地域計画  
水道事業経営戦略プラン  
集落排水処理施設経営戦略

### 行政担当課

総務課 福祉課 いきいき健康課  
地域包括ケア推進課 各保健センター  
管理課 建設課  
上対馬振興部北部建設事務所  
水道課 消防本部総務課

### 【データ】

項目	数値
改良中の完成路線数(R1)	6
市道整備の事業費に対する執行済事業率	63%
橋梁の修繕本数	4橋
消防本部からの出動要請に対応する事業所認定数(H30)	44
自主防災組織の数(R1)	17
災害時の備蓄倉庫の確保(H30)	1

### 【目標数値】

指標	R2	R7
改良を行う路線数	3	6
市道整備の事業費に対する執行済事業率	100%	100%
橋梁の修繕本数	年間10橋	
消防本部からの出動要請に対応する事業所認定数	50	
自主防災組織の数	年間2件増加	
災害時の備蓄倉庫の確保	2	3

## 2)島内外の交通システムの利便性向上

### 目的・目標

島内交通システムの利便性を向上させ市民の足を確保することを目指し、需要に応じた適切なサービスを効率的に供給できる公共交通体系を地域とともにつくる。また、航空路・航路を維持するための補助制度の継続や玄関口である港の整備を実施する。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 地域の需要に応じた効率的な島内交通システムの構築

- ・ 対馬交通(株)が運行する路線の維持・利用促進(運行区間・便数の適正化、利用しやすいダイヤ設定)
- ・ 地域主体のコミュニティ交通の維持・推進
- ・ 市営バス・スクールバス一般混乗の維持
- ・ 予約制乗合タクシーの維持、福祉タクシーの活用検討
- ・ 自動運転による路線バスの実装
- ・ 地域包括ケアシステムとの連携(高齢者の移動手段確保と買い物支援)
- ・ 島内交通のフリーパスポート制度の維持



#### 2 航空路・航路の維持、運賃の低廉化

- ・ 航空路・航路の路線維持
- ・ 比田勝-博多間のジェットフォイルの混乗便の継続
- ・ 航空路・航路の運賃の低廉化(国境離島島民・準国境離島島民)
- ・ 利用数や利用状況をふまえた最適な島外アクセス体制の再検討
- ・ 航空機、船舶、車両等の更新の推進、経営支援の継続



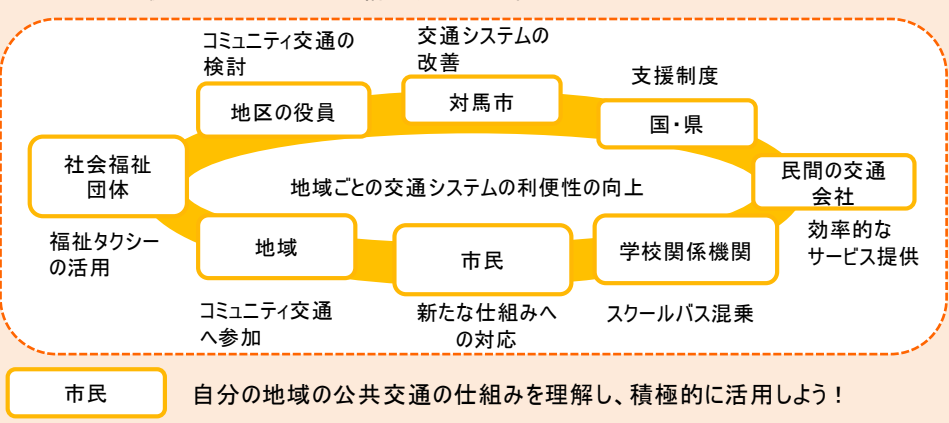
#### 3 玄関口である港の整備

- ・ 比田勝港国際ターミナルの拡張
- ・ 厳原港国際ターミナルビル建設(R6年度に完成予定)



### 推進の体制・役割分担

地域ごとに最適な交通システムを構築するための体制づくり



### 関連する計画

地域公共交通網形成計画  
地域公共交通再編実施計画

### 行政担当課

地域づくり課  
観光商工課  
地域包括ケア推進課  
管理課 建設課  
中対馬振興部地域振興課  
上対馬振興部地域振興課  
上対馬振興部北部建設事務所

### 【データ】

項目	数値
公共交通利用者数(路線バス等) (R1)	37.9 万人
コミュニティバス等の路線数 (R1)	3路線
公共交通利用者数(航路・航空路) (R1)	50.8 万人

### 【目標数値】

指標	R2	R7
公共交通利用者数(路線バス等)	40万人	
コミュニティバス等の新規路線数	2路線	
公共交通利用者数(航路・航空路)	52万人	

# 「ふるさと」についての現状と課題

対馬市は豊かな自然に恵まれている一方で、様々な市民活動や外的な要因により、自然環境が悪化しています。山林や海へのごみのポイ捨てや不法投棄が後をたちません。市民一人ひとりの自然や生態系、ふるさとへの意識の改善も必要です。また、シカ・イノシシによる獣害被害により森林の劣化が深刻化しています。豊かな自然や素晴らしい文化、景観等を大切に思い、次世代に残すには市民一人ひとりが心がけ、対馬の自然や文化・歴史に誇りをもち、それらの保全に取り組んでいくことが大切です。

## 【ツシマジカの状況】

推定個体数33,155頭

(平成30年度末、階層バイズ法、環境省)

個体数を3,500頭に減らすためには令和元年に12,885頭の捕獲が必要

令和元年度の捕獲実績 8,236頭

有害鳥獣対策関連 約21億円(平成7年度～平成30年度)

(捕獲補助・防護対策、駆除委託、罠購入など)

有害鳥獣従事者数 188名(平成31年4月時点)

ワイヤーメッシュ防護柵設置 総延長 約1,082km



## ●生態系の劣化が進む対馬

対馬では人間の活動による自然環境の改変が進んでいます。海岸・河川の人工的な護岸やコンクリート張りの道路・水路・法面は景観が良くないだけでなく、生物の生息場所を消失させています。農林業の衰退により、放置林や耕作放棄地が増え、里山の生態系が劣化しています。漁獲技術の向上等により、多くの水産資源が獲り過ぎの状態にあり、海の生態系も健全とはいえません。近年のツシマジカやイノシシの増加にともない、市内の里山に深刻な影響を与えています。2013年度から外来のツマアカスズメバチ※が対馬に侵入し、対馬の農林業に多大な影響を与えるおそれがあります。

## ●大量のごみで埋もれる対馬

景観が美しい対馬の海岸には、廃材や発砲スチロール、廃プラスチック、漁網等の漂流・漂着ごみが大量に流れ着いています。回収しても、わずかな期間で新たなごみが海岸へ流れ着きます。回収には毎年、巨額の資金が投入されています。また、1人当たりのゴミ処理の経費は令和元年度で64,734円/人と県内でも高額です。また、汚水処理の人口普及率は同年度で35.91%であり、離島や過疎地等対馬と条件の近い県内の他自治体と同様に、生活排水が河川や海に流れています。

## ●島外の化石燃料※に依存している対馬のエネルギー

発電用重油の他、日常生活や産業活動で使用するガソリンや軽油・重油・灯油等、すべてを島外からの供給に依存しています。対馬まで運ぶ経費がかかり本土と比べて燃料代が高くなっています。また、原油価格高騰等の影響に伴う石油製品の価格上昇や不安定さが対馬の地域経済に深刻な影響を与えています。

## ●対馬の遺跡や文化財を守り、活用する

対馬には多くの貴重な遺跡や文化財があります。これらの歴史・文化的な地域資源を保存し、後世に残していくとともに、対馬市民や観光客が対馬の魅力を知る教材として活用することが求められています。

## ●活用されていない公共施設・建物

対馬には公共施設が多く存在していますが、十分に利活用されていない施設もあります。そのような施設の維持・管理費は、市の財政を圧迫しています。また、使用されなくなった廃校や空き家、空き店舗が多くなってきており、それらの利活用も今後の課題です。



# 挑戦④ ふるさとづくり

自然と暮らしが共存する島を目指して、3つの視点から6の施策に優先的に取り組みます。

## 豊かな自然環境を取り戻す

### 1)多様な生物と共生する里地里山づくり

里地里山の多様な生物と人が共生し豊かな自然の恵みを享受できる地域を取り戻すために、多様な主体が連携して、対馬の自然を象徴する希少種の保全や有害獣害対策、環境教育に積極的に取り組む。

### 2)海洋資源の保護と豊かな里海づくり

対馬の豊かな海洋環境を守り、海からの恵みを持続可能な形で享受できる地域を目指して、漁業者をはじめ市民が共感する海洋保護区※の設定に向け、多様な主体が連携して、資源管理に基づく漁業や磯焼け対策を進めていく。



## 環境負荷の低い暮らしを営む

### 1)ごみの削減とリサイクルの推進

市民一人ひとりの環境への意識を高め、ごみのない美しい対馬を目指して、生活や産業から発生するごみの削減とリサイクルを進めるとともに、多様な主体が連携した漂流・漂着ごみの回収と発生抑制対策を強化する。

### 2)再生可能エネルギーの推進

気候変動対策に貢献する環境負荷の低い地域を目指して、市民一人ひとりが省エネの生活様式に切り替えるとともに、木質バイオマス※や洋上風力※を軸とした再生可能エネルギー※の活用を検討する。



## 貴重な資産・資源を継承・活用する

### 1)固有の遺跡や文化財の保存と活用

対馬を代表する歴史文化遺産を保存し、その価値を後世へ継承していくために、博物館の整備等により文化財を活用した情報発信・交流の場を設けるとともに、文化財を活用できる専門性を有する人材確保を目指す。

### 2)美しい景観の保全と未利用な資産の利活用

対馬の美しい景観を保全するとともに、有用な地域資源を活用し、次世代に残していくために、多様な主体が連携して、魅力を高めるまちづくりを推進するとともに、公共資産の利活用を推進する。



## 将来像④

# 自然と暮らしが共存する島

- 豊かな自然環境が回復している
- 環境に負荷をかけない暮らしをしている
- 地域の資源をうまく活用している



## 1)多様な生物と共生する里地里山づくり

### 目的・目標

里地里山の多様な生物と人が共生し豊かな自然の恵みを楽しむことができる地域を取り戻すために、多様な主体が連携して、対馬の自然を象徴する希少種の保全や有害獣害対策、環境教育に積極的に取り組む。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 生物多様性※保全の取組

- ・ ツシマヤマネコ等希少生物の保全や交通事故防止に関する啓発活動、生息調査および保全
- ・ 希少生物の保全を目指した自然保護活動の推進、全国の動物園等と連携した PR活動
- ・ 対馬地区ネコ適正飼養の推進
- ・ 特定外来種※(ツマアカスズメバチ等)の駆除と普及啓発、森林の病虫害被害対策
- ・ 生物多様性保全の各種事業の展開(ツシマウラボシシジミの里復元、希少植物保全)
- ・ 生物多様性の高い保護すべき地域における希少生物の保護や森林再生活動の実施
- ・ 生物多様性保全に資する取組みや環境配慮型の農林産物のブランド化・PR支援



#### 2 有害鳥獣対策(防護、捕獲、利活用)と農地と森林の管理・保全

- ・ 集落の農地を守るため防護柵設置への助成、防護対策の実施
- ・ 有害鳥獣の捕獲報奨金の継続及びハンター・罾捕獲従事者の育成支援
- ・ モデル地区での支援の充実および生態系被害エリアでの防護・捕獲
- ・ GIS等を活用した情報の一元化、情報の共有、個体数や被害状況、植生のモニタリング※の実施
- ・ 搬送・流通体制の整備と加工製品の販路拡大
- ・ 獣肉加工や皮革製品等加工品に関する各種支援
- ・ 多様な主体の連携と情報共有
- ・ 照葉樹林(広葉樹)の森林の保全と持続可能な利用に資する取組みへの支援
- ・ 林業やしいたけ原木の調達による森への影響や里海への環境影響評価とモニタリングの実施

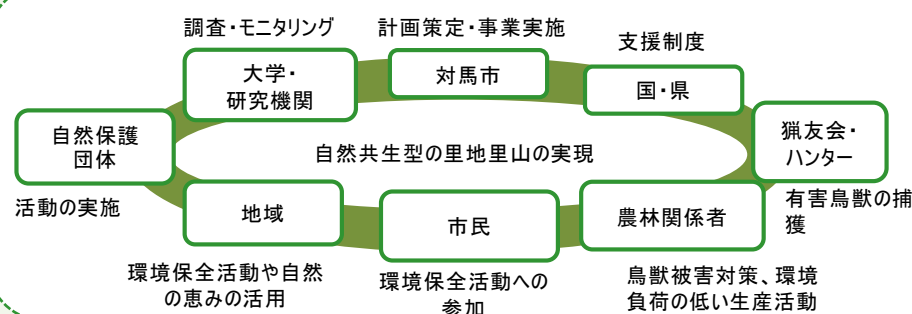


#### 3 担い手の育成と自然共生に向けた仕組みの検討

- ・ ESD教育※やエコツーリズム※の推進
- ・ ネイチャーガイドの養成、紹介窓口機能の強化
- ・ 自然共生社会に向けた土地利用の検討とゾーニングの検討

### 推進の体制・役割分担

有害鳥獣対策とヤマネコを頂点とした生態系保全の活動を推進するための体制づくり



市民 自然や生き物の魅力を知り、環境保全活動に参加しよう！

### 関連する計画

- 環境基本計画
- 森林づくり基本計画
- ツシマヤマネコ保護増殖事業実施方針
- 壱岐・対馬鳥獣被害防止計画
- 対馬ニホンジカ管理計画

### 行政担当課

- 文化交流課
- 農林しいたけ課
- 自然共生課
- 水産課

#### 【データ】

項目	数値
シカの捕獲頭数(R1)	8,236頭
イノシシの捕獲頭数(R1)	5,367頭
有害鳥獣捕獲従事者の数	193人
捕獲隊結成数	10地区

#### 【目標数値】

指標	R2	R7
シカの捕獲頭数	10,000頭	6,000頭
イノシシの捕獲頭数	7,000頭	7,000頭
有害鳥獣捕獲従事者の数	200人	250人
捕獲隊結成数	12地区	20地区

## 2)海洋資源の保護と豊かな里海づくり

### 目的・目標

対馬の豊かな海洋環境を守り、海からの恵みを持続可能な形で享受できる地域を目指して、漁業者をはじめ市民が共感する海洋保護区の設定を目指し、多様な主体が連携して、資源管理に基づく漁業や磯焼け対策を進めていく。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 海洋保護区の設定と推進体制の構築

- ・ 海洋保護区設定推進協議会による活動内容の検討
- ・ 海洋保護区設定の推進に向けた協議会や作業部会の開催
- ・ 海域利用者や陸域（農林業）との協力体制の構築
- ・ 対馬での取組や保護区設定の重要性についての島内外への啓発活動

#### 2 資源管理計画に基づく漁業の推進

- ・ 魚種・漁法ごとの作業部会の立ち上げ
- ・ しまうみ管理計画に基づく水産資源の管理と取組のPR
- ・ 大学や漁業関係者と連携した魚種、海藻類の資源量調査
- ・ 磯焼け対策（藻場調査と食害生物の資源化）の全島展開
- ・ 大学等との連携による資源量や環境のモニタリングの手法の確立

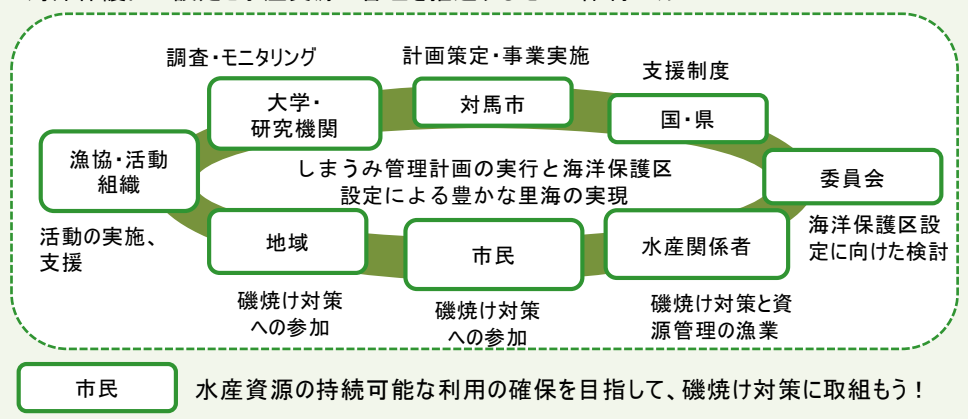
#### 3 磯焼け対策の実施

- ・ 食害生物の捕獲の推進と有効活用の検討
- ・ 藻場再生に資する活動や実験の推進
- ・ 漁業者や活動組織間の連携・情報共有
- ・ 森里海のつながりの再構築に向けた異業種連携のための協議



### 推進の体制・役割分担

海洋保護区の設定と水産資源の管理を推進するための体制づくり



### 関連する計画

海洋保護区しまうみ管理計画

### 行政担当課

政策企画課  
SDGs推進室  
農林しいたけ課  
自然共生課  
水産課

#### 【データ】

項目	数値
離島漁業再生支援交付金事業実施集落数	23
水産多面的機能発揮対策事業交付金実施組織数	14

#### 【目標数値】

指標	R2	R7
離島漁業再生支援交付金事業実施集落数	27	37
水産多面的機能発揮対策事業交付金実施組織数	14	17





## 1)ごみの削減とリサイクルの推進

### 目的・目標

市民一人ひとりの環境への意識を高め、ごみのない美しい対馬を目指して、生活や産業から発生するごみの削減とリサイクルを進めるとともに、多様な主体が連携した漂流・漂着ごみの回収と発生抑制対策を強化する。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 市民のごみや資源に対する普及啓発

- ごみのポイ捨てや不法投棄に対する啓発(警察やCATVの活用)
- 県道・市道でのボランティア清掃の開催
- 4R※の推進(省エネの推進、マイバッグ・マイカップ使用の推奨、地域主催のフリーマーケット開催の推進)
- 漂着ごみ等に係るスタディーツアーの造成



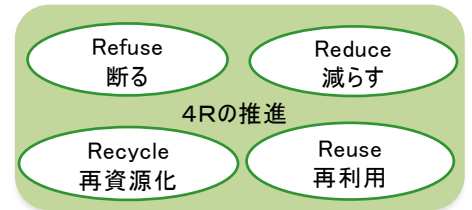
#### 2 生活や産業から出るごみ等の適切な処理

- 生ごみの分別と回収率を上げるための仕組みの検討(市民のインセンティブの創出)
- 廃棄物処理施設の維持・管理
- 生ごみ処理器を設置する家庭に対する補助



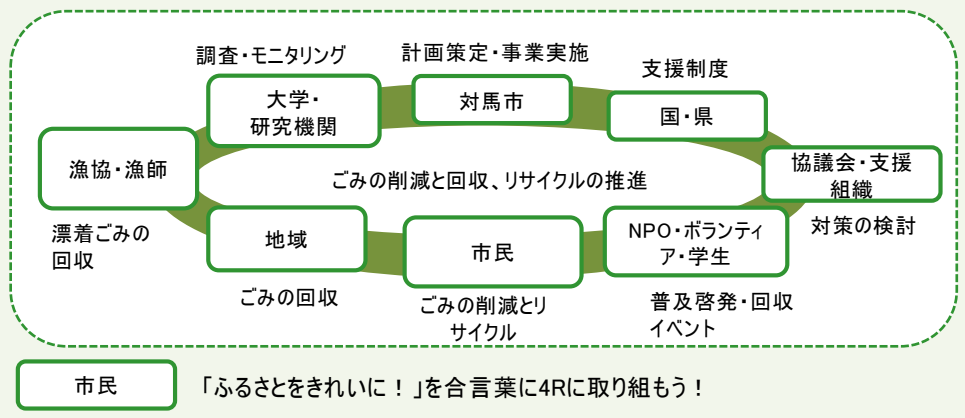
#### 3 漂流・漂着ごみの回収と発生抑制対策

- 対馬市海岸漂着物対策推進協議会や中間支援組織を中心に実施内容を企画・検討
- 海岸漂着物対策協議会の運営と開催による多主体連携体制の構築
- 漁業関係者とボランティアによる漂流ごみの回収清掃活動の実施
- 日韓海岸清掃イベント(ビーチクリーンアップ)の継続開催
- 漂着ごみ(流木等)の島内処分と活用の検討
- 漂着ごみ(発泡スチロールや大型パイ)のペレット化とボイラーの燃料としての利用
- 企業との連携・誘致による回収したごみの資源化(ポリタンクのリサイクル等)の仕組みづくり
- 海ごみイベントの開催やトランクミュージアムを活用した普及啓発
- 海ごみをテーマにした国際サミット(韓国・中国・台湾・インドネシア等)の開催検討
- 大学等と連携した全島のごみの量の把握と効率的な回収方法の検討



### 推進の体制・役割分担

多様な主体が連携してごみの回収と発生抑制に取り組むための体制づくり



### 関連する計画

海岸漂着物対策推進行動計画  
一般廃棄物処理基本計画

### 行政担当課

政策企画課  
SDGs推進室  
地域づくり課  
文化交流課  
環境政策課  
農林しいたけ課  
自然共生課  
水産課

#### 【データ】

項目	数値
生ごみの分別協力世帯(R1)	2,010世帯
漂着ごみ回収量(R1)	7,908m <sup>3</sup>
ボランティアによる漂着ごみ回収量(R1)	496m <sup>3</sup>
ボランティアツアーの開催回数	5回
島外からのスタディーツアー参加団体数	0団体

#### 【目標数値】

指標	R2	R7
生ごみの分別協力世帯	2,100世帯	3,000世帯
漂着ごみ回収量	8,000m <sup>3</sup>	10,000m <sup>3</sup>
ボランティアによる漂着ごみ回収量	500m <sup>3</sup>	1,000m <sup>3</sup>
ボランティアツアーの開催回数	年10回開催	
島外からのスタディーツアー参加団体数	10団体/年	



## 2)再生可能エネルギーの推進

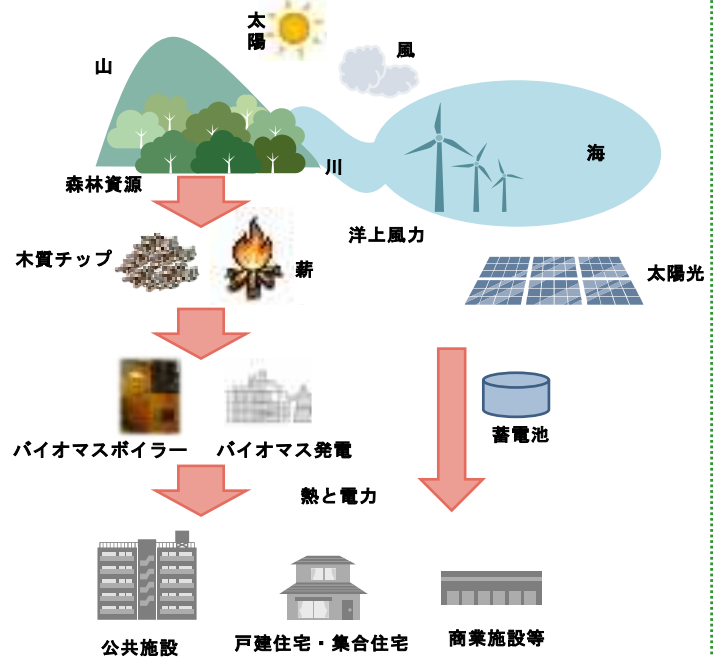
### 目的・目標

地球温暖化による気候変動に貢献する環境負荷の低い地域及びエネルギーの地産地消を目指して、市民一人ひとりが省エネの生活様式に切り替えるとともに、木質バイオマスや洋上風力を軸とした再生可能エネルギーの活用を検討する。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 エネルギーの地産化

- ・ 木質バイオマスの島内利用の検討
- ・ 木質バイオマスボイラー導入拡大
- ・ 公共施設における再生可能エネルギー活用の検討
- ・ エネルギーの流通体制の構築
- ・ 地域エネルギー会社設立の検討
- ・ 事業者や市民への普及啓発
- ・ 森林環境譲与税の活用による取り組み支援
- ・ 発電・熱電併給事業の可能性の継続検討



#### 2 省エネルギー化の推進

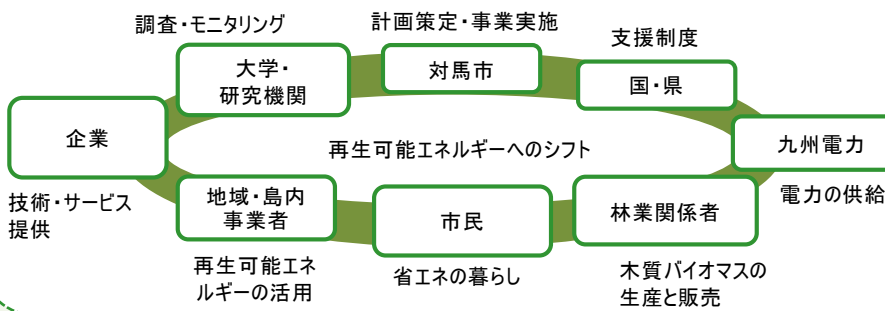
- ・ 省エネ機器の導入推進

#### 3 次世代エネルギー※の導入検討

- ・ 洋上風力発電の導入に向けた調査・実証実験の実施

### 推進の体制・役割分担

自然資源を生かした再生可能エネルギーの利活用に向けた体制づくり



#### 関連する計画

エネルギーマスタープラン  
木質バイオマスエネルギー導入計画

#### 行政担当課

しまの力創生課  
農林しいたけ課  
水産課

#### 【データ】

項目	数値
バイオマスボイラー設置(更新)数(累積)	4件
再生可能エネルギー導入に向けた実証事業の件数	1件

#### 【目標数値】

指標	R2	R7
バイオマスボイラー設置(更新)数(累積)	4件	5件
再生可能エネルギー導入に向けた実証事業の件数	1件	2件



## 1)固有の遺跡や文化財の保存と活用

### 目的・目標

対馬を代表する歴史文化遺産を保存し、その価値を後世へ継承していくために、博物館の整備等により文化財を活用した情報発信・交流の場を設けるとともに、文化財を活用できる専門性を有する人材確保を目指す。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 文化財の保存と継承

- ・ 対馬固有の文化財(無形・有形)の情報の整理
- ・ 文化財整備計画の策定による文化財の指定と管理(対馬の盆踊、博物館周辺の対馬藩関連遺産群と越高遺跡、お船江跡)
- ・ 宗家文庫史料等の保存・研究
- ・ 資料館の建設と博物館の連携した運営
- ・ 対州馬の飼育施設や体制の整備
- ・ 大学などと連携した学術調査研究の推進
- ・ 金石城跡・旧金石城庭園保存活用計画の策定と推進



#### 2 文化財の持続可能な活用

- ・ 博物館と各資料館の展示や方向性の明確化、各館での連携推進、情報発信の充実
- ・ 日本遺産をはじめとする歴史文化遺産の資料作成、情報発信の充実
- ・ 続日本100名城に選定された金田城を核とした観光ルートの整備
- ・ 日韓交流の拠点の形成(博物館展示における日韓交流を題材にした活動展開)
- ・ 子どもたちや地域住民へのふるさと学習における文化財の活用(見学会の開催等)
- ・ 歴史・文化遺産を生かした観光業の推進と活用のルールづくり
- ・ 文化財を知るための各種イベントの開催

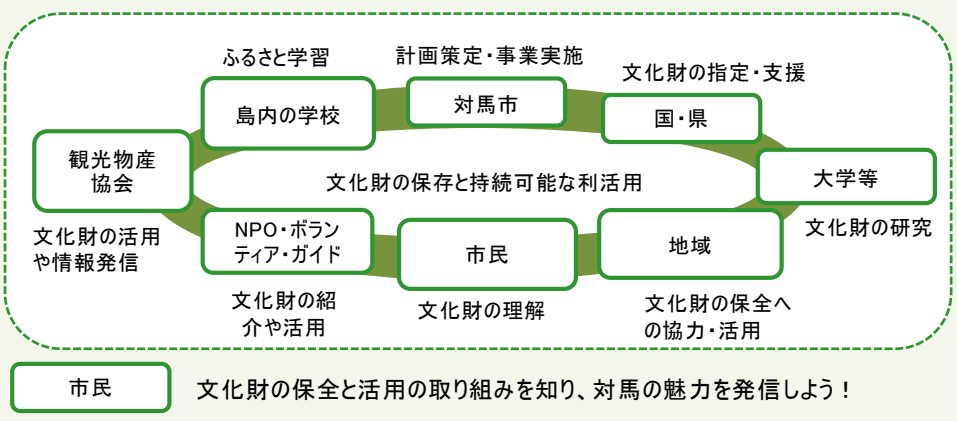


#### 3 専門性を有する人材確保と体制づくり

- ・ 学芸員資格者の新規採用
- ・ 各種NPO等と連携したガイド養成の推進、ガイド窓口機能の強化
- ・ 自主的な地域・研究活動を継続するための制度(市民研究員制度)の導入
- ・ 文化財の保全と活用の両立を実現する仕組みづくり(協議の場づくり等)
- ・ 対馬の歴史・偉人顕彰

### 推進の体制・役割分担

文化財の保全と活用を進めるための多主体連携の体制づくり



### 関連する計画

対馬博物館(仮称)基本計画  
 対馬博物館(仮称)整備基本計画  
 博物館建設に係る国指定史跡金石城跡及びその周辺整備計画  
 金石城跡及び旧金石城庭園保存活用計画(策定予定)  
 対州馬保存計画・活用推進計画

### 行政担当課

観光商工課 文化交流課  
 博物館学芸課  
 自然共生課  
 上対馬振興部地域振興課  
 上県行政サービスセンター  
 美津島行政サービスセンター  
 文化財課

【データ】

項目	数値
県立対馬歴史民俗資料館来場者数(H26)	76,343名 うち外国人67,508名
歴史民俗資料館等の入館者数(R1)	2,245人
対州馬の頭数(島内)	39頭

【目標数値】

指標	R2	R7
博物館の入場者数	—	10万人
歴史民俗資料館等の入館者数	5,000人	6,500人
対州馬の頭数(島内)	40頭	50頭





## 2)美しい景観の保全と未利用な資産の利活用

### 目的・目標

対馬の美しい景観を保全するとともに、有用な地域資源を活用し、次世代に残していくために、多様な主体が連携して、魅力を高めるまちづくりを推進するとともに、公共資産の利活用を推進する。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 1 美しいまちづくり

- ・ 景観条例および景観計画に基づく美しい景観の保全と活用の推進
- ・ 厳原の市街地の石垣を活かした街並みの景観保全
- ・ 都市計画区域内及び条例で指定された区域の屋外広告等の規制推進
- ・ 景観資産の保全と活用の検討
- ・ 博物館を中心とした周遊整備
- ・ 厳原市街地の駐車場の集約化
- ・ 市街地の商業・業務施設の集積
- ・ 中対馬未来づくりアクションプランの実施
- ・ 南部地域および北部地域のまちづくりに関する計画策定と実行
- ・ 美しい景観の維持やゴミのない街・地域づくり

#### まちづくり景観資産

##### 【まちなみ】

鰐浦集落、青海の里、志多留集落、中村地区武家屋敷通り

##### 【建造物】

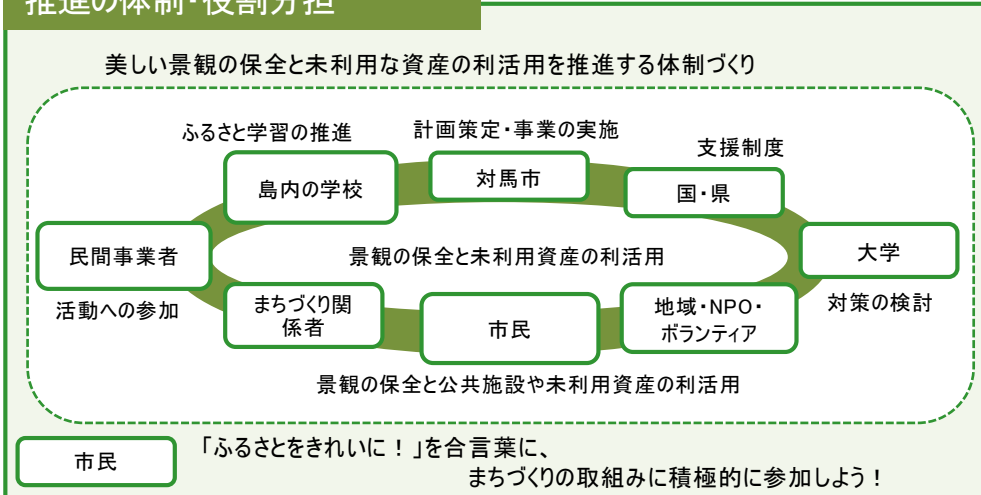
佐野屋橋、棧原城の高麗門、日下家・江崎家の防火壁、村瀬家土蔵、源泉混々、西山家石屋根倉庫、長瀬家石屋根倉庫、和多都美神社、木坂の藻小屋、大浦家住宅、旗原家石屋根倉庫、万関瀬戸(運河)、大船越瀬戸(運河)、深浦水雷艇隊基地跡

#### 2 公共資産の利活用の推進

- ・ 公営住宅の長寿命化(雑知の団地の集約化、バリアフリー※化)
- ・ 公共施設(廃校や未利用施設を含む学校、診療所、体育館等)の適正配置、再編成の検討
- ・ 公共施設や公営住宅の貸付、譲渡、改修の検討(所有・管理の見直し、取扱いの基準の見直し、地域ニーズや実態にあった施設管理の実施)
- ・ 未利用地の有効活用の検討



### 推進の体制・役割分担



### 関連する計画

立地適正化計画  
 辺地に係る公共的施設の総合計画  
 公営住宅等長寿命化計画  
 都市再生整備計画  
 公共施設等総合管理計画  
 個別施設計画第1期  
 景観計画

### 行政担当課

総務課 財産管理運用課  
 政策企画課 地域づくり課  
 観光商工課  
 管理課 建設課  
 中対馬振興部地域振興課  
 上対馬振興部地域振興課  
 文化財課

#### 【データ】

項目	数値
市街地の安心・快適性不満足数(H26)	88%
公営住宅の長寿命化改善実施棟数(R1)	26施設
公共の未利用施設数(土地・建物)	70施設

#### 【目標数値】

指標	R2	R7
市街地の安心・快適性不満足数	—	60%
公営住宅の長寿命化改善計画棟数	5施設/年	
公共施設の利活用数	—	3施設

# 他分野にまたがる課題について

対馬市が直面する多くの課題は、様々な分野にまたがるが多く、一つの担当課では解決できないことがあります。例えば、有害鳥獣の被害対策は、農林業への被害を抑えるだけではなく、希少な動植物への影響、土壌流出による磯場や水産業への影響などにも関わってきます。また、猟師以外にも、被害対策に関わる人は多く、密に情報共有をしながら、多様な主体が連携する必要があります。

SDGs(持続可能な開発のための目標)の中でも、環境・経済・社会の問題を統合的に取り組む重要性があげられていますが、対馬の目指すべきビジョンに向けて有効な取り組みを展開していくためには、分野や担当課にとらわれずに、横断的な連携が必要です。

そこで、後期計画では、重要な課題の中から最優先とする4つのテーマを選定して、市の分野横断的な連携施策として力を入れて取り組んでいきます。

## ひとづくり

### みんなが主役になる仕組みづくり

生きがいを感じて、幸せなしまぐらしを実現するため、全ての市民が参加して活躍するしまづくりを推進

## なりわいづくり

### 地域経済が潤う仕組みづくり

豊富な資源を最大限生かした持続可能な事業を展開し、地域循環を軸に地元製品の消費拡大を推進

## つながりづくり

### 支え合いで自立する仕組みづくり

つながりを再構築し、これからのしまぐらしの基盤を効率的・効果的に整備

## ふるさとづくり

### 自然と暮らしが共存する仕組みづくり

生物多様性保全と生態系サービスの向上、文化歴史などの資源や資産の持続可能な利用と保全

- 1) 対馬人財の確保
- 2) 地産地消の推進
- 3) 移動手段の確保
- 4) 有害鳥獣の対策

# 優先して取組む分野横断的連携施策

この計画の実現を目指して、4つの視点から分野を横断して取り組むべき施策として掲げ優先的に取り組めます。

## ひとつづくり

### 1) みんなが主役になる「対馬人財の確保」

人口減少や少子高齢化が進み、一次産業、地域づくり、子育て、見守り、健康づくり、清掃活動、環境保全活動など、島づくりを担う人材が少なくなっている。対馬での豊かな暮らしを維持するために、「市民一人ひとりが主役となりしまづくりを進めること」を目指し、多様な主体が連携して、対馬人財を確保し、育成するための仕組みを構築する。

## なりわいづくり

### 2) 地域経済が潤うための「地産地消の推進」

島内にヒト・モノ・カネが循環することで、様々な相乗効果が発揮され、対馬の豊かさを再構築することが期待できる。一方で、対馬産品は島外の商品・サービスよりも価格が高い場合が多く、島内での対馬産品の購入・消費が進まない現状がある。そこで、対馬のものは対馬で消費するために、多様な主体が連携することによる地産地消の仕組みを構築する。

## つながりづくり

### 3) 支え合いで自立する「島内の移動手段の確保」

広い対馬において、車を持たない市民や観光客の移動手段の確保は、しまづくりの最重要課題の一つである。今後、高齢化が進むことで、自家用車での移動が困難になる人が増えていくため、地域の状況に応じた最適な交通手段を確保することが重要である。そこで、多様な主体が連携した島内の移動手段の確保の仕組みを構築する。

## ふるさとづくり

### 4) 自然と暮らしが共存する「有害鳥獣対策」

シカ・イノシシの森林への被害が深刻であり、農林水産業や生態系への影響が甚大である。多様で豊かな自然環境を積極的に取り戻すため、現在も駆除活動に取り組んでいるが、島内の適正頭数までには至っていない。森林の恵みから得られる経済効果を最大限に活用するため、多様な主体が連携した有害鳥獣対策をさらに推進していく横断的な連携体制の仕組みを構築する。

将来像

## 自立と循環の宝の島

- みんなが主役になっている
- 地域経済が潤い続ける

- 支え合いで自立している
- 自然と暮らしが共存している



# 分野横断的な課題に取り組む施策 1

## 1) みんなが主役になる「対馬人財の確保」

### 目的・目標

人口減少や少子高齢化が進み、一次産業、地域づくり、子育て、見守り、健康づくり、清掃活動、環境保全活動など、島づくりを担う人材が少なくなっている。対馬での豊かな暮らしを維持するために、「市民一人ひとりが主役となりしまづくりを進めること」を目指し、多様な主体が連携して、対馬人財を確保し、育成するための仕組みを構築する。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 働き方改革の推進

- ・ 特定地域づくり事業協同組合制度の導入
- ・ 副業制度の導入の検討

#### 女性が活躍する場づくり

- ・ 男女共同参画の推進

#### 高齢者の雇用や生きがいの創出

- ・ シルバー人材センターの機能拡充と法人化の推進
- ・ 有償ボランティアの取組みの啓発および推進

#### 障がい者の社会参画および雇用創出の推進

- ・ 障がい者の社会参画のための普及啓発活動の推進

#### SDGsの推進に向けたしまづくり人財育成

- ・ 対馬グローバル大学の開催
- ・ 対馬市SDGs実践塾の開催
- ・ SDGsクラブの設置

#### 郷土愛の強い市民を育てる生涯学習の推進

- ・ 地域特性を活かした公民館講座の継続的な開催
- ・ 市役所各課や事業者による各種講座やセミナー、イベント等の情報の集約と情報発信、連携体制づくり

#### 生涯学習の学びの展開

- ・ 観光ガイドや地域案内人・コーディネーターの養成
- ・ 対馬グローバル大学の市民研究員の活動推進

#### 観光業における受入体制の整備

- ・ 市民や事業者、地域のおもてなし力の向上
- ・ ガイド育成と紹介窓口体制の強化
- ・ 韓国語を話せるガイドや外部人材の確保、ハンゲル講座の開催

#### 事業承継と起業家の育成

- ・ 人財確保に向けた仕組みづくりの検討

#### 地域づくり活動を円滑に進めるための仕組みづくり

- ・ 地域づくりを進める自治組織の再構築の検討
- ・ 地域活動等の情報提供の強化

#### 多様な立場にある人・組織間の交流・連携の強化

- ・ 横断的に取組むための組織体制の検討
- ・ 年齢や性別、世代等を問わずに交流する機会の提供

#### 健康増進につながる地域活動・働く場の充実

- ・ シルバー人材センターの機能強化による働く場の提供

#### 高齢者の見守りに関する施策の実施

- ・ 見守りネットワークの取組みの推進

#### 災害対策の推進

- ・ 地域主体の防犯・自然災害への対策の実施
- ・ 救急救命士と消防団組織の育成・強化、民間防災組織の結成

#### 担い手の育成と自然共生に向けた仕組みの検討

- ・ ESD教育やエコツーリズムの推進
- ・ ネイチャーガイドの養成、紹介窓口機能の強化

#### 漂流・漂着ごみの回収と発生抑制対策

- ・ 対策協議会の運営と開催による多主体連携体制の構築
- ・ 海ごみイベントの開催やトランクミュージアムを活用した普及啓発

#### 市民のごみや資源に対する普及啓発

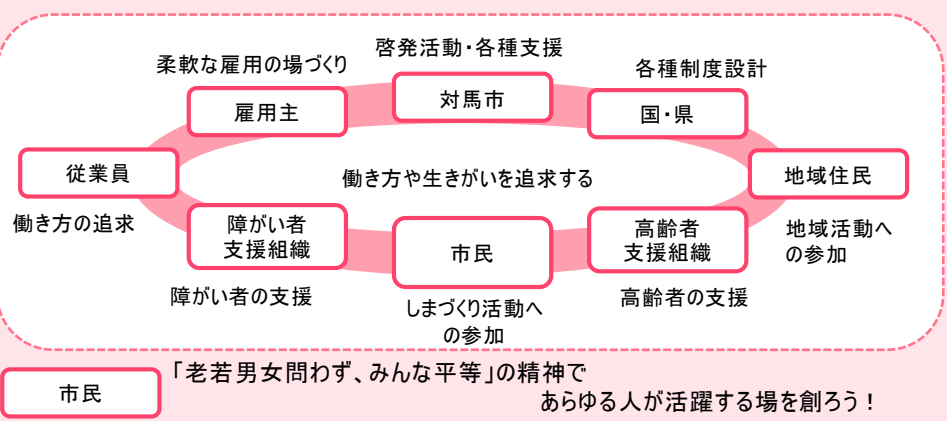
- ・ 生ごみの分別と回収率を上げるための仕組みづくりの検討
- ・ ごみをテーマにした国際サミットの開催検討

#### 文化財等の専門性を有する人材確保と体制づくり

- ・ 各種NPO等と連携したガイド養成の推進、ガイド窓口機能強化

### 推進の体制・役割分担

若者や女性・高齢者・障がい者が活躍できる環境を整える体制づくり



#### 【データ】

#### 【目標数値】

項目	数値
シルバー人材の就業日数 (R1)	3,409人/日
就職支援による障がい者の就業者数 (R1)	3人

指標	R2	R7
シルバー人材の就業日数	3,600人/日	5,000人/日
就職支援による障がい者の就業者数	5人	5人

### 関連する計画

男女共同参画計画  
障害福祉計画、障害者計画  
地域福祉計画  
地域福祉活動計画

### 行政担当課

総務課 地域安全防災室  
政策企画課 SDGs推進室  
しまの力創生課 地域づくり課  
観光商工課 文化交流課  
環境政策課  
福祉課 いきいき健康課  
地域包括ケア推進課  
自然共生課  
生涯学習課  
消防本部総務課

## 2)地域経済が潤うための「地産地消の推進」

### 目的・目標

島内にヒト・モノ・カネが循環することで、様々な相乗効果が発揮され、対馬の豊かさを再構築することが期待できる。一方で、対馬産品は島外の商品・サービスよりも価格が高い場合が多く、島内での対馬産品の購入・消費が進まない現状がある。そこで、多様な主体が連携することによる地産地消の仕組みを構築する。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 働き方改革の推進

- 副業制度の導入の検討
- 一次産業の担い手確保のための仕組みづくりの検討  
(集落営農、自伐型林業、有害鳥獣対策等)

#### 高齢者の雇用や生きがいの創出

- 集落営農や有害鳥獣対策の捕獲隊等の一次産業や加工業等の従事者への支援検討

#### 保護者・行政・地域が一体となった教育による郷土愛の育成

- 学校給食への地元産の食材提供の拡大

#### 住民主体の地域づくり活動の実施

- 買い物支援・移動販売・見守り活動への支援
- 集落営農や有害鳥獣対策の捕獲隊等の一次産業や加工業等の従事者への支援検討

#### 多様な立場にある人・組織間の交流・連携の強化

- 生産・加工・流通・販売等に関連する事業者間の連携強化

#### 僻地からの移動手段の確保と買い物支援

- 買い物支援の実証実験(移動販売)

#### 対馬産品の島内消費の推進

- 島内消費推進に向けた市民への普及啓発・PRイベントの実施
- 対馬産品を取扱う島内の小売店や宿泊・飲食店への支援
- 学校給食での対馬産品の活用の推進
- 薪やチップ材の熱エネルギーとしての活用推進
- 買い物支援の推進

#### 連携体制の強化による島内流通システム構築

- 異業種間の連携強化や漁協間の連携による水産物と農産物の集荷システムの構築
- 生産者と加工事業者・製材所、物流業者等と連携した生産・加工の流通の再構築
- 地域商社による農林水産物の調達・加工・販売体制の構築
- 配送センターや集荷・保管施設の設置の検討

#### 有害鳥獣対策と農地と森林の管理・保全

#### 担い手の育成と自然共生に向けた仕組みの検討

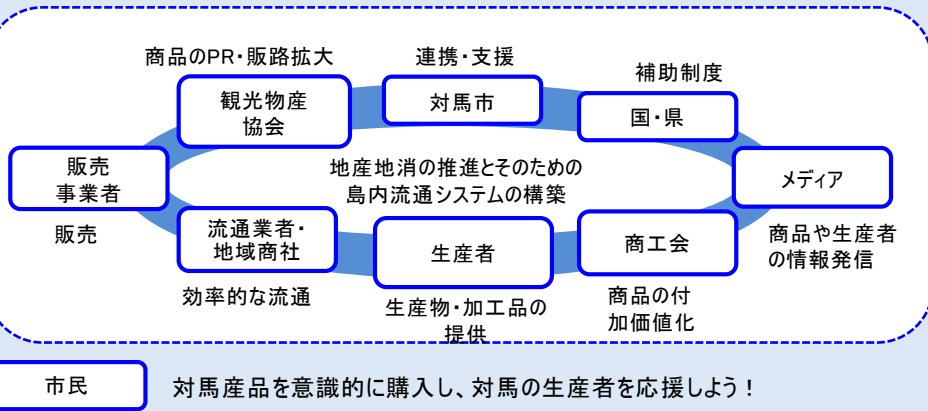
- ESD教育やエコツーリズムの推進

#### エネルギーの地産化

- 木質バイオマスの島内利用の推進
- 木質バイオマスボイラー導入拡大
- 公共施設における再生可能エネルギー活用の検討
- エネルギーの流通体制の構築
- 地域エネルギー会社の設立・勉強会の実施
- 事業者や市民への普及啓発
- 森林環境譲与税の活用による取り組み支援
- 発電・熱電併給事業の可能性の継続検討

### 推進の体制・役割分担

#### 対馬産品の地産地消を推進する各主体連携の流通体制づくり



### 関連する計画

食育・地産地消推進計画

### 行政担当課

政策企画課 SDGs推進室  
 しまの力創生課 地域づくり課  
 観光商工課  
 環境政策課  
 福祉課 いきいき健康課  
 地域包括ケア推進課  
 農林しいたけ課 自然共生課 水産課  
 生涯学習課

#### 【データ】

項目	数値
学校給食における地元農産品使用率	29.55%
対馬産ブランド魚の島内取扱店舗数	21店舗

#### 【目標数値】

指標	R2	R7
学校給食における地元農産品使用率	30%	40%
対馬産ブランド魚の島内取扱店舗数	22店舗	28店舗

### 3) 支え合いで自立する「島内の移動手段の確保」

#### 目的・目標

広い対馬において、車を持たない市民や観光客の移動手段の確保は、しまづくりの最重要課題の一つである。今後、高齢化が進むことで、自家用車での移動が困難になる人が増えていくため、地域の状況に応じた最適な交通手段を確保することが重要である。そこで、多様な主体が連携した島内の移動手段の確保の仕組みを構築する。

#### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

##### 働き方改革の推進

- ・ 特定地域づくり事業協同組合制度の導入検討
- ・ 副業制度の導入の検討

##### 高齢者の雇用や生きがいの創出

- ・ 集落での取組みや地域づくりでの活躍の場の創出
- ・ シルバー人材センターの機能の拡充と法人化の検討
- ・ 有償ボランティアの取組みの啓発および推進
- ・ コミュニティ交通の運転手の担い手になるための支援

##### 大学・企業等との共同研究及び実践活動の

- ・ 国内外の大学及び企業との共同研究の推進

##### 市民と行政の情報共有(広報公聴)の強化

- ・ 区長や地域マネージャー等を通じた情報提供の頻度の増加

##### 対馬産品の島内消費の推進

- ・ 買い物支援の推進(移動販売や小さな商店の継続のための地域活動の支援)

##### 新規創業と事業拡大による雇用機会拡充

- ・ 雇用機会拡充支援事業補助金の実施

##### 事業承継と起業家の育成

- ・ 事業継承のための補助
- ・ 人手確保に向けた仕組みづくりの検討(外国人の雇用、シルバー人材の活用、副業・兼業制度、事業継承など)

##### 住民主体の地域づくり活動の実施

- ・ 買い物支援・移動販売・見守り活動への支援
- ・ コミュニティ交通の仕組みづくりの検討
- ・ シルバー人材登録制度や有償ボランティア制度の浸透

##### 多様な立場にある人・組織間の交流・連携の強化

- ・ しまづくりを一体的に進めるための多様な主体の異業種間連携に向けた対話の機会の増加
- ・ 対馬市の重要施策に横断的に取り組むための組織体制の検討

##### 僻地からの移動手段の確保と買い物支援

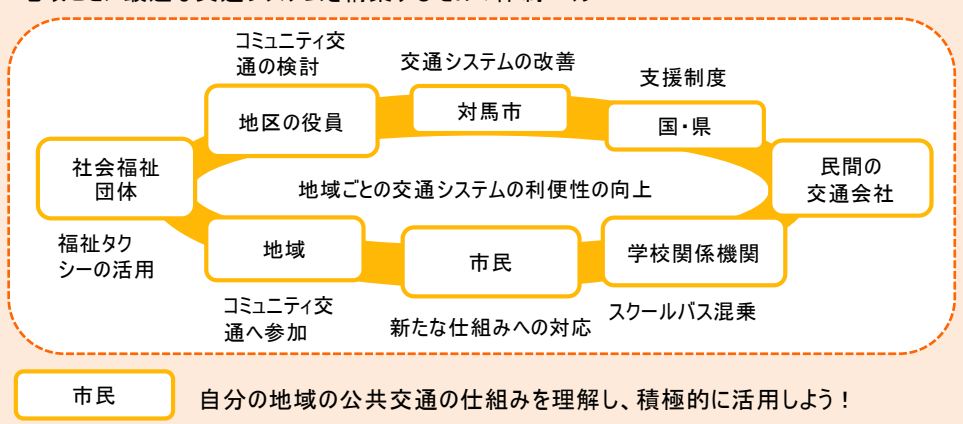
- ・ 過疎化・高齢化が顕著な地域における移動手段の確保
- ・ 公共交通の利便性の向上のための地域交通政策の推進
- ・ 買い物支援の実証実験(移動販売および高齢者の送迎対応)

##### 地域の需要に応じた効率的な島内交通システムの構築

- ・ 対馬交通(株)が運行する路線の維持・利用促進(運行区間・便数の適正化、利用しやすいダイヤ設定)
- ・ 地域主体のコミュニティ交通の維持・拡大
- ・ 市営バス・スクールバス一般混乗の維持・導入拡大
- ・ タクシー協会が運行する予約制乗合タクシーの維持、福祉タクシーの活用検討
- ・ 自動運転による路線バスの実施
- ・ 地域包括ケアシステムとの連携(高齢者の移動手段確保と買い物支援)

#### 推進の体制・役割分担

地域ごとに最適な交通システムを構築するための体制づくり



#### 関連する計画

地域公共交通網形成計画  
地域公共交通再編実施計画

#### 行政担当課

政策企画課 SDGs推進室  
しまの力創生課 地域づくり課  
観光商工課  
福祉課  
いきいき健康課  
地域包括ケア推進課  
教育総務課  
学校教育課

#### 【データ】

項目	数値
買い物支援を行っている地域(中学校区)の数(R1)	3
コミュニティバスの路線数(R1)	3路線

#### 【目標数値】

指標	R2	R7
買い物支援を行っている地域(中学校区)の数	4	6
コミュニティバス等の新規路線数	2 路線	



# 分野横断的な課題に取り組む施策 4

## 4)自然と暮らしが共存する「有害鳥獣対策」

### 目的・目標

シカ・イノシシの森林への被害が深刻であり、農林水産業や生態系への影響が甚大である。多様で豊かな自然環境を積極的に取り戻すため、現在も駆除活動に取り組んでいるが、島内の適正頭数までには至っていない。森林の恵みから得られる経済効果を最大限に活用するため、多様な主体が連携した有害鳥獣対策をさらに推進していく横断的な連携体制の仕組みを構築する。

### 対馬市の主要な取組みと関連する事業

#### 働き方改革の推進

- ・ 特定地域づくり事業協同組合制度の導入検討
- ・ 副業制度の導入の検討
- ・ 一次産業の担い手確保のための仕組みづくりの検討（集落営農、自伐型林業、有害鳥獣対策等）

#### 高齢者の雇用や生きがいの創出

- ・ 集落営農や有害鳥獣対策の捕獲隊等の一次産業や加工業等の従事者への支援検討

#### 大学・企業等との共同研究及び実践活動の推進

- ・ 「対馬学」研究奨励補助制度の導入
- ・ 国内外の大学及び企業との共同研究の推進

#### 地域づくり活動を円滑に進めるための仕組みづくり

- ・ 各地区・各校区での計画作成、進捗管理、計画の改善
- ・ 地域づくりを進める自治組織の再構築の検討
- ・ 外部人材や各種支援員の増員検討

#### 住民主体の地域づくり活動の実施

- ・ 集落営農や有害鳥獣対策の捕獲隊等の一次産業や加工業等の従事者への支援検討

#### 多様な立場にある人・組織間の交流・連携の強化

- ・ 横断的に取り組むための組織体制の再構築の検討
- ・ 生産・加工・流通・販売等に関連する事業者間の連携強化
- ・ 年齢や性別、世代、業種等を問わずに交流する機会の提供

#### 農業生産基盤の整備および農業従事者の確保・育成

- ・ 耕作放棄地や所有者不在の農地の有効活用の推進
- ・ 農業生産の不利な地域での農業生産活動の助成
- ・ 有害鳥獣対策による農地の管理と保全
- ・ 対馬ならではの農業や農村のあり方検討

#### 森林資源の適切な管理及び林業従事者の確保・育成

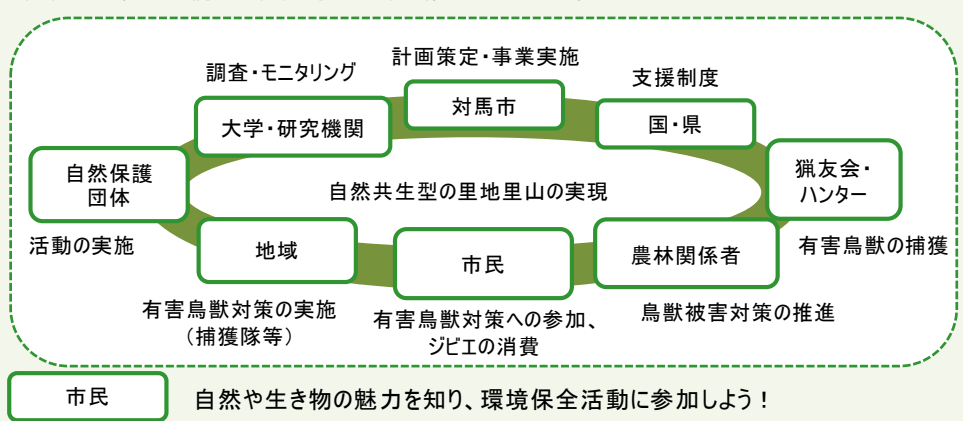
- ・ 森林環境譲与税の有効活用
- ・ 市有林の適切な管理と活用、保全
- ・ 有害鳥獣対策による樹木や林地の保全

#### 有害鳥獣対策と農地と森林の管理・保全

- ・ 集落の農地を守るため防護柵設置への助成、防護対策の実施、樹木と下草保護、防護対策の実施
- ・ 有害鳥獣の捕獲報奨金の継続、ハンター等の育成支援
- ・ モデル地区での支援の充実、生態系被害エリアでの防護・捕獲
- ・ GPS※等を活用した情報の一元化・共有、個体数や被害状況、植生のモニタリングの実施
- ・ 搬送・流通体制の整備と加工製品の販路拡大
- ・ 獣肉加工や皮革製品等加工品に関する各種支援
- ・ 多様な主体の連携と情報共有

### 推進の体制・役割分担

多様な主体が連携して有害鳥獣対策を推進するための体制づくり



【データ】

【目標数値】

項目	数値
シカの捕獲頭数 (R1)	8,236頭
イノシシの捕獲頭数 (R1)	5,367頭
有害鳥獣捕獲従事者の数	193人
捕獲隊結成数	10地区

指標	R2	R7
シカの捕獲頭数	10,000頭	6,000頭
イノシシの捕獲頭数	7,000頭	7,000頭
有害鳥獣捕獲従事者の数	200人	250人
捕獲隊結成数	12地区	20地区

### 関連する計画

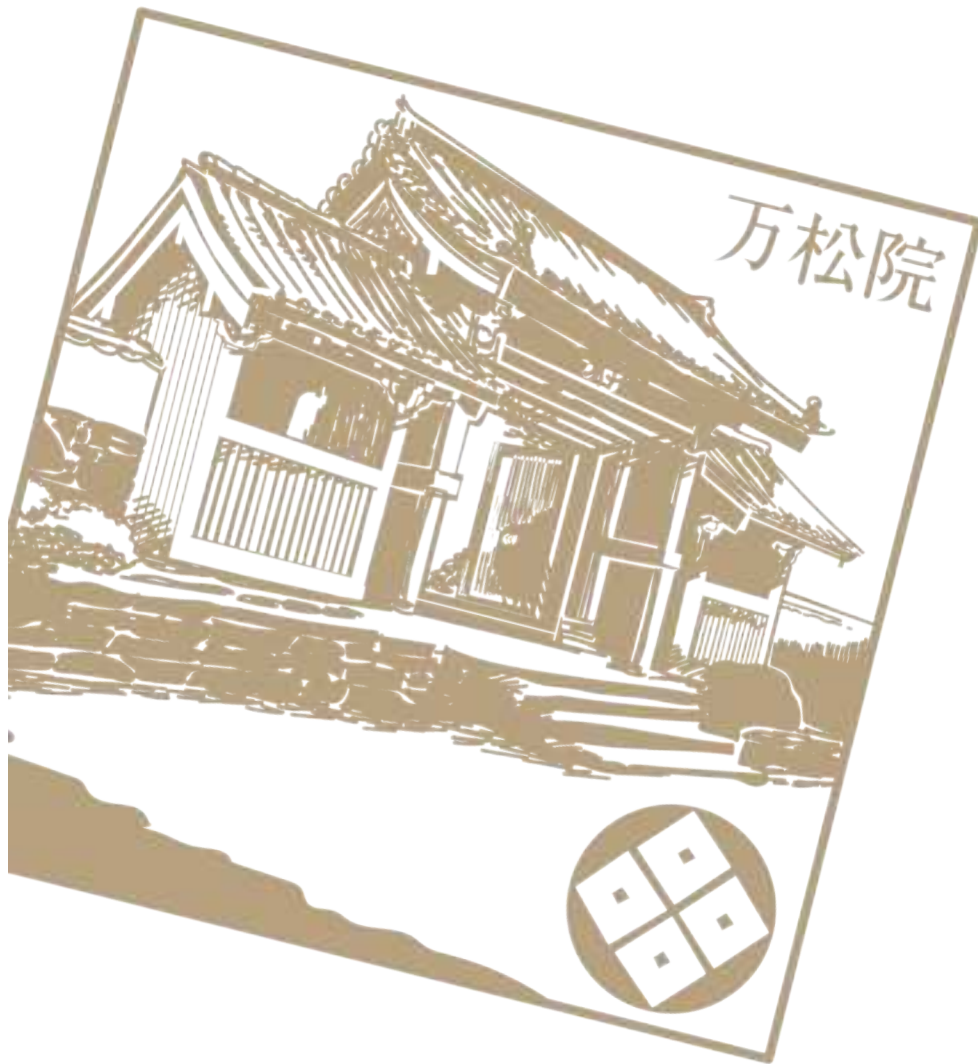
環境基本計画  
森林づくり基本計画  
杵岐・対馬鳥獣被害防止計画

### 行政担当課

政策企画課  
SDGs推進室  
しまの力創生課  
地域づくり課  
福祉課  
農林しいたけ課  
自然共生課



# 第5章 計画を実行するにあたって



この章では、取り組みの成果を検証し、さらなる展開に向かって改善していく方法を示します。

イラスト：長崎県対馬市厳原町にある、対馬を代表する天台宗の寺院 万松院

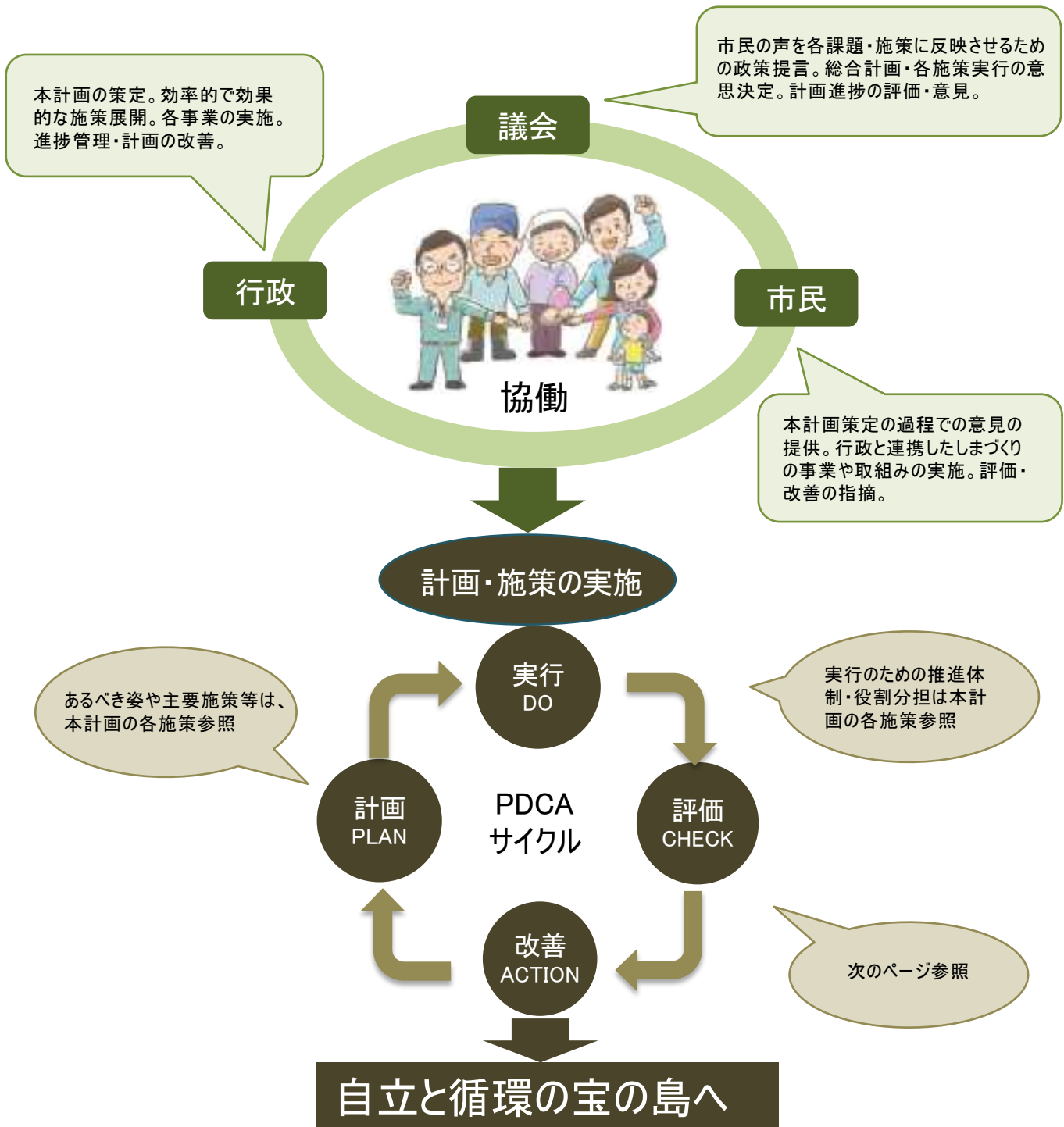


# 実施主体と進行管理の方法について

## ●実施主体～誰が何をやるのか～

今後5年間の対馬において、本計画の4つの挑戦(ひとづくり、なりわいづくり、つながりづくり、ふるさとづくり)の各施策を優先的に実行し、「自立と循環の宝の島 対馬」を実現するために、市民と行政が役割分担を明確にして、力をあわせて取り組むこと(協働)が求められます。また、議会は、本計画が効率的・効果的に進むように行政を監視するとともに、対馬づくりの仕掛人としての役割を果たします。関わる主体は各施策によって異なりますので、詳細はこれまでに図示されている各施策の「推進の体制・役割分担」の欄を参照してください。

地域での活動は、各地区・校区で作成した地域づくり計画・宣言にそって、地区の区長や役員、地域マネージャーと協働して取組を進めていきます。

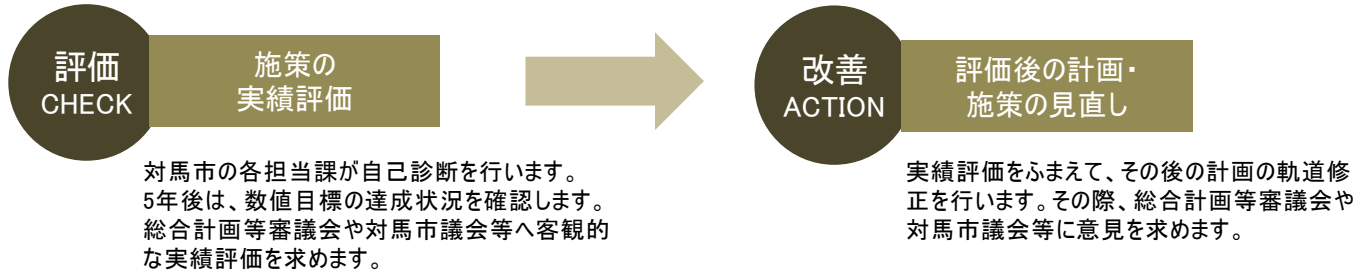


限られた資源を効率的・効果的に活用していくためには、施策の実施状況を点検・分析し、必要な改善に取り組むことが必要です。そこで、総合計画の進捗管理は、計画(PLAN)―実施(DO)―評価(CHECK)―改善(ACTION)というPDCAサイクルに基づいて行います。

# 実施主体と進行管理の方法、進捗評価の時期について

## ● 進行管理の方法～どのように計画を評価していくのか～

各施策・取組について、実施状況や達成度等を分析し、課題を把握する「評価」は、毎年、対馬市の各担当課が実施します。この「評価」に基づき、必要となる「改善」を次の施策展開に反映させることで、施策の推進を図ります。主要施策ごとに掲げている項目について、担当課がその進捗を毎年自己診断します。5年後には、それぞれ掲げている数値目標への到達状況を確認します。



## ● 目標数値の設定（市民満足度評価）

みんなが主役になる社会の実現に向けて、対馬で暮らす上で、個人の幸せの実感や対馬暮らしに対する満足と貢献度を自己評価する仕組みを導入します。令和3年と令和5年、令和7年に市民にアンケート調査を行い、総合計画の進捗や成果を評価します。

### ■ 個人の幸せ（例：ディーナーの人生満足尺度）

ほとんどの面で、私の人生は理想に近い
私の人生は、とても素晴らしい状態だ
私は自分の人生に満足している
私はこれまで、自分の人生に求める大切なものを得てきた
もう一度人生をやり直せるとしても、ほとんど何も変えないだろう

調査は令和3年と令和5年、7年度にアンケート調査により全世帯の2割程度を対象に実施します。調査内容は上記の指標を参考に個人の幸せと市民の対馬への満足度を把握する内容とし、令和3年度に改めて設定します。

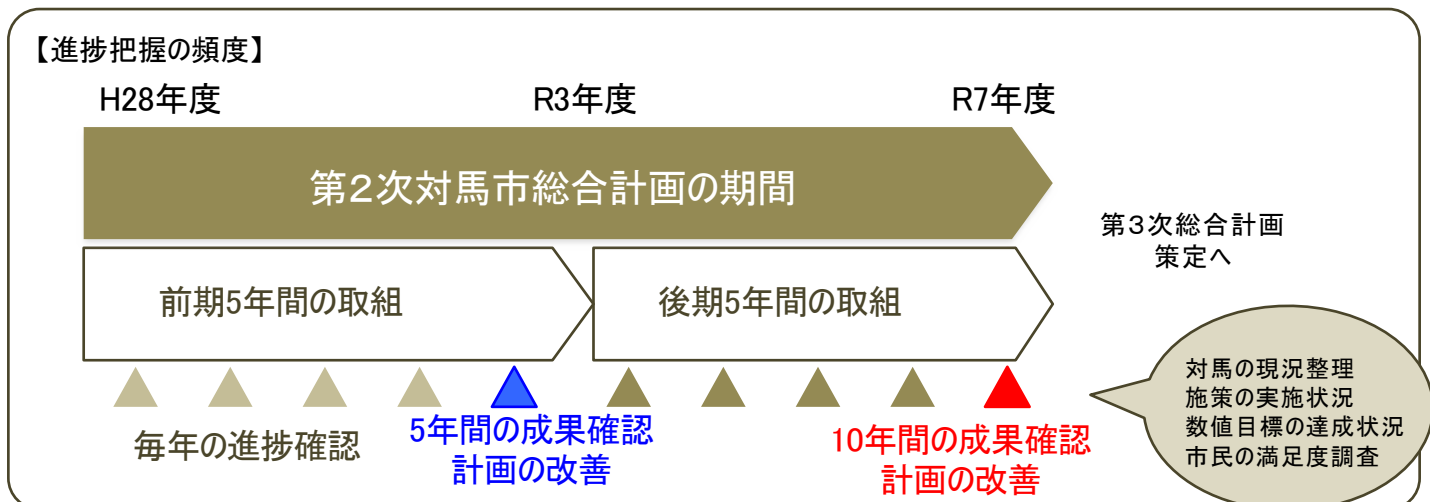
### ■ 対馬ビジョンに対する市民の満足度

ひとづくり	若者を中心に対馬がにぎわっていると感じる
	未来を創る子どもたちに対馬愛が育まれていると感じる
	対馬の大人たちが対馬に誇りを持っていると感じる
なりわいづくり	一次産業が持続可能な形で続けられると感じる
	観光産業等で地域経済が活性化していると感じる 新産業が作られ、雇用も多く確保できていると感じる
つながりづくり	地域主導の活動が進められていると感じる
	福祉・医療体制が維持され、安心して暮らせると感じる 暮らしのライフラインが維持されていると感じる
ふるさとづくり	豊かな自然環境が回復していると感じる
	環境に負荷をかけない暮らしをしていると感じる 地域の資源をうまく活用していると感じる

## ● 施策の進捗評価の時期～いつ評価するのか～

毎年度末に、各担当課が各施策の進捗把握を行うほか、後期5年を経過する時点で評価結果をまとめます。その際には、対馬市の現況整理に加えて、市民の満足度や計画への参加状況を把握すべく、市民を対象とした意識調査（市民満足度評価の調査）を実施します。

5年後には、対馬市議会及び総合計画等審議会において、第三者の視点による意見を聞き、評価の客観性・統一性等の確保に努めます。これらの評価結果を市民にわかりやすく公表するとともに、意見等を募集します。



## 参考情報

1. 市民へのヒアリング結果の抜粋
2. 地域づくり計画・地域づくり宣言の一覧
3. 対馬市総合計画等審議会名簿
4. 前期計画と後期計画の施策の対照表
5. 用語解説



この章では、本総合計画を策定する中で参考にした情報や本編を補足する情報を示します。

イラスト：対馬を代表する野鳥 ヤマショウビン、キビタキ、アカハラダカ



# 1. 市民へのヒアリング結果の抜粋

後期計画の策定にあたって実施した40名の市民へのヒアリング結果の一部を抜粋して紹介します。

## ひとつくり①: みんなが活躍する仕組みを創る

### 1)若者の移住・定住の推進

- 島に住むことで何か優遇されるような大胆な政策をつくっていかないといけない(税制面など)。
- 対馬にいる人が対馬をより楽しめるような動きが必要 ➤ 対馬のネット速度が遅い
- 特定の時期(業種ごとに忙しい時期)だけ、働けるような仕組みづくりがあると良い。時期によって地元の農林水産業の手伝いをするような仕組みを作れば副業も可能
- 女性が1度島外に出ると出会いもあり、戻って来る理由がなくなってしまうので、対馬での結婚を推進する動きを進めていくべき
- 対馬に移住を検討している若者が移住したくなるようなおしゃれな住宅やエコアパートを空き家バンクなどで用意した方がいい。おしゃれな家があれば若者は移住してくる可能性がある
- 地域の人にしか聞けない情報もあるので、移住の相談を市役所以外の地域の人に相談できるような仕組みがあればいい
- 福岡に10万人いると言われる対馬出身者の人とのつながりが非常に重要

### 2)対馬らしい働き方の検討・生きがいの創出

- 副業を進めることで、趣味を通しての交流、生きがいが生まれてくるのではない
- 福祉人材が人手不足で困っているので、副業制度を取り入れながら、半農半福祉や半漁半福祉等の働き方の組立てができないか
- 季節労働的に仕事がある時とない時など、業種ごとにスケジュールや募集時期などが明確にわかるような人材バンクのような仕組みもあればよい
- 島外から来た女性は出産をする時にも家族がいないことや、対馬に友達もいない中で、旦那が仕事で外にでてしまうと女性が孤立してしまう傾向がある。コミュニティスペースなど女性が気楽に集まれるような場が必要では
- 女性が活躍できる場づくり、雰囲気づくりが必要
- 国が進める男女共同参画の中では、クオータ制(会議などで、性別を基準に一定の人数や比率を割り当てる手法)を対馬市で制度導入を検討してみてもどうか
- 労働力が不足する中、高齢者が働きやすい環境づくりにも力を入れていくべき
- 障がい者が、自分の存在意義(役割)を見出していけるような社会や仕事をつくるべき
- 介護人材なども含め、地域を支える人材が足りないのであれば、外国人が働ける仕組みづくりを考えていかないといけない
- 対馬は国際交流の拠点となる島であり、そのような外国人の受け入れの仕組みをもっと積極的に考えても良いのではない

## ひとつくり②: 次世代の担い手の郷土愛を育む

### 1)出産・子育ての手厚い支援

- 保育所以外の時間に、地域での子育てをサポートする仕組みが作れないか
- ふるさと納税の予算を使い、子ども達が遊べる施設を作れないか
- 上対馬病院から産科がなくなったことが不便に思う
- 特に子どもが小さいうちは近くに土日も開いている図書館が無いのが困る
- 保育園も小学校も公園にも言えることだが、老朽化で使えなくなった遊具をそのまま置いているのはどうにかしてもらいたい

### 2)郷土を愛する“対馬っ子”の育成

- 廃校や統合の流れがある中で、廃校にさせないような取り組みを考えていく必要がある。どんな状況になっても各町に最低でも1つは学校を残していくために、対馬市としての教育コンセプトを作りたい
- ふるさと教育は、故郷を題材に地域のものを知る。それだけではSDGsの視点が足りない
- ほとんどの中学校に文化部がないのは運動が苦手な子にはかわいそう。多様性を認めていく時代でもあるので文化部という選択ができる中学校であってほしい
- 文科省の問題でもあると思うが、日本の学校教育に対する予算が少なすぎる。民間や市民が教育現場にもっと積極的に関わり、子どもたちの郷土愛やSDGsへの理解を深めていけたら。そのためには、どうしても、民間や市民が講師やコーディネーターと呼ばれた時の謝礼や人件費が必要
- 対馬市では里親を5年以上やっているが里親が増えていない状況が続いている。法人・組織として受け入れができるようにしていく必要があるのでは
- 対馬高校に国際文化交流科があるように学校毎に特色が出来てくれば、離島留学生の選択肢も広がり、廃校問題も解決していくのではない。農業福祉、農林水産と福祉、自然科学のエキスパートを育てていく取り組みなどが出てきてほしい
- 学校の総合学習などでやりたいことは多いが、練習場所への移動や、トマト農園の見学などの小さな活動の予算を確保するのが難しい。日中使っていないスクールバスの活用が出来れば
- 部活動で島外への試合に参加するには予算の関係上、フェリーで行くしかない。移動時間がとても長くなり、とても大変。遠征費を補助してもらえたら有難い。もしくは比田勝港発の博多行きフェリーの便数を増やしてもらえたらありがたい
- 対馬高校の国際文化コースの学生達の卒業の進路を考える必要がある。卒業生たち(年間30人)が対馬で住むようになれば、国際交流関連は大きく変化する
- 水産業と林業、農業などの1次産業の担い手を育成する農業と水産業を合わせた高校コース等が対馬にあれば良い
- 今ネットの環境もあるので、例えば島外の学生と議論できる場を持って、都会と田舎の暮らしについて整理できたり、イメージを持てるような、情報の共有ができればよい
- 水産系大学のサテライトキャンパスを誘致するのはどうか
- 工業系など、実用性のあるものを身につけていけるコースがあればいいのではない。水産科に関しても、経営や持続可能な資源活用なども学べ、卒業する時には船舶免許も取得できるなどの明確なメリットが必要
- 持続可能性に資する事業に取り組む実践者が対馬には増えてきているので、そのような人材が教員となり、島ならではの持続可能な一次産業を学べる専門コースの設置などができないか

# 1. 市民へのヒアリング結果の抜粋(続き)

## ひとづくり③: 大人たちが対馬の魅力を知り誇りを持つ

### 1) 大学と地域との連携推進

- 域学連携をきっかけに対馬に興味を持った若者は多い。せっかくそのような若者が全国にいるので、改めて対馬と関われるように、対馬市側から働きかけてもいいのではないかと

### 2) 生涯学習の推進と広報広聴の強化

- 人的循環と情報循環の中で、対馬で足りないものは通信環境整備。企業誘致・講義・会議・最先端技術の情報や習得など、あらゆる分野で影響が出る
- ケーブルテレビを情報発信ツールとしてもっと有効活用できないか。行政主催の協議会や会議などを放映するだけでも違うのでは
- 島民の事業者の方々のITリテラシーが低い(ファックススペースなど)。セミナーなどでも連絡をとることも難しい場合がある。県内で支援策などを出すときにも、対馬だけリアクションが遅い
- インターネット環境が悪すぎる
- CATVが提供しているメールサーバーが非常に使いづらい。Gmailが使い勝手が良いので、Gmailの使い方講座を開講して、普及啓発するだけでも効果があるのではないかと
- 観光物産協会の物販の売り上げ報告が、毎月FAXで送られてくるのはどうかと思う。できる限りメールで送って欲しい
- 総合計画で新たに取組むことを考えて事業を展開していくことも大事だが、一番大事なのは、「対馬市民が当たり前にするべきこと」ができていないという点である。その点を市民全体にどう波及するか、そこがまず大事
- 子どもの教育を通して大人達の島に対しての意識も上げていければ。地域の人たちが、高校の活動や、生き生きとした学生の姿をみて、大人も一緒に刺激を受ける学校づくりが必要
- 対馬の人は対馬での楽しみ方を知らない。自分たちは定期的に旧道を散歩しているが、色々なところを歩くのは楽しい。林道マップを作って欲しい
- ゴミが非常に目立つのでなんとかしたい
- 市民の中でも、セミナーやまちづくりに積極的に参加する人はいるが、一部であり、そのほかの無関心層や、足を引っ張る層にどのように働きかけていけるか。例えば、「対馬市市民憲章」のような対馬市民として理想的な人物像を設定して、それをことあるごとに発信するのはどうか
- わがまち元気創出事業に代わるものとして、一律に各地域に予算を配分して、その予算を地域の采配によって使ってもらうようにしてはどうか。地域の自立性を育てることはできないか

## なりわいづくり①: 持続可能な農林水産業を展開する

### 1) 持続可能な水産業の推進

- 漁業者を増やすよりも、一人当たりの水揚げ額や水揚げ量(売り上げ)を維持したり、増やしていき、人口が減ったとしても水揚げ量を確保するために生産性を高めることが大事
- 近年では不漁になるものも多く、設備投資に見合った水揚げが出来ず負債を抱えるケースがあるので、行政や漁協には、漁船や設備を作ったり整えたりした場合の補助率を上げて欲しい
- 巻き網や底引き漁船が入るのは良くない。以前ノドグロを取り過ぎて船に入らず、一回上げた魚を捨てたという話を聞いたが、そういったことをしていると資源が無くなり、良くない
- 磯焼けの問題を解決できるように関係者が協力して、食害生物の捕獲や利活用、藻場の再生活動に力を入れていべき
- 森が荒れていることで、磯焼けが起こっていると思うので、漁師が時化の時間に、森に入り、森を管理していくことが大事になってくるのではないかと

### 2) 持続可能な農林業の推進

- 農家が多い場所しか対馬市は気にかけていないが、他にも農地は沢山ある。そういった場所も基盤整備を進めていかないと、対馬の農地がどんどん減っていく。各町に公社機能を有する組織が必要では
- お米に関しては幅が広く素人でも手を出しやすいが、野菜は全滅する可能性もあり、しっかりノウハウがなければ手をつけづらい。野菜づくりが学べるような場所や機会が対馬にあってほしい
- 耕作放棄地で大規模農業をやってほしい。林業の人たちとよく話すが、マンゴーなどのハウス栽培をして、バイオマスボイラーをつけて、流木をチップにして燃やせば、燃料になる
- 対馬でやったらいいという事業のアイデアが多いが、担い手がいなくて進まない。事業アイデアを整理して発信して、島外の移住したい人を募るべきでは。来た人に対して、耕作放棄地や未利用な施設・設備等を貸し出せるようにするなど、移住政策と連動して進められないか
- 各地区で、荒地の整備など耕作放棄地を管理し、補助金などを地区に循環させることができるのではないかと
- 対馬では、専業で農業をやっても食べていけない人が多く、兼業もしくは副業的に集落で畑や田んぼを管理し、みんなが空いている時間に農業をできる仕組みを作れないか
- 赤牛は文化的切り口でも残してもらいたい。朝鮮牛(朝鮮系統の牛)も赤牛らしいので粗放で、あまり手をかけなくても育つ。そういう文化の中で、赤牛を残すのは産業的にも文化的にも大事。物語ができる
- 牛を粗放的に飼育するための牧場を集落と森との間に作ることによって、緩衝帯(バッファゾーン)となって、集落にシカ・イノシシが入りにくくなったりするのでは
- 生産林と環境林という分け方ができる。材が出せないようなところにも樹木は植わっているので、環境林を天然林に更新していく必要があると考えている
- 人が植えたところは手を入れていかないと育っていかないので、何十年もかけて天然林に変えていこうという計画が必要
- 広葉樹の山は、木材としての利用価値はない。広葉樹の森を利用する方法を別に考えないといけない。今は広葉樹の薪や炭はすごく高く売れるので、もっと取り組む人を増やすべき
- 木材の価値もあるが、それ以外のシカだったらジビエ、森を使った観光、ツーリズムと民泊を繋げたりとか、森は環境教育の場にもなるだろうし、研究の場としても有用。保全と活用の場所を地図に落とし込んで管理できないか
- 長期的なビジョンで、対馬の森づくりはどういった形でやるのが理想か考えているのだが、ヤマネコとか希少な生物がいる場所、持続可能な林業が行われる場所、あるいは、エコツーリズムとして稼ぐとか、そういったゾーニングが必要
- 林業従事者による専業の雇用とは別に自伐型林業の可能性を対馬で探れないか

# 1. 市民へのヒアリング結果の抜粋(続き)

## なりわいづくり②:地域経済の循環の仕組みを確立する

### 1)持続可能な観光業の推進

- 対馬は子どもだけではなく、大人も学べると思っていて、観光とも絡めて市民や島外の大人の価値観が変わるような体験を提供していきたい
- おもてなしの点では、整備したほうがいい場所に集中的・計画的にお金を使っていく必要があり、島全体で観光資源として利用するための優先順位を明確にする必要があるのでは
- 対馬で見せられるものが無くなってきている現状の中で、残したい景観や文化をしっかりとピックアップしていく必要があり、具体的な場所を表すマップを作るべき
- 生涯学習の一環で様々なセミナーや講座が開催されてきたが、座学だけだとそれで終わってしまうことが多く、座学と現地での体験をセットにして、深く学べるコンテンツが大事
- 長期滞在型から移住するような流れができれば、また違った観光の形がでてくるのではない
- ディープな対馬や、対馬の価値を分かってくれる人向けに、細く長く増やしていければいいと思う。そこにガイドがいて、見せる部分の整備や、まちづくりや景観作りが暮らしがいついてくる状態が出来ると、対馬に深く関わりたい人が増えてきて、持続可能な社会に繋がるのではない
- 対馬の観光は、トータル的に体感することで満足度が高く、1つの分野のガイドだけでは説明が難しく、多分野の人達にガイドをお願いして体験してもらえるようなトータル的なコーディネートが必要
- 韓国人観光客が41万人来ていた時は適性人数を超えていて、サービスの低下やクレームが増えていた。今後国交が回復した場合も、適性人数で質を維持する必要がある
- 歴史関係よりも、植物の専門家など、自然関係のガイドが少なくて困っている。ガイドを要請し、ガイドが食っていける仕組みやビジネスモデルが必要

### 2)持続可能な流通体制の構築

- 漁師として思うことは対馬市民には魚に興味を持って欲しい。地元の食材として魚をもっと食べて島内需要が高まって欲しい
- 他所の地域では漁協の横にレストランがあって漁協で水揚げされた魚を直ぐに提供できるので、そうした施設があっても良い
- 地元の魚を地元で消費していない。福岡の市場値段になると高く、漁師から直接対馬の値段で買えるような市場があればいい
- ポイント還元の仕組みを活用することで地産地消が推進されていくかもしれない。例えば、商工課の地産地消推進の事業として、上限100万円相当でポイントをつけるなどできないか
- スーパーの鮮魚を移動販売や買い物支援で集落まで届ける方を検討できないか

## なりわいづくり③:事業を承継・拡大して雇用を創出する

### 1)対馬製品の魅力化と持続可能な商工業の推進

- 長崎県自体が水産加工業が弱い傾向にある。原料を島外に出すだけになっている。昔はそれでよかったのかもしれないが、これからは高付加価値化やブランディングも大事
- 対馬らしいお土産がない。佐護の蒸しもんをそば道場でお土産として販売したい。道の駅などに行っても地元の食に需要があるのではない
- 商品パッケージデザインを良くするだけでも、商品価値が非常に上がる。対馬はまだまだパッケージの改善の余地がある商品が多い。パッケージデザインによって商品のストーリーやこだわりを伝えるきっかけを作ることができるし、統一感のあるパッケージによってブランディングもできる

### 2)新たな産業の創出と持続可能な企業経営

- 事業承継については高齢者が多いのが課題。業績はよくても身内に後継者がおらず、他人に渡すよりはと言って廃業するケースがある。特に真珠業界。そういう所に起業性ある
- 対馬市としてどのような産業を育てていきたいか、どのような産業の担い手が足りないのかを整理して、それに対する担い手や起業家を確保していく視点が必要ではないか
- 有人国境離島の事業拡大の制度も、対馬島内の事業者だけでなく、島外の企業の誘致にももっと積極的に活用すべきでは
- ベンチャー企業を育てていくための施策を考えられないか。市が担ってきた公益性の高い事業を民間に委託するような第二の行政が育っていくと、アウトソーシングすることで、市役所職員の負担も減る可能性もあり、市民や民間がしまづりに積極的に関わるといえる流れも生み出せるのではない

## つながりづくり①:多様な主体によるしまづくりを推進する

### 1)多様な交流による地域づくりの推進

- 480集落すべてを維持していくのは限界があるので、ある程度生活基盤が整った地域などに絞って、受入体制を作っていくべき
- 今の島おこし協働隊は市役所に配属されていて、集落にどっぷりと入り、活動することが少ないので、地域の人たちに認識されていない現状がある。例えば、1集落1協働隊の仕組みを作ってもいいのではない

### 2)国内外の交流の推進

- 資源管理やその漂着物の問題等、法律だけでは、守りきれない部分があるため、地先権を再構築して、地元市民が土地を守っていく必要がある
- 韓国の方が日本文化を学べる教室や場があまりない。観光客の受入れ時も、日本文化を学べたり、体験できる機会が少ない
- ゴーストオブツシマの影響もあり、韓国以外のインバウンドに対して、対馬のインフラを整えていかないといけない
- 高校生が考える国交の問題や在り方を発信していけるようになれば、オンラインで韓国の高校生と交流を作っていくのもいい
- 韓国だけではなく、台湾や中国などへアクセスできるようになれば良い
- 縦割り行政というところで、その連携して物事を進めていくというのがなかなか難しいので、SDGs推進本部のようなものを作って、統一化を進めていただきたい
- 上の世代の人たちだけになると要望だけが増えてしまう。総合戦略で集まる人達もいつも同じ人たちなので、もっと若い世代の人たちも参加できるようにした方がいい



# 1. 市民へのヒアリング結果の抜粋(続き)

## つながりづくり②: 持続可能な福祉と医療の体制を整える

### 1) 健康づくりと医療体制の充実

- 要介護リスクの中で認知機能の低下が言われているが、介護保険事業計画を作成してからこの2年間で前進しているのか？まずは計画をきちんと実行し、その評価をする。そして次につなげることが重要。
- 健康のために心掛けていることを調べるアンケート結果において、休養・睡眠や食事のバランスへの考慮は見られているが、運動・ウォーキングに対する回答が少なかった。これを受けて運動習慣の必要性を周知しないのか？年に1回のウォーキングイベントだけで大丈夫なのか？

### 2) 福祉の充実と地域包括ケアシステムの構築

- 大型スーパーができて、近くの個人商店がなくなり、移動手段のない人にとっては暮らしが不便になっている。商店や小さいお店が運営できるような環境や仕組みを再構築できれば
- 移住との組み合わせで、集落に移住者を受け入れ、農地の確保や家の確保、そして、仕事もIT+集落の仕事やちょこっとサービスをしながら暮らしていけるような統合的な連携を図っていかないと、各分野の動きだけでは限界がある。

## ふるさとづくり①: 豊かな自然環境を取り戻す

### 1) 多様な生物と共生する里地里山づくり

- 科学的根拠に基づいて計画を立てる知識のある専門家に対馬にいない。鳥獣害対策を進めるためには、市役所の体制の中で、専門知識を有する職員の中に、法的なものや捕獲の技術などの経験を有する人材がいる必要がある。計画がない中で予算だけがつき、その場の思いつきで事業を回して、効果が見られない対策ばかりになっている傾向がある
- 1-2年では減るものではないので、2030年までにどこまでの対策をしていけるのかを考える必要があり、ハンターの高齢化を考えた時とあと10年が勝負
- どうすれば森林の経済的価値を減らさない、もしくは増やすことができるのかを、多様な視点から専門家を招聘して委員会などを作り、計画を策定し、実行に移せる仕組みづくりが必要
- 環境分野に関しても部署が縦割りになっていて、連携して取組をつくっていかないといけないので、どの部署にも鳥獣害対策として自由に動けるような仕組みと予算化が必要
- どんぐりの森づくりやシタケの原木栽培といったものをシンボルにしてはどうか？林野庁の全島で実施した植生調査では、対馬全エリアで一番よくないランクだったと聞いた
- 鹿を減らさないで根本的な解決にならない。防護柵を張る予算があるなら、柵に出入り口をつけて、シャッターつけてトラップにして一斉に捕獲するのが良い。山全体で、入り口何十メートルを開けておいてシカが何頭か入ったら閉じるような罠を計画をすべき
- 今は林業従業者と有害鳥獣対策のところ連携できていない。例えば、里山林で、ただ林業をやるだけでなく、伐採する場所や罠を仕掛ける場所をみんなで決めれば、連携できるようになる。民有林は、林業事業者とその副業で林業をやろうとしている人、有害鳥獣の捕獲をする人とが一緒になって、伐採跡地に罠を仕掛ける。見回りは山主さんがやるなどの連携ができるのでは
- 対馬市の伐採ガイドラインがあるが、尾根筋は残すとか、海の近くの林は残すとかが記載されているだけで、鹿の観点が入っていない
- 外部からでもいいからハンターを雇ってきて、例えば、3万頭を1万頭まで減らしたら、ワイヤーメッシュを張る必要がなくなる。そういう発想の転換をしないと対馬の鳥獣は減らない。初めは行政主導で、一気に圧をかけて減らしていくべき
- 地元のハンターが自分のなわばりにいる鹿をとられるのを嫌がる場合があるが、県有林とか国有林であれば、地元ハンターも入れないので、外部からのハンターをいれて圧をかけてもいいのでは
- 夜行性の動物なのに猟銃は夜に使うはいけない、という規則も見直したらいい

## ふるさとづくり②: 環境負荷の低い暮らしを営む

### 1) ごみの削減とリサイクルの推進

- 市民がゴミを捨てていることについて、教育や普及啓発の面で、子ども達に拾ってもらうのが大事なのではないかと。子供に注意されると大人はやらなくなるのではないかと
- 漂着ゴミのうち、木材などが多く、山の荒廃が原因ではないかと考えている。イノシシ、鹿の鳥獣被害によって、山の保水能力の低下や地形変動なども見られる。漂着ゴミ対策の一環として鳥獣被害対策も進めなければならないし、土壌が流出しないような対策をとることで、木材だとかそういったゴミが少なくなっていくのではないかと
- 日・韓・中の民間同士でのごみの現状を共有できる場を設けるためにも、まずは市民の意識を高め、みんなが頑張っている現状を作っていくといけない
- 韓国の環境団体と具体的な情報を共有しながら、日本も韓国もごみを削減していけるような取り組みをしていきたい。将来的には、日本・韓国・台湾・中国などの合同のシンポジウム・サミットの開催もしたい

## ふるさとづくり③: 貴重な資産・資源を継承・活用する

### 1) 固有の遺跡や文化財の保存と活用

- 消えゆく伝統料理の継承は課題。そば打ちなど、技術職を求める人材も来なくなっている。そば打ちの技術を伝承していきたい

### 2) 美しい景観の保全と未利用な資産の利活用

- 廃校を実際に利活用を進めようとしたときに、学校を市民や事業者が使うハードルが非常に高い。株式会社で営利団体であっても、産業を起こし雇用を有むこと自体が集落の維持に重要だと言える、公共的な施設を有効活用し、無償提供するの理由は理由がつかないと思う。市としても使用していない負の財産を手放すことはメリットが大きいのではないかと。市の財産として廃校を手放す事例を調べて欲しい

## 2. 地域づくり計画・地域づくり宣言～自分の地区をこうします！～

地域づくり宣言のうち、地区ごとに目指したい地区像について一覧にしています。

地域	校区	地域名	こんな地区にしていきたい！
巖原町	巖原北	曲・小浦・南室	3地区の人が元気を出して交流することで活気のあるまちになる。 そうすれば人気が高くなり人が集まって笑顔があふれるまちになる。
	巖原	阿須・棧原・宮谷・日吉・ 天道茂・中村・田淵・ 今屋敷・大手橋・国分・ 久田道・久田道西里	市民と行政が一体となって「美しい巖原城下町を共に創り、共に 歩く観光交流のまちづくり」 をテーマに、心が安らぎみんなが笑顔で暮らせる、素晴らしい巖原地区にしていきたい。
	久田	久田・白子・堀田	「豊かな自然と文化に育まれる ふれあいの里」
		尾浦	のんびり、自然にやさしい、人の和のある里づくり
		安神	安神(あんしん)して住み続けられるふるさとづくり
		内山・桃木	「うちんもんもどこんもんも寄ってこい内山」 ～人と人との交流を大切にする地区を目指して～
	旧久和・ 内院	久和	自然に恵まれた、活気ある農漁村 ①田舎の原風景を残しながら、自然と調和した地区 ②人との繋がり大切にし、子ども達の笑顔があふれる地区 ③安定・安心な暮らしのできる地区
		瀬	環境美化を目指す地域づくり 生ゴミの削減を目指す地域づくり 美しい農村風景のある地域づくり
		久根田舎	昔ながらの習わしの継続 田畑を続けていけるように地区として努力していく
		豆酸 豆酸上町・豆酸中町・ 豆酸浜町	地区の宝である地域資源を連関させた施策を展開し、交流人口の拡大を図り、人が集う 活気ある集落づくりを目指す。豊かな漁場による漁獲水産物の朝市の開催等模索し、併せて 耕作放棄地を利用し、EM等を活用した土に優しい減農薬による多様で儲かる農業の推 進、住民の所得の向上と環境の保全を図り、集落を維持し、活力のある地区にしていきたい。
	金田・ 阿連	小茂田	やる気・元気・笑顔 歴史と自然の集楽 (年をとっても支え合い健康で楽しく暮らし続けることができる地区を目指します)
		小茂田浜	海とともに生きる安全・安心・助け合いの小茂田浜。
		下原・床谷	トンネルくぐれば、活力と笑顔の集楽
日掛		* 安全・安心なふるさと * 訪れてみたいふるさと * 互いに助け合うふるさと	
上山		田舎らしさ(景観・人・伝統行事)を残す上山づくり	
椎根		ともに助けあい、支えあう美しいふるさと	
美津島町	中の町・日向・本町・ 住吉・宮の下・日の出	「きれい」、「住みやすい」、「安心」を感じられる地区 鶏知地区の中心を流れる鶏知川の環境改善への取り組み、地域行事の推進による区民 の交流、子供やお年寄りが安全に登下校、散歩できるような地区を目指します。	
	瀬原第1・瀬原第2	生活のための施設環境の向上とは反比例するように、新たな住居者や買い物客等が増える ことにより住民の「きずな」は希薄化し、ゴミのポイ捨て、犯罪率の増加など、新たな課題も 発生してきています。 このようなことから、これまで取り組んできたコミュニティ意識向上の事業に防犯意識を高める 活動を融合させ、市内一犯罪率の低い地区を目指し、瀬原第1地区、第2地区が一体と なって「安心・安全に住めるまち、住民のきずなの強いまちづくり」にしています。	
	樽ヶ浜	はなしあい♡ふれあい♡ゆずりあい♡～今から 一人から 心から～ 「楽しい」、「きれい」、「住みやすさ」を感じられる地区	
	大浜・高浜・西高浜	海と人と地域を大切にする安心安全な集落 はなしあい♡ふれあい♡ゆずりあい♡～今から 一人から 心から～	
	根緒	はなしあい♡ふれあい♡ゆずりあい♡～今から 一人から 心から～ 「みんなが健康で、活気のある安心して暮らせる地区」	
	黒瀬・洲藻・竹敷・屋ヶ浦	はなしあい♡ふれあい♡ゆずりあい♡～今から 一人から 心から～	

## 2. 地域づくり計画・地域づくり宣言～自分の地区をこうします！～(続き)

地域	校区	地域名	こんな地区にしていきます！
美津島町	鶏鳴	箕形	はなしい♡ふれあい♡ゆずりあい♡～今から 一人から 心から～ 伝統行事が残る世代間のつながりある地区
		吹崎	これから先も安心して元気な地区を目指して はなしい♡ふれあい♡ゆずりあい♡～今から 一人から 心から～
	今里	今里	子供たちが将来住みたいと思う地区
		尾崎	・豊かな海を守り、ゴミの無いきれいな地区。 ・気持ち良くあいさつをする、元気で明るい地区。 ・地区のみんなで助け合う、仲の良い住みよい地区。 ・地区を出た人もまた帰ってきたくなる地区。
	大船越	島山	暮らしの快適さと自然のゆとりが調和したふるさと
		平瀬原	地域間交流で絆を深める地区
		緒方	「心かよわせ、みんなでつくる、自然豊かな緒方地区」 1) 暮らしの快適さと自然のゆとりが調和した地区 2) 人と人のつながりを大切に、笑顔をつくりだす地区 3) 安全・安心な暮らしのできる地区
豊玉町	豊玉	仁位	対馬の中央部に位置する仁位地区は、交流によって地区の活性化を目指します！ 仁位地区を誇りに思えるように！ みんなが住み続けたいと思えるように！ 島外からの赴任者が『仁位に住めて良かった』と思えるように！
		卯麦	やる気・元気・笑顔を絶やさない歴史と自然の卯麦集楽
		佐保	①高齢化の集落でできる取り組みを習慣化していきます。 ②子や孫やひ孫が帰省を楽しみにする、郷帰り推進化を目指します。
	乙宮	曾	みんなで協力しながら、安心して暮らせる「曾地区」
	旧南	貝口	～ 笑うて元気！ とにかく集まろうやないか！おっだちゃ、貝口んもんやちゃ！～
	小綱	志多浦・大綱・小綱・銘・田	元気と笑顔があふれ自然と共に生きる地区を目指します。(綱島地域)
峰町	西	三根上	この先、人口を増やすことは難しい・・・ならば 三根上地区と“関わる人”を増やそう！
		三根下	故郷を思う誰しものが、帰りたくなる癒やしの集落
		三根浜	1) 地域の繋がりが強く、子供の元気な声が聞こえる三根浜 2) 毎日の生活に必要な買い物物が三根浜地区でき、三根圏域の買い物エリア(商店3、理髪店3、美容室3、電気店1、建材店1、農協 → 三根浜地区に集中) 3) 高潮など災害に強い地域
		津柳	話し合い、協力し合い、地区の問題に取り組んでいきます。
		青海	先人達が開墾した、青海の段々畑を地域一帯となって守り、地域内外との交流を図っていきます。
		木坂	ふれあい・つながりのある、みんなが安心して暮らせる地区
		狩尾	山や川、海などの自然は私たちが受け継いだときよりもきれいにして次の世代に残します。一人ひとりが少しでもごみを減らす努力をして、きれいで豊かな海を未来につなぎます。
		賀佐	みんなが健康で交流の場を大切に、安心して暮らせる地区
		吉田	いつまでも住み続けたいと思うかけがえのない故郷 故郷を離れた人が帰ってきたくなる癒やしの集落
	東	榑	○安心して暮らせる「榑」をつくる。 ○「榑」の子供たちを守る。 ○「榑」の自然を守る。



## 2. 地域づくり計画・地域づくり宣言～自分の地区をこうします！～(続き)

地域	校区	地域名	こんな地区にしていきます！
峰町	東	佐賀	子ども大人も“佐賀地区が好きである！”という愛着や、地域で共に生きていくという喜び、一体感。あいさつから始まるコミュニケーションづくりを大切に、誰でも「この人が佐賀のどのあたりに住んでいて、どういう名前の人」であるか、基本的な人と人とのつながりがわかりあえる地区にします。 また、関係機関と協議し、広大な市有地「千先半島」に地域とともにつくる個性豊かな賑わいの場「道の駅」を開設します。地区の商業者と漁業者が連携して1.5次産業化を推進し地場産品の販売や地域の魅力の発信はもとより、文化の振興や広域情報の発信、買い物弱者への日用品の宅配サービス、独居老人の安否確認等も含めた地域の生活機能の拠点、地域の伝承文化等の伝承の場を開設し、夢のある地域づくりを目指します。 さらに、佐賀地区内「花いっぱい運動」を展開し、地区を訪れた人に癒やしを提供していく地区であるとともに、ゴミのない気持ち良く生活できる地区の実現に向けて地区住民が協働して取り組みます。
		志越	海がきれいで漁が盛んな、安全・安心で快適な暮らしがおくれる、元気な笑顔あふれる地区を創ります。
上県町	旧久原	鹿見・久原・女連	当該地区にはこの地区にしかない名所・旧跡地等がいくつもありますが、その観光資源ともいえるものを活かしきっていないのが現状です。 そこで、2015年に「原田三郎衛門」が、サツマイモを入植して300年を迎える記念の年であり、祭りを計画し対馬の島内外にその功績を知らしめるとともに、地域内外の交流を深め活性化に寄与したい。また、久原小中学校跡地を利用して地域のいこいの場或いは地産地消の拠点づくり、また若者の定着を促す拠点づくり等に活用できないか関係機関と協議し夢のある地域づくりを目指したい。 さらに、黄金オニユリの発祥の地らしく花木が一年中咲き乱れ、訪れる人達へ癒やしを提供していく地区を目指すこととし、同時にゴミのない気持ち良く生活できる地区の実現に向けて地区住民が協働して取り組む地区にしていきたい。
	旧伊奈	志多留	<ul style="list-style-type: none"> <li>心落ち着く癒しの環境保持</li> <li>個々の生きがいの創造</li> <li>他を思いやる人間関係の構築</li> </ul>
	旧佐護	井口・友谷・湊・深山・恵古・仁田ノ内・中山	私たちは、対馬の中でも特色のある「佐護の宝」を誇り、次世代に引き継ぎながら、佐護の団結力で「健全で元気な佐護」にしていきます！
	佐須奈	佐須奈	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康・笑顔・生き生き。佐須奈。</li> <li>～子どもからお年寄りまで、みんなで育む、笑顔と元気なまちづくり～</li> </ul>
	仁田	瀬田1、2	<ul style="list-style-type: none"> <li>大人も子供も行きかう住民が一声かけて近況報告</li> <li>みんなが係わるアットホームな地区</li> <li>一次産業を盛んにし後継者不足を解消する6次産業化(若者が働ける職種を)</li> <li>仁田川、宮原川を昔の清流に</li> </ul>
上対馬町	比田勝	河内	みんなが花と自然を愛し、区民が一つになり、笑いあり、賢く明るい地区
		大浦	～地域の魅力を形に～ 「市が設置している生ゴミ用バケツを使おう」「地区独自の防災マップを作ろう」「櫓船を使って観光客を呼び込もう」など計17の行動計画を設定
		古里	地区内に子供の声が響き、活気があるので、高齢者とのコミュニケーションの場を積極的に提供できる環境作りを促進し、共助で助け合う地域づくりを展開します。また、地元民の感性＋転勤者の斬新な意見が融合できる環境にあるので、積極的に異業種間交流を図り、古里地区の将来像について語る場を提供できるように、地区集会所の有効利用、空き家を利用した憩いの場の創出に取り組みます。 韓国観光客が地区内にたくさん流入しており、地元にとって敬遠しがちな傾向があるが、プラス要素としてとらえ、地区のPRを図ると共に国際交流の場として積極的に交流できる地域づくりに取り組みます。
		西泊	先人の美拳とやさしさを後世に 日本海海戦時沈みゆくボートから脱出したロシア兵を温かく迎えた歴史があり、先人の美拳に学びながら、高齢世帯が悩む通院・買い物サービスや見守り等のネットワーク作りを進める。また、各行事など協力して行えるよう、情報の発信と共有を継続して行う。さらに、地域にある資源を活用し、訪れる観光客などが憩いを味わえるよう魅力ある西泊地区を目指していく。
	旧南陽	比田勝	豊かな自然の中、人が集まる活気にあふれる町
		琴・茂木	みんなが安心して、楽しく暮らせる郷
		一重	高齢者が生きがいをもって生活できる集落
		芦見	豊かな自然を大切にし、安心安全で笑顔あふれる地区

### 3. 対馬市総合計画等審議会委員名簿

番号	氏名	種別・分野	役職	
1	畑島 孝吉	対馬市農業委員会	会長	
2	佐伯 康弘	対馬市教育委員会	教育委員	
3	白水 研太郎	関係団体	対馬市商工会青年部	部長
4	井 勝則		対馬農業協同組合	営農部長
5	上原 正康		対馬森林組合	事業部長
6	東 真一		対馬地区漁協青壮年部連絡協議会	会長
7	笹山 吉文		長崎労働局対馬公共職業安定所	所長
8	西 護		(一社)対馬市観光物産協会	事務局長
9	龍井 久美		対馬市社会福祉協議会	事務局長
10	豊田 涼子		対馬市男女共同参画推進懇話会	会長
11	小島 武博		対馬市文化財保護審議会	会長
12	吉田 千鶴代		学識経験者	地域で子育てを楽しむ会
13	田川 耕太郎	長崎県立対馬高等学校		校長
14	川上 あゆみ	厳原南保育園		園長
15	八坂 貴宏	長崎県対馬病院		院長
16	松岡 法明	対馬野生生物保護センター		首席自然保護官
17	浅野 英明	壱岐対馬郵便局長会		鶏知郵便局長
18	石井 弘康	もりのめぐみ協同組合		代表理事

## 4. 前期計画と後期計画の施策の対照表

前期	後期
1-1-1 手厚い出産・子育て支援	1-2-1 出産・子育ての手厚い支援
1-1-2 地域を愛せる心豊かな子どもを育む教育の推進	1-2-2 郷土を愛する“対馬っ子”の育成
1-2-1 対馬3高校への支援	1-2-2 郷土を愛する“対馬っ子”の育成
1-2-2 対馬の若者の定住支援	1-1-1 若者の移住・定住の推進
1-3-1 島外からの移住・定住支援	1-1-1 若者の移住・定住の推進
1-3-2 大学と地域との連携推進	1-3-1 大学と地域との連携推進
2-1-1 資源の有効活用による水産業の活性化	2-1-1 持続可能な水産業の推進
2-1-2 農地の有効活用と農業所得の向上	2-1-2 持続可能な農林業の推進
2-1-3 森林資源の有効活用の推進	2-1-2 持続可能な農林業の推進
2-2-1 島内での供給システムの構築	2-2-2 地産地消の推進と持続可能な流通体制の構築
2-2-2 新規参入事業者の誘致と既存事業者への支援による商工業の活性化(新規参入事業者の誘致・支援)	2-3-2 新たな産業の創出と持続可能な企業経営
2-2-2 新規参入事業者の誘致と既存事業者への支援による商工業の活性化(既存事業者の活性化の推進)	2-3-1 対馬産品の魅力化と持続可能な商工業の推進
2-2-2 新規参入事業者の誘致と既存事業者への支援による商工業の活性化(対馬産品の島内供給システムの確立)	2-2-2 地産地消の推進と持続可能な流通体制の構築
2-2-2 新規参入事業者の誘致と既存事業者への支援による商工業の活性化(買い物支援の推進)	3-2-2 福祉の充実と地域包括ケアシステムの構築
2-2-3 島外での販売に向けた推進体制の強化	2-3-1 対馬産品の魅力化と持続可能な商工業の推進
2-3-1 観光客への発信・PRの強化	2-2-1 持続可能な観光業の推進
2-3-1 観光客への発信・PRの強化(国内へのPR・国外へのPR)	3-1-2 国内外の交流の推進
2-3-2 観光客の受入体制の整備	2-2-1 持続可能な観光業の推進
2-3-2 観光客の受入体制の整備(各種イベントの開催)	3-1-2 国内外の交流の推進
2-3-3 外国人観光客へのきめ細やかな対応	2-2-1 持続可能な観光業の推進
2-3-3 外国人観光客へのきめ細やかな対応(市民への普及啓発)	3-1-2 国内外の交流の推進
2-4-1 創業等支援事業の推進	2-3-2 新たな産業の創出と持続可能な企業経営
3-1-1 救急医療体制の充実	3-2-1 健康づくりと医療体制の充実
3-1-2 対馬版地域包括ケアシステムの構築	3-2-2 福祉の充実と地域包括ケアシステムの構築
3-1-3 高齢者・障がい者の生きがいの創出(高齢者の見守り体制の構築)	3-2-2 福祉の充実と地域包括ケアシステムの構築
3-1-3 高齢者・障がい者の生きがいの創出(社会参画と雇用創出の推進)	1-1-2 対馬らしい働き方の検討・生きがいの創出
3-2-1 島内の道路網の整備	3-3-1 生活インフラの維持と安心・安全のまちづくり
3-2-2 島内の公共交通の利便性向上	3-3-2 島内外の交通システムの利便性向上
3-2-3 島外への交通アクセスの利便性向上	3-3-2 島内外の交通システムの利便性向上
3-3-1 市民協働によるまちづくりの推進	3-1-1 多様な交流による地域づくりの推進
3-3-2 地域で進める健康増進	3-2-1 健康づくりと医療体制の充実
3-3-3 市政や地域の情報発信	1-3-2 生涯学習の推進と広報公聴の強化
4-1-1 校区単位での暮らしの基盤整備(公共資産の利活用の推進)	4-3-2 美しい景観の保全と未利用な資産の利活用
4-1-1 校区単位での暮らしの基盤整備(小さな拠点づくり)	3-2-2 福祉の充実と地域包括ケアシステムの構築
4-1-2 産業振興のための基盤整備(エネルギー)	4-2-2 再生可能エネルギーの推進
4-1-2 産業振興のための基盤整備(まちの景観保全)	4-3-2 美しい景観の保全と未利用な資産の利活用
4-1-2 産業振興のための基盤整備(観光基盤の整備)	2-2-1 持続可能な観光業の推進
4-1-2 産業振興のための基盤整備(漁港の整備等)	2-1-1 持続可能な水産業の推進
4-1-2 産業振興のための基盤整備(農林道の整備等)	2-1-2 持続可能な農林業の推進
4-1-3 安全安心のまちづくりの推進	3-3-1 生活インフラの維持と安心・安全のまちづくり
4-1-4 地域資源を活かしたエネルギーの自立	4-2-2 再生可能エネルギーの推進
4-2-1 対馬固有の遺跡や文化財の保存・活用	4-3-1 固有の遺跡や文化財の保存と活用
4-2-2 地域の特性を生かした生涯学習の推進	1-3-2 生涯学習の推進と広報公聴の強化
4-3-1 漂流・漂着ごみの回収	4-2-1 ごみの削減とリサイクルの推進
4-3-2 ごみの削減とリサイクルの推進	4-2-1 ごみの削減とリサイクルの推進
4-4-1 里地～ヤマネコ・野鳥との共生～	4-1-1 多様な生物と共生する里地里山づくり
4-4-2 里山～シカ・イノシシ対策の推進～	4-1-1 多様な生物と共生する里地里山づくり
4-4-3 里海～海洋保護区設定の推進～	4-1-2 海洋資源の保護と豊かな里海づくり
【未記載】その他の福祉関係の施策	3-2-2 福祉の充実と地域包括ケアシステムの構築
【未記載】医療体制の維持	3-2-1 健康づくりと医療体制の充実
【未記載】韓国人観光客の減少やコロナウィルスに対する経営支援	2-3-2 新たな産業の創出と持続可能な企業経営
【未記載】女性が活躍する場づくり	1-1-2 対馬らしい働き方の検討・生きがいの創出
【未記載】水道システムの維持	3-3-1 生活インフラの維持と安心・安全のまちづくり
【未記載】多様な立場にある人・組織間の交流・連携の強化	3-1-2 国内外の交流の推進
【未記載】働き方改革の推進	1-1-2 対馬らしい働き方の検討・生きがいの創出
【未記載】有人国境離島の雇用拡充支援事業	2-3-2 新たな産業の創出と持続可能な企業経営



## 5. 用語解説

	用語	意味
あ行	空き家バンク制度	対馬市内の空き家所有者の方から申込を受けた情報をUターン希望者の方々に情報提供を行うシステム。
	域学連携	対馬市が推進している施策の一つ。地域と大学が協力して対馬の地域づくりを行う。その基本理念は、「地域と大学が連携し、相互に学び合いながら、対馬の新たな価値を創造し、持続可能な産業を創り出す」こと。
	東京一極集中	日本において、政治・経済・文化・人口など、社会における資本・資源・活動が東京都区部、あるいは首都圏(東京圏)のなかでも1都3県(東京都を筆頭に神奈川県、埼玉県、千葉県)に集中している状況。
	エコツーリズム	自然環境の他、文化・歴史等を観光の対象としながら、その持続可能性を考慮するツーリズム(旅行、レクリエーションのあり方)のこと。
	温室効果ガス	温室効果ガスとは、大気圏にあって、地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより、温室効果をもたらす気体のこと。水蒸気や二酸化炭素などが温室効果ガスに該当する。
か行	海洋保護区	海の生態系保全を目的とした自然保護区の一般的な呼称。漁業で乱獲され、または生態系や生息環境の破壊等により絶滅が危惧されている海洋生物の保全、魚類の繁殖地等の地形の保全を目的に設けられる。資源をとりすぎず、持続可能な形で利用するために設けられることもある。
	化石燃料	地質時代にかけて堆積した動植物等の死骸が地中に堆積し、長い年月をかけて地圧・地熱等により変成されてできた、言わば化石となった有機物のうち、人間の経済活動で燃料として用いられる(または今後用いられることが検討されている)ものの総称。現在使われている主なものに、石炭、石油、天然ガス等がある。
	原始林	伐採や災害等によって破壊されたことがなく、またほとんど人手が加えられたことのない自然のままの森林。
	経済至上主義	経済(利益)を至上のものと定義づけ、それを追究する主義・思想。
	木庭作	対馬の伝統農法であり、山の斜面を利用して焼き畑を行い、作物を栽培するもの。
	高付加価値化	価格が高くても購買客に満足を与えるだけの価値をつけること。
	コーディネーター	物事を調整すること。間に立ってまとめること。
	合計特殊出生率	人口統計上の指標で、一人の女性が一生に産む子供の平均数。この指標によって、異なる時代異なる集団間の出生による人口の自然増減を比較・評価することができる。
	コンソーシアム	2つ以上の個人、企業、団体、行政から成る団体であり、共同で何らかの目的に沿った行動を行ったり、共通の目標に向かって資源を蓄える目的で結成する共同事業体
	さ行	再生可能エネルギー
サポートショップ		地域の活性化を応援する店の総称。地域の観光パンフレットを置く店や、特産物の販売や食材として使っている店として、自治体等が登録し、地域の魅力発信に貢献している。
産業の空洞化		国内企業の生産拠点が海外に移転することにより、当該国内産業が衰退していく現象。
在来種		ある地域で人間の影響を受ける以前から繁殖し続けている生物。
次世代エネルギー		バイオマス、太陽熱利用、雪氷熱利用、地熱発電、風力発電、太陽光発電等であり、すべて再生可能エネルギー。
持続可能な社会		現代の世代が、将来の世代の利益や要求を充足する能力を損なわない範囲内で環境を利用し要求を満たす社会。
自伐林業		山林所有の有無、あるいは所有規模にこだわらずに、森林の経営や管理、施業を自ら(山林所有者や地域)が行う、自立・自営型の林業。
ステークホルダー		利害と行動に直接・間接的に影響を受ける利害関係者のこと
生産年齢人口		各国の国内で行われている生産活動に就いている中核の労働力となるような年齢の人口のこと。

## 5. 用語解説(続き)

	用語	意味
さ行	スローライフ	生活様式に関する思想の一つ。ファストフードに対して唱えられたスローフードから派生した考え方で、大量生産・高速型のライフスタイルに対して、ゆっくりした暮らしを提案するもの。
	生物多様性	生物に関する多様性を示す概念である。生態系・生物群系または地球全体に、多様な生物が存在していることを指す。生態系の多様性、種多様性、遺伝的多様性(遺伝子の多様性、種内の多様性ともいう)から構成される。
	絶滅危惧種	絶滅の危機にある生物種のこと。
	ゼロエミッション	国連大学が1994年に提唱した構想。人間の経済活動による自然界への排出をゼロにする仕組みを構築すること。
た行	地域包括ケアシステム	高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的に、可能な限り住み慣れた地域で生活を維持することができような包括的な支援・サービス提供体制のこと。
	地域マネージャー制度	各地域(行政区)において、地域を担当する対馬市職員が、一緒に汗を流し、生活に身近な課題の解決や地域の将来について、話し合い、行動する制度。
	ツマアカスズメバチ	中国、台湾、東南アジアが原産のスズメバチで、近年対馬に侵入してきた。主にミツバチ等の昆虫類を補食するため、養蜂業への影響が懸念される。
	天然記念物	動物、植物、地質・鉱物等の自然物に関する記念物である。
	特定外来種	生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から環境省が外来生物法に基づき、特に影響が大きいとされる外来の生物。
な行	南海トラフ巨大地震	フィリピン海プレートとアムールプレートとのプレート境界の沈み込み帯である南海トラフ沿いで発生する巨大地震のこと。
	ニート	NEET。not in education, employment or training の略。15歳から34歳までの、家事・通学・就業をせず、職業訓練も受けていない者。
は行	ハザードマップ	自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの。予測される災害の発生地点、被害の拡大範囲および被害程度、さらには避難経路、避難場所等の情報が既存の地図上に図示されている。
	ハンズオン	体験学習を意味する教育用語。投資する組織が、投資先の企業の経営に深く関与することを表す言葉として使われる。
	働き方改革	日本の一億総活躍社会実現に向けた最大のチャレンジとして、これまで当たり前だった日本企業の労働環境を大幅に見直す取り組みを指す。
	バリアフリー	対象者である障がい者を含む高齢者等の社会的弱者が、社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障害や、精神的な障壁を取り除くための施策、若しくは具体的に障害を取り除いた事物および状態を指す用語。
	ビッグデータ	一般的なデータ管理・処理ソフトウェアで扱うことが困難なほど巨大で複雑なデータの集合を表す用語

## 5. 用語解説(続き)

	用語	意味
ま行	まち・ひと・しごと創生法	少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための法律。
	木質バイオマス	樹木の伐採や造材のときに発生した枝、葉等の林地残材、製材工場等から発生する樹皮やのこ屑等のほか、住宅の解体材や街路樹の剪定枝等の木材からなる、再生可能な、生物由来の有機性資源のこと。
	モニタリング	状態を把握するために、観測や測定を行うこと。
や行	有形文化財	建造物(不動産)や美術工芸品(動産・可動文化財)等の有形の文化的所産。
	洋上風力	
ら行	リアス式海岸	せまい湾が複雑に入り込んだ沈水海岸のこと。
	リモートワーク	会社から離れた場所で働くという意味のこと。
	ロハス	LOHAS(lifestyles of health and sustainabilityの略)は、健康で持続可能な、またこれを重視する生活様式の頭文字をとった略語で、健康と地球環境に意識の高いライフスタイルをさす用語。
わ行	ワーキングプア	貧困線以下で労働する人々のこと。
4	4R	廃棄物減量のキャッチフレーズ。不要なもの、余計なものは「いりません」と断るリフューズ(Refuse)、ごみを減らすリデュース(Reduce)、まだ使えるものを、繰り返し使うリユース(Reuse)、資源としてまた利用するリサイクル(Recycle)の4つの頭文字Rからくる。
A	AI	人工知能(artificial intelligence)の略。人間の知的能力をコンピュータ上で実現する、様々な技術・ソフトウェア・コンピュータシステム。
E	ESD	Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」。現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。
G	GPS	Global Positioning Systemの略で、アメリカ合衆国によって運用される衛星測位システム(地球上の現在位置を測定するためのシステム)を指す。
	GDP	国内総生産のことで、一定期間内に国内で新たに生み出されたモノやサービスの付加価値のこと。
P	PR	Public Relationsの略。国家・企業・団体等の組織体または個人が、一般大衆に対して情報を伝播したり情報や意見を受け入れること。
S	SNS	Social Networking Serviceの略。インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク(ソーシャル・ネットワーク)を構築するサービスのことである。Facebook、YouTube、mixi、LINE等がある。
	Society 5.0	日本が提唱する未来社会のコンセプトであり、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)のこと。
W	Wi-Fi	Wireless Fidelityの略。無線LAN(ケーブルを使用せずにインターネット回線に接続する仕組み)の規格のひとつ。ワイファイと呼ぶ。







みんな目指そう!

自立と循環の宝の島 対馬

2021~2025



第2次対馬市総合計画(後期計画)

発行：対馬市しまづくり推進部政策企画課

TEL:0920-53-6111

FAX：0920-53-6112

対馬市オフィシャルホームページ▶

